

エゾノヒメクラマゴケ *Selaginella helvetica* (L.) Link

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有度階級 3。愛知県では極めて希少な寒冷地性の植物で、分布域の南限にあたり、しかも標高 1000m 以下の場所に生育している。

【形態】

常緑性の多年生シダ植物。主茎は匍匐し、長さ 5~10cm、よく分岐してマット状になり、幅は葉を含めて約 3mm、黄緑色でやわらかい。葉は 4 列に並び、卵形で鈍頭の腹葉と、狭卵形で鋭頭の背葉の 2 形があり、腹葉の長さは 1~1.5mm である。直立茎は高さ 2~8cm になり、卵形の葉がまばらにつく。胞子のうは直立茎先端部の葉腋につき、胞子のう穂はあまりはつきりしない。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽東部（芹沢 76208）。1 カ所に小群落がある。

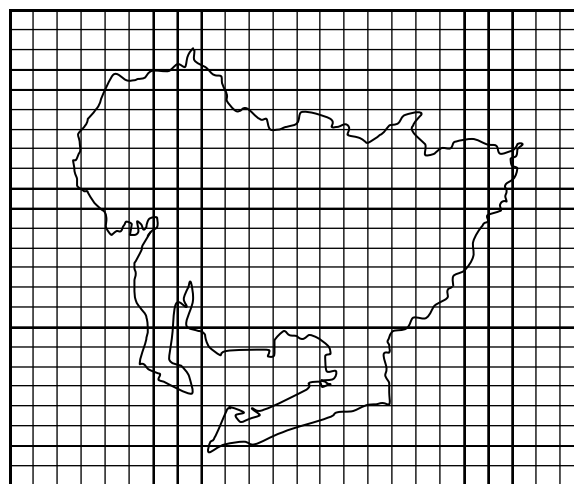
【国内の分布】

北海道、本州（静岡県、長野県以北）に分布し、滋賀県、京都府、鳥取県にもある。

【世界の分布】

ユーラシア大陸北部に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

通常は亜高山帯、高山帯の湿った岩かげに生育しているが、愛知県での生育地はやや乾燥した岩上である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

急峻な地形のため十分に調査されていないが、確認できたのは 20cm 四方ほどの小群落にすぎない。当面開発が想定される場所ではないが、何かの事情があれば容易に絶滅してしまう。

【保全上の留意点】

遊歩道の改修などに際しては、特に注意が必要である。

【特記事項】

愛知県のものは、本種としては葉が比較的大きい。

【関連文献】

保シダ p.18、平シダ p.53。
倉田 悟・中池敏之(編), 1990. 日本のシダ植物図鑑 6: 134-138. 東京大学出版会, 東京。

チチブホラゴケ *Crepidomanes schmidtianum* (Zenker ex Tasch.) K.Iwats.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。日本から中国大陸南部にかけての湿潤な山地に分布の中心をもつ、いわゆる日華区系の植物。愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

小型の常緑性多年生草本。根茎は長くはい、褐色の毛を密につけ、根をまばらに生じる。葉身は 2 回羽状深裂し、形や大きさは変異が大きく、小さいものは三角状の卵形、大きいものは卵状披針形、長さ 1.5~7cm、幅 1~3cm、裂片の幅は 1.5mm 程度で隣接のものと重なり合うことが多い。胞子のう群は基部近くの短い側羽片に頂生し、包膜はコップ状である。

【分布の概要】

【県内の分布】

津具 (小林 83652)、東栄 (小林 56444)。
各 1 カ所に小群落がある。

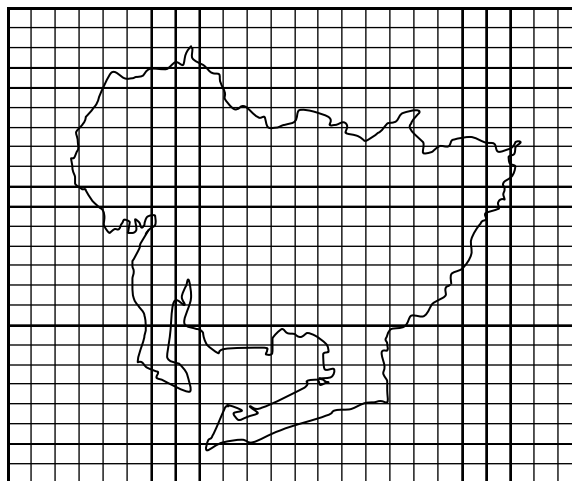
【国内の分布】

本州 (福島県、関東地方北部および西部、中部地方中部、紀伊半島)、四国 (徳島県、高知県)、九州 (中部)。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸、ヒマラヤ。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

深山の沢沿いの林内にある陰湿な岩上に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

愛知県の 2 産地はどちらも生育状況が悪く、ほとんど胞子のう群をつけていない。森林の伐採や土石流による消滅が危惧される。

【保全上の留意点】

沢沿いの森林を保全し、空中湿度の高い状態を維持しなければ、本種の存続は望めない。

【特記事項】

一見したところアオホラゴケに似ており、最近まで日本固有種と考えられていた。

【関連文献】

保シダ p.46、平シダ p.87。
倉田 悟・中池敏之(編), 1979. 日本のシダ植物図鑑 1: 66-69. 東京大学出版会, 東京。

タキミシダ *Antrophyum obovatum* Baker

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 4、固有度階級 2。全国的に見てもともと希少な上に減少傾向の著しい植物である。愛知県でも個体数が少なく、また園芸目的の採取圧が高い。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は短く、葉を束生する。葉柄は暗緑色～暗褐色で長さ 2～8cm、葉身は倒卵形～楕円形で単葉、通常長さ 5cm 以下だが稀には 15cm に達し、革質で緑色、先端は鈍頭～鋭頭、時に浅く 2～3 裂し、基部はくさび形、葉脈は網状に結合し、葉の中肋ははっきりしない。胞子のう群は脈のくぼみに線状につき、包膜はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽東部（芹沢 59897）、鳳来北東部（芹沢 83845）、鳳来南部（小林 49303）、足助（堀田喜久 2243）、豊田東部（芹沢 76632）。豊橋北部（嵩山町、芹沢 42795, 1985-10-27）にもあったが、消失した。

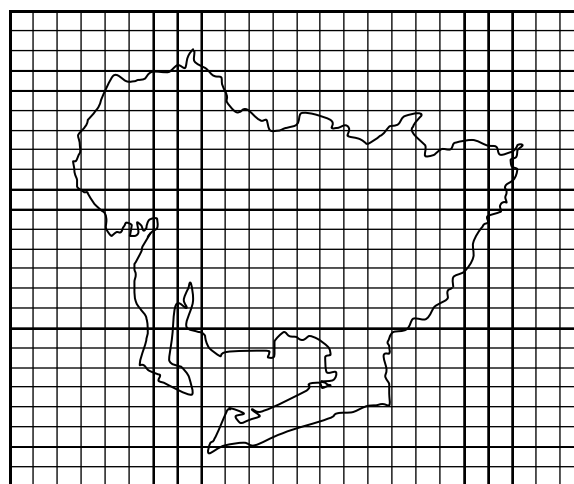
【国内の分布】

本州（富山県、千葉県以西）、四国、九州に生育するが、もともとあまり多くない上に園芸目的で集中的に採取され、どの場所でもほとんど絶滅状態である。

【世界の分布】

日本、中国大陸からインドシナ半島、マレーシアにかけて広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

沢沿いの薄暗い岩上。空中湿度の高い場所に生育しているが、岩そのものは湿潤でないことも多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

県内でも希少な種類であるが、それでも全国的に見れば、愛知県は本種の主要な産地の一つである。葉長 35cm に達する大形の個体が発見されたこともあるが、大部分は葉長 10cm 以下である。森林伐採の影響も皆無ではないが、それよりはるかに深刻なのは園芸目的の採取である。豊橋北部では道沿いに 1 株だけ生育しており、古い葉を 1 枚採取しただけで見守っていたが、何者かに採取されて消失した。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

タキミシダ属は旧世界の熱帯を中心に約 40 種が知られており、本種は其中で最も北まで分布している。

【関連文献】

保シダ p.168、平シダ p.128、SOS 旧版 p.37、環境庁 p.260、SOS 新版 p.27,28。
倉田 悟・中池敏之(編), 1987. 日本のシダ植物図鑑 5: 744-747. 東京大学出版会, 東京。

カミガモシダ *Asplenium oligophlebium* Baker

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 3。愛知県は本種が初めて発見された場所であり、岐阜県と共に太平洋側の分布の東限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は短く、葉を束生する。葉柄は長さ 2~8cm、紫~茶褐色で光沢があり、繊細で折れやすい。葉身は線形~狭披針形、単羽状に切れ込み、長さ 7~20cm、幅 1.5~3.5cm、羽片は無柄で、基部前側に耳状突起があるため、三角状長楕円形になる。羽片の辺縁は羽状に中~深裂する。胞子のう群は長楕円形~線形で、各羽片に数個つく。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川宝飯（小林 77538）、犬山（芹沢 44807）。2カ所に少数個体が生育しているだけである。岐阜県南部には点在している。

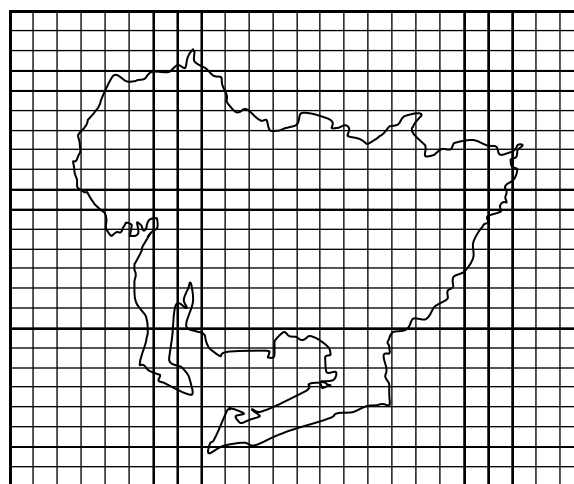
【国内の分布】

本州（新潟県、岐阜県以西）、四国、九州、琉球（徳之島）に分布するが、多いものではない。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

通常は林内の岩上に生育し、葉の先端につく無性芽で栄養的に繁殖して群落を作る。豊川宝飯では、ヒノキ林の地上に生育しているという。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

各 1カ所に小群落があるだけで、個体数も少ない。犬山では周辺が採石場として開発されており、それによる林内の乾燥が、衰退の主要因と思われる。近縁のヌリトラノオ *A. normale* D. Don との自然雑種と推定されるアイヌリトラノオは、周辺に比較的多く生育している。

【保全上の留意点】

犬山では、採石場を拡大せず、生育地の森林を保全することが必要である。よく知られた場所であるが、歴史的に重要な生育地であり、マニアに採集されるおそれもあるので、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、京都の上賀茂に因む。愛知県の発見地に因む名もあるが、一般には使用されない。

【関連文献】

保シダ p.148、平シダ p.149、SOS 旧版 p.38、SOS 新版 p.34,36。
倉田 悟・中池敏之(編), 1981. 日本のシダ植物図鑑 2: 120-123. 東京大学出版会, 東京。

ヒノキシダ *Asplenium prolongatum* Hook.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。暖地性の植物で、愛知県は分布域の北限に近い。県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は短く、葉を束生する。葉柄は緑色、長さ 5~10cm、基部に早落性の鱗片をつける。葉身は狭長楕円形から披針形、2~3 回羽状複生、長さ 10~20cm、幅 2~3cm、葉軸の先端はつる状に伸びて先端に芽をつける。羽片は 10~15 対、小羽片は単生か 2~3 個に切れ込む。裂片は線形、鈍頭で幅 1.5mm 程度である。胞子のう群は各裂片に 1 個ずつつく。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来北東部 (加藤等次 s.n.)。1 カ所に小群落がある。

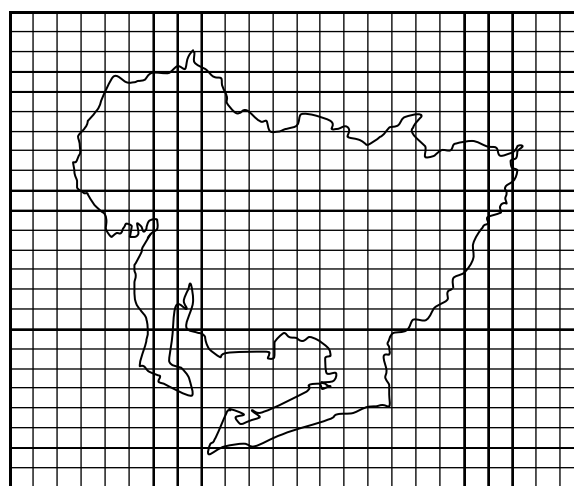
【国内の分布】

本州 (伊豆半島、静岡県西部、愛知県、紀伊半島)、四国南部、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、中国、ベトナムから、インド、スリランカにかけて分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

沢沿いの林内の岩上に生育する。つるを伸ばして無性的に繁殖するため、しばしば群落を作る。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

愛知県のもものは小群落で、葉は大きいもので葉柄を含め 25cm 程度。現在のところ特に減少してはいないという話で、また当面開発の心配もなさそうであるが、園芸目的で採取される可能性は高い。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【関連文献】

保シダ p.150、平シダ p.145、SOS 旧版 p.39。
倉田 悟・中池敏之(編), 1981. 日本のシダ植物図鑑 2: 134-138. 東京大学出版会, 東京。

タカサゴシダ *Dryopteris formosana* (Christ) C.Chr.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。日本では隔離的に分布している希少種で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。なお、ここで絶滅危惧 I B 類としたのは典型的なものに限定しての評価であり、トウゴクシダ *D. nipponensis* Koidz. との中間型は対象外である。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は斜上し、先端に少数の葉を束生する。葉柄は長さ 30~60cm、下部に黒褐色の鱗片がつく。葉身は卵状三角形または五角形、3 回羽状深~全裂し、長さ 30~50cm、幅 25~35cm、最下羽片は柄が短く非相称の三角形で、下向き第 1 小羽片は長くのびる。羽軸や小羽軸には小さな袋状の鱗片が多い。胞子のう群は小羽片の辺縁と小羽軸の中間につき、包膜は円腎形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

犬山 (芹沢 44810)。典型的なものは、愛知県内では 1 カ所に小群落があるだけである。

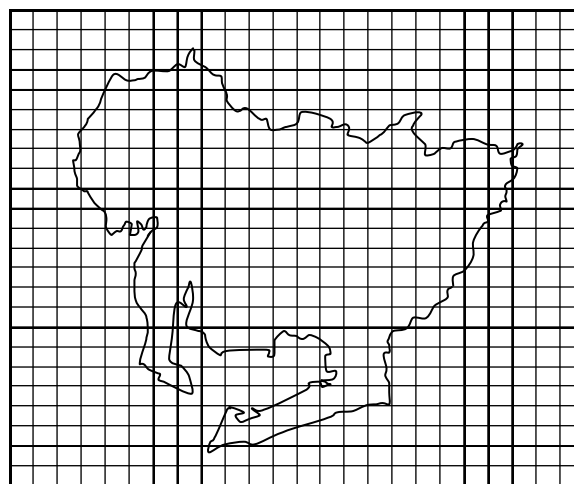
【国内の分布】

本州 (東海地方、近畿地方、山口県)、九州に分布し、屋久島には比較的多いが、他の場所では稀である。愛知県は、静岡県小笠山に次ぐ東限の自生地である。

【世界の分布】

日本、台湾、フィリピンに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

沢沿いのやや乾燥した林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

個体数は少なく、生育状態もあまりよくない。周辺部の開発による森林の乾燥化が、衰退の主要因と思われる。

【保全上の留意点】

自生地の森林を保全する必要がある。

【特記事項】

ベニシダ類は日本列島西南部で多様に分化し、無融合生殖複合群を作っているが、本種はその中で基本的な種の一つと考えられている。トウゴクシダとの中間型は、豊橋北部に小群落があり、藤岡でも採集されたことがある。トウゴクシダ (名古屋市東谷山に因む名で、東国シダではない) 自体も、本種とホコザキベニシダまたはハチジョウベニシダとの中間型である。

【関連文献】

保シダ p.104、平シダ p.196。

倉田 悟・中池敏之(編), 1979.日本のシダ植物図鑑 1: 444-447. 東京大学出版会, 東京。

ホソイノデ *Polystichum braunii* (Spenn.) Fée

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。温帯性の植物で、愛知県は分布域の南限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は短く、斜上または直立し、葉を叢生する。葉柄は葉身よりはるかに短く、長さ数 cm、鱗片は単褐色で膜質である。葉身は倒披針形で 2 回羽状複生、長さ 30~60cm、幅約 20cm、下部の羽片は次第に短くなり、最下のはしばしばほとんど耳状になる。小羽片は独立し、鈍頭~円頭、基部は不相称で、前側は耳垂状になる。胞子のう群は小羽片の中肋寄りにつき、包膜は円形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部(村松 15904)、鳳来北東部(芹沢 81639)。豊根(茶白山, 芹沢 28108, 1978-5-31)で採集された標本もあるが、ここでは現存が確認できない。

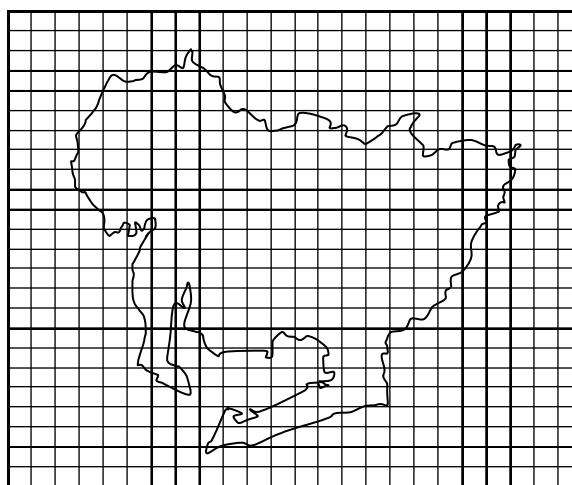
【国内の分布】

北海道と本州(中部地方以北)の山地に多く、鳥取県大山と山口県笠山の風穴近くに隔離分布する。

【世界の分布】

北半球の温帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の沢沿いの林内。愛知県の場合、鳳来北東部は風穴の近くに生育しており、温帯性植物が低標高地に生育する例として貴重なものである。設楽西部は沢沿いの岩上に生育しており、豊根は温帯林の平坦な林床に生育していた。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

鳳来北東部では葉長 50cm ほどのものが十数個体生育している。設楽西部では葉長 10cm ほどの小さい個体が少数生育してただけで、胞子もつけていなかった。

【保全上の留意点】

生育地の沢沿いの森林を保全することが必要である。

【特記事項】

イノデ類の中では数少ない温帯性の種である。和名は、下部の羽片が短くなるため、葉身下部が細まることによる。葉身全体が他のイノデ類に比べて特に細いわけではない。

【関連文献】

保シダ p.83、平シダ p.171。

倉田 悟・中池敏之(編), 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 318-324. 東京大学出版会, 東京。

ヨコグラヒメワラビ *Thelypteris hattorii* (H.Ito) Tagawa

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。西南日本の深山に生育する日華区系の種で、三河山地は木曾谷の下部とともに、分布域の東限にあたる。県内の生育地も少ない。総点は 13 であるが、シカによる食害が懸念されるため EN と評価する。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は短くはい、先端に少数の葉をつける。葉柄は長さ 17~35cm、わら色か淡緑色で、全面に単細胞の短毛がある。葉身は三角状卵形、3 回羽状中~深裂、長さ 20~40cm、幅 15~30cm、最下羽片には通常ははっきりした柄がある。胞子のう群はやや辺縁よりにつき、包膜は円腎形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄 (小林 83429)、津具 (芹沢 74837)、設楽西部 (芹沢 79317)。鳳来 (区画不明) と作手にもあるという (小林, 2000)。どの区画でも生育地は 1~2 カ所である。

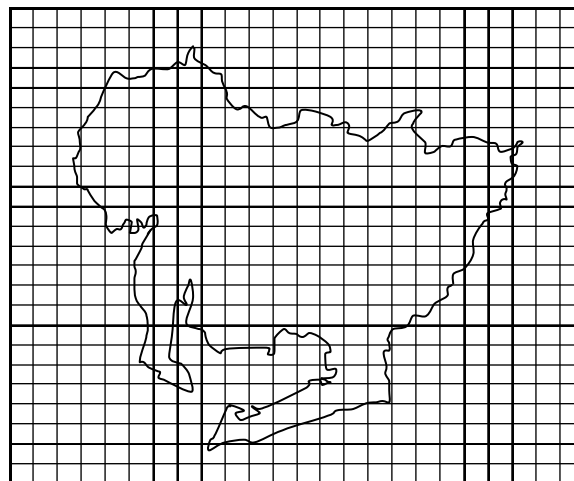
【国内の分布】

本州 (長野県西部、愛知県以西)、四国、九州に分布するが、多いものではない。

【世界の分布】

日本、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の腐植質の多い林床。生育地のほとんどは、自然度の高い森林である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

一般に群落を作らず、少数の個体がまばらに生育しているだけである。よく育った個体が全くないわけではないが、大部分は葉身の長さが 20cm 程度かそれ以下の個体である。第二次大戦後の自然林が広範囲に伐採された時代に激減したものと思われ、現在でも森林の伐採により減少傾向にある。

【保全上の留意点】

山地の自然林やよく発達した二次林の保全が必要である。

【特記事項】

和名は最初の発見地である高知県横倉山に因む。

【引用文献】

小林元男, 2000. 新城地方の植物 p.71. 愛知県, 名古屋.

【関連文献】

保シダ p.112、平シダ p.213、SOS 旧版 p.40。
倉田 悟・中池敏之 (編), 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 578-581. 東京大学出版会, 東京.

テツホシダ *Thelypteris interrupta* (Willd.) K.Iwats.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 2。暖地性の植物で、愛知県は分布域の北限に近い。県内では生育地が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

本来は常緑性だが、分布域の北限近くでは夏緑性になる多年生草本。根茎は長く横走し、ところどころから葉を出す。葉柄は長さ 30~60cm、葉身は広披針形、長さ 30~55cm、幅 15~30cm、先端は急に細まって小さな頂羽片状になり、下部の羽片もやや短くなる。羽片は線状披針形で鋭頭、基部は丸いくさび形、やわらかい革質で深緑色、羽状に浅~中裂する。裂片の最下の脈は、隣のものとは結合する。胞子のう群は円形~楕円形、裂片の辺縁近くにつき、包膜は円腎形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

田原赤羽根 (堀田喜久 3515)。1 カ所に小群落があっただけである。

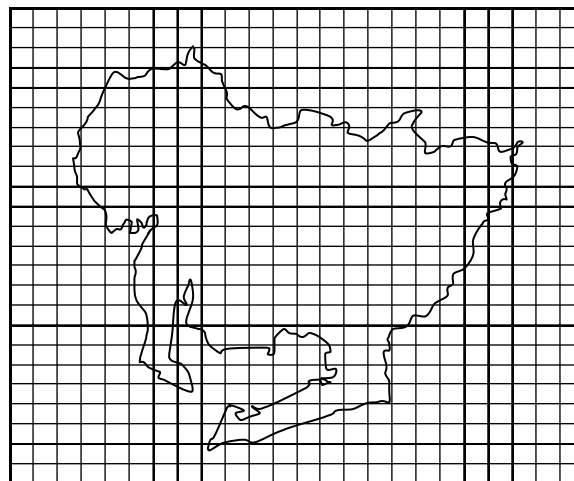
【国内の分布】

本州南部 (静岡県以西)、四国 (南東部)、九州、琉球。

【世界の分布】

世界の熱帯、亜熱帯に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸近くの日当たりのよい湿地に群生することが多いが、愛知県の場合は海岸近くの山の、沢沿いの湿地に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

葉柄の長さ 60cm、葉身の長さ 50cm、幅 30cm に達するよく生育した小群落があったが、遷移が進行して低木が繁茂し、衰退した。2008 年秋の調査では生育を確認できなかった。

【保全上の留意点】

十分に探索したわけではないので、まだ残存の可能性は残されている。生育地の低木を除去し、開けた環境を確保することが必要である。

【特記事項】

他のホシダ類に比べ葉が多少硬いので「テツホシダ」というが、鉄にたとえるほど硬いわけではない。

【関連文献】

保シダ p.115、平シダ p.214、SOS 旧版 p.40。
倉田 悟・中池敏之(編), 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 40-43. 東京大学出版会, 東京.

オオバシヨリマ *Thelypteris queipaertensis* (Christ) Ching

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は短く、斜上または直立し、葉を束生する。葉柄は長さ 20~40cm、わら色で、黄褐色の膜質の鱗片が密につく。葉身は倒披針形、2 回羽状深~全裂、長さ 50~80cm、幅 12~25cm、下部の羽片は次第に著しく短くなり、最下部のものは耳状となる。胞子のう群は裂片の辺縁よりにつき、包膜は円腎形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山 (小林 82031)、豊根 (村松 15640)、設楽西部 (村松 15819)。各 1 カ所に、少数株が生育しているだけである。

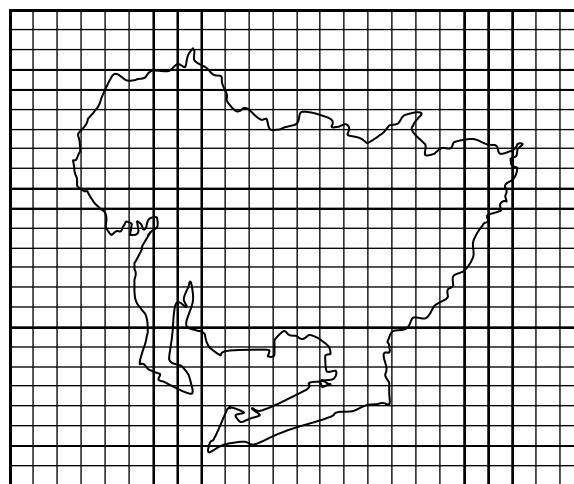
【国内の分布】

北海道、本州、四国の温帯域と屋久島の山地に生育している。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、千島列島、カムチャッカ、アリューシャン列島など。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

温帯林の林床や林縁、湿地などに生育する。愛知県の生育地は、いずれも林内の小湿地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

愛知県のもは葉長 70cm 程度で、やや小型であるが胞子のう群はよくつけている。道路改修、牧場の拡張などにより湿地が破壊されれば、愛知県では容易に絶滅してしまう植物である。シカによる食害も懸念される。

【保全上の留意点】

東三河のなだらかな山陵部に点在する小湿地は、拡大造林や牧場造成などにより、詳細な調査が行われないままほとんどが消滅している。現在残存している湿地は、特に注意して保全する必要がある。

【特記事項】

他の日本産ヒメシダ科植物からは、葉柄に鱗片が多いことで容易に区別できる。

【関連文献】

保シダ p.111、平シダ p.215。
倉田 悟・中池敏之(編), 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 666-672. 東京大学出版会, 東京。

ミヤマメシダ *Athyrium melanolepis* (Franch. et Sav.) Christ

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 2。温帯性の植物で、分布域の南限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は斜上し、葉を束生する。葉柄は葉身の半分以下で、緑色のものと紅色を帯びるものがある。葉柄の下部には、光沢のある黒色～黒栗色の鱗片が密生する。葉身は長楕円状披針形、3回羽状に切れ込み、長さ 50～70cm、幅 25～35cm、下部の羽片は次第に短くなる。胞子のう群は裂片の中肋近くにつき、包膜は鉤形のものが多い。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山 (芹沢 67286)、豊根 (村松 15774)。各 1カ所に、現在のところは 1株ずつ生育しているだけである。

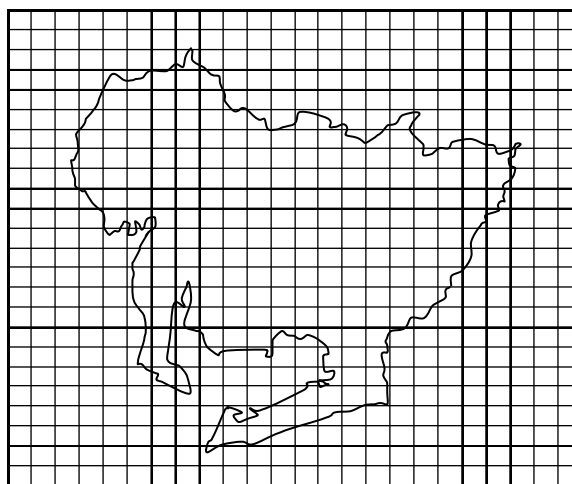
【国内の分布】

本州 (東北～中部地方および鳥取県大山) に分布する。北海道からの報告もあるが、近縁のエゾメシダ *A. brevifrons* Nakai ex Kitagawa との区別が難しいこともあり、集団レベルでの解析が必要である。

【世界の分布】

近隣地域での分布も十分検討されていない。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

温帯の山地林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

富山では、尾根近くの平坦な造林地の林内に 1株だけ生育していたもので、やや偶産的である。現在のところ特に状況が悪化してはいないが、森林の伐採等により消滅する可能性がある。シカによる食害も懸念される。豊根では他の場所にも生育していたが、砂防ダム工事により消滅した。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。

【関連文献】

保シダ p.121、平シダ p.235。
倉田 悟・中池敏之(編), 1990. 日本のシダ植物図鑑 6: 502-508. 東京大学出版会, 東京。

ヒロハノコギリシダ *Diplazium dilatatum* Blume

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。暖地性の大型のシダ植物で、愛知県は分布域の北限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎ははじめ横にはう（愛知県のものはこの状態）が、よく育った株では立ち上がって高さ 20cm 程度になる。葉柄は長さ 60~80cm、基部に線形、長さ 1~1.5cm で褐色~黒褐色の鱗片を密生する。葉身は卵状三角形、大きいものは長さ、幅とも 1m 以上になり、2 回羽状に切れ込み、小羽片は三角状披針形、鋸歯縁または羽状に浅裂する。胞子のう群は線形で長く、裂片の中肋に接してつく。

【分布の概要】

【県内の分布】

渥美（芹沢 83617）。

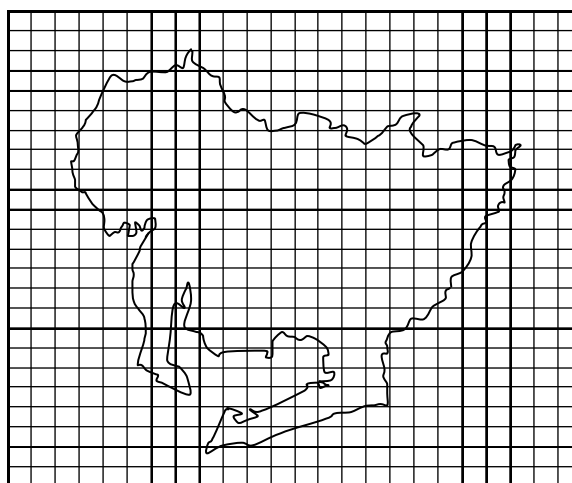
【国内の分布】

本州（愛知県、紀伊半島南部）、四国（南部）、九州（南部と五島列島）、琉球。屋久島以南では普通に見られるがそれより北では少なく、紀伊半島南部でも極めて稀である。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部、インドシナ、マレーシア、サモアなど。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

林床に生育する。沢沿いにもあるが、屋久島以南では里近くの平坦地の林内に群生することも多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

1 カ所に小群落（3 株）がある。葉柄は長さ 65cm、葉身は長さ 80cm に達し、生育状態は比較的良好である。

【保全上の留意点】

生育地は社寺林で、当面伐採されるおそれは少ない。ただし歩道のわきなので、境内整備等によって失われる可能性がある。

【特記事項】

2008 年の追加調査で愛知県での生育が確認された種類である。

【関連文献】

保シダ p.137、平シダ p.254..
倉田 悟・中池敏之(編), 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 92-95. 東京大学出版会, 東京.

シマシロヤマシダ *Diplazium doederleinii* (Luer) Makino

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 2。暖地性の大型のシダ植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

半常緑性または夏緑性の多年生草本。根茎は横にはい、先端に少数の葉を束生する。葉柄は長さ 30~70cm、基部の鱗片は目立たない。葉身は卵状三角形、長さ、幅とも 50~75cm、2 回羽状に切れ込み、小羽片は三角状広披針形、羽状に中~深裂する。胞子のう群は線形、長さ 5mm に達し、裂片の中肋に接してつく。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川宝飯（芹沢 82626）。

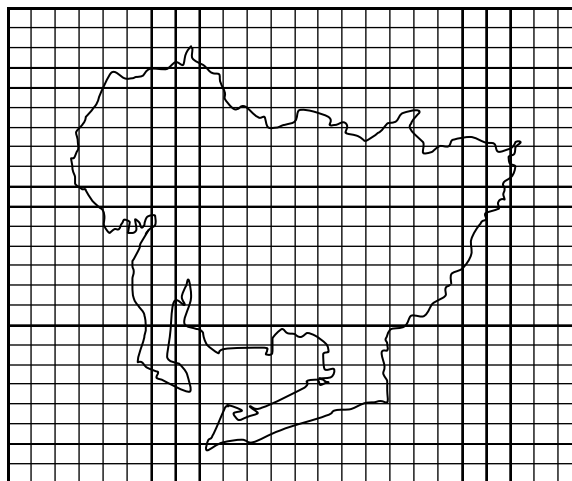
【国内の分布】

本州（愛知県、福井県以西）、四国、九州、琉球。岐阜県美濃地方北部の山地には点在する。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部、インドシナ、フィリピン。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

沢沿いの湿潤な林内に生育する。愛知県の自生地は沢からやや離れた造林地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

1 カ所に小群落がある。現在のところ生育状況は比較的よいが、空中湿度の高い場所に生育する植物なので、林が伐採されれば存続できないと思われる。

【保全上の留意点】

生育地はどうということのない造林地で、個別的な保全が必要である。

【特記事項】

レッドデータブックあいち 2001 植物編発行後に愛知県での生育が確認された種類である。屋久島以南のものは常緑性で 3 倍体であるが、九州本土以北のものは夏緑性で 4 倍体であることが知られており（高宮 2006）、愛知県のものを含む後者は将来亜種の階級で区別される可能性がある。

【引用文献】

高宮正之, 2006. 鳥瞰だけでなく地域情報を活かした虫瞰の植物分類学—ノコギリシダ属を例として. 分類 6: 1-24.

【関連文献】

保シダ p.139、平シダ p.255。
倉田 悟・中池敏之(編), 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 96-99. 東京大学出版会, 東京.

イヨクジャク *Diplazium okudairae* Makino

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。西南日本から中国大陸にかけての暖帯に分布する日華区系の植物で、県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎はやや短くは、先端に少数の葉をつける。葉柄は緑色で長さ 20~30cm、葉身は三角状披針形で単羽状に切れ込み、淡緑色~淡黄緑色、長さ 25~40cm、幅 13~22cm、最下部が最も幅が広く、先端は次第に狭くなって鋭尖頭となる。羽片は 8~10 対、鋭尖頭、基部は不相称で、前側は耳状になる。胞子のう群は羽片の中肋近くに 1 列にならび、長さ 1cm に達する。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来北東部（芹沢 83844）に 1 カ所、小群落がある。豊根村佐久間湖岸にあったという話もあり、現地にも行って見たが、確認できなかった。

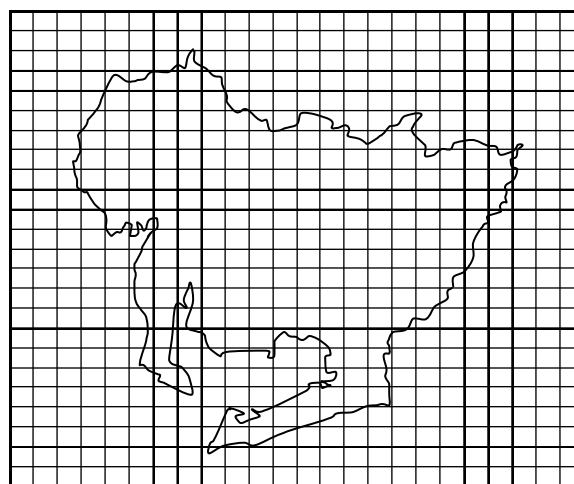
【国内の分布】

本州（静岡県以西の太平洋側）、四国、九州の山地に生育している。

【世界の分布】

日本、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

暖地の深山の、沢沿いの陰湿な林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

沢沿いの斜面にややまとまった群落がある。近年に限ればやや増加傾向にあるが、森林の伐採により消滅するおそれがある。

【保全上の留意点】

マニアに採取されるおそれがあるので、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

周辺には、本種とノコギリシダとの自然雑種であるアカメクジャク *D. × okudairaeoides* Sa.Kurata (標本：芹沢 83843) も生育している。

【関連文献】

保シダ p.136、平シダ p.252、SOS 旧版 p.41。
倉田 悟・中池敏之(編), 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 152-155. 東京大学出版会, 東京。

ニセコクモウクジャク *Diplazium virescens* Kunze var. *conterminum* (Christ) Sa. Kurata

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 2。暖地性の植物で、愛知県は分布域の東限に近い。愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は横走し、少数の葉をつける。葉柄は長さ 30~50cm、下部に黒褐色の鱗片がつく。葉身は三角形~卵状三角形、2回羽状複生し、長さ、幅ともに 30~75cm、下部の羽片には長い柄がある。小羽片は披針形~三角状披針形、基部は切形のものが多く、短い柄があり、羽状に浅裂~中裂する。裂片は円頭で小脈は分岐しない。胞子のう群は長楕円形~短い線形、裂片の辺縁よりにつき、包膜は胞子のう群を包みこむ。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川宝飯（小林 77453）、豊橋北部（芹沢 82638）。各 1 カ所に少数株が生育している。

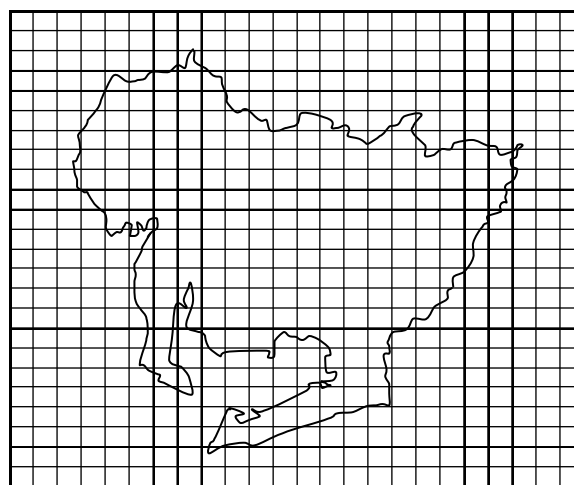
【国内の分布】

本州（伊豆半島、愛知県、紀伊半島）、四国南西部、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、中国大陸南部、ベトナム、タイ。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

暖地の低山地の、沢沿いの林内に生育する。愛知県の生育地は、沢沿いの造林地内である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

小群落があるだけで、森林の伐採、土石流等による消滅が懸念される。

【保全上の留意点】

特別な環境の場所に生育しているわけではないので、生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

コクモウクジャクからは、胞子のう群がやや辺縁寄りにつき、包膜が胞子のう群を包みこむことにより区別される。紀伊半島でも、コクモウクジャクに比べればずっと少ない植物である。

【関連文献】

保シダ p.138、平シダ p.255、SOS 旧版 p.41。
倉田 悟・中池敏之(編), 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 216-219. 東京大学出版会, 東京.

エビラシダ *Gymnocarpium oyamense* (Baker) Ching

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に見ても希少な深山性の植物で、愛知県でも生育地、個体数共に極めて少なく、しかも伐採等の影響で減少傾向にある。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は細く、横走する。葉柄は細く、淡緑色またはわら色で長さ 12~25cm、葉身は葉柄に傾いてつき、三角状卵形で単羽状深裂、長さ 10~20cm、幅 6~15cm、先端は鋭頭、葉質は草質で淡黄緑色、羽片は最下のものが最も大きく、長さ 4~7cm、幅 1.2~2cm、下側は羽状に浅裂~中裂する。孢子のう群は円形~楕円形で、包膜はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山 (芹沢 82084)。2カ所に少数株が生育しているだけである。稲武 (大野瀬, 村松正雄 19883, 2000-8-27) にもあったが絶滅した。

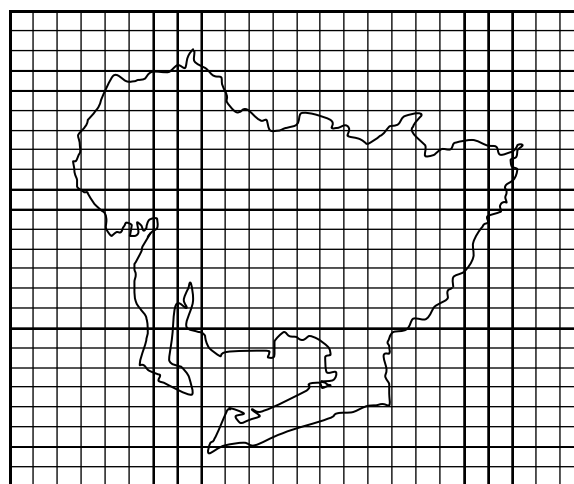
【国内の分布】

本州 (関東地方~近畿地方) および四国の深山に生育するが、稀である。

【世界の分布】

日本からヒマラヤ、ニューギニア、フィリピンにかけて分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

沢沿いの湿った岩崖地などに生育することが多い。愛知県の生育地もそのような場所である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

2カ所とも個体数は少ない。川岸のものは岩場の崩壊や増水による流出、川岸からやや離れた場所のものは森林の伐採により失われるおそれがある。岩の下部に生育しているものは、シカによる食害も懸念される。稲武では、生育していた崖が崩落して絶滅した。

【保全上の留意点】

流域全体の森林の保全が必要である。園芸目的で採取されるおそれがあるため、分布情報の公表に際しては慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

葉身が葉柄に対して直角に近い角度でつくので、ジクオレシダと呼ばれることがある。

【関連文献】

保シダ p.114、平シダ p.229、SOS 旧版 p.41。
倉田 悟・中池敏之(編), 1985. 日本のシダ植物図鑑 4: 660-664. 東京大学出版会, 東京。

クラガリシダ *Dryotaenium miyoshianum* (Makino) Makino

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 4、固有度階級 2。全国的に見ても希少な、自然度の高い森林に依存する植物で、伐採などの影響を受けやすく、園芸目的の採取圧も高い。愛知県においても減少傾向が著しい。

【形態】

常緑性のシダ植物。根茎は短くはう。葉は狭線形で長さ 30~50cm、幅 2.5~4mm。先端に向かって次第に細くなり、下方も次第に細くなり、ごく短い柄がある。葉質は厚く、中肋は表面がくぼんで 1 条の溝となり、下面は広く隆起する。胞子のう群は連なって線形となる。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山(芹沢 46826)、豊根(村松正雄 15157)、東栄(芹沢 79352)、稲武(芹沢 81985)、旭(芹沢 42283)。設楽(八橋, 加藤等次 s.n., 1968-10-6) で採集された標本もある。

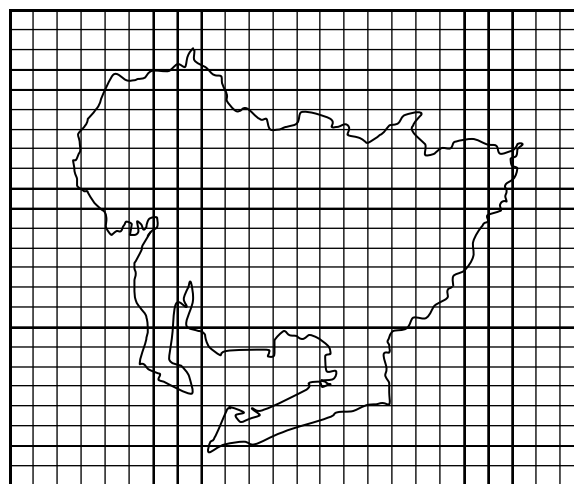
【国内の分布】

本州(石川県、静岡県以西)、四国(愛媛県)、九州(大分県)に分布するが、稀である。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸中~南西部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

深山の沢沿いの、老木の樹幹に着生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

かつては比較的個体数の多い場所もあったというが、森林の伐採と園芸目的の採取によって、現在では容易に見られない植物になってしまった。しかし、それでもなお全国的に見れば、愛知県は本種の主要な生育地の一つである。

【保全上の留意点】

沢沿いの森林の保全が必要である。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

東アジアに固有の、1 属 1 種の植物である。和名は、最初の発見地である岐阜県小坂町暗がりの坂に因む。

【関連文献】

保シダ p.158、平シダ p.268、SOS 旧版 p.42、環境庁 p.269。
倉田 悟・中池敏之(編), 1981. 日本のシダ植物図鑑 2: 342-345. 東京大学出版会, 東京。

ヌカボシクリハラン *Microsorium buergerianum* (Miq.) Ching

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 2。暖地性のシダ植物で、愛知県では生育地が極めて少ない。総点は 13 であるが、栄養的に繁殖して個体数階級が 3 になっていることを考慮し、EN と評価する。

【形態】

常緑性のシダ植物。根茎は長くはい、しばしば樹幹（細い木のこともある）にははい上がり、赤褐色の鱗片でおおわれる。葉は 1~3.5cm の間隔で出て長さ 3~12cm の柄があり、葉身は薄い革質、披針形~線状楕円形で長さ 12~40cm、幅 1.5~3.5cm、先端に向かって次第に細くなり、基部は先端と同様に細くなることもそれより急に細くなることもある。葉脈は目立たない。胞子のう群は円形で、葉裏全体に散在してつく。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川宝飯（芹沢 82614）。

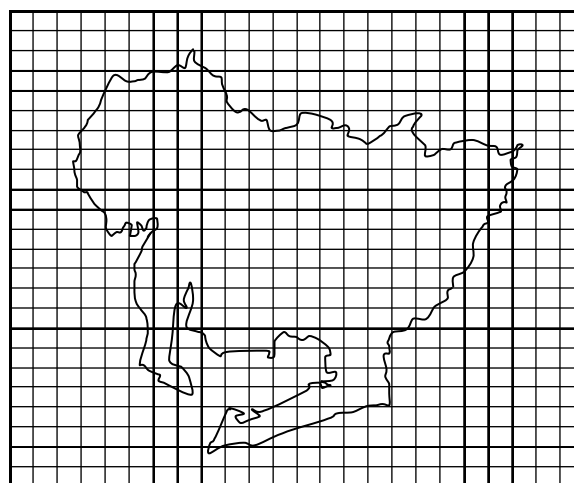
【国内の分布】

本州（千葉県以西の太平洋側と山口県）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部、インドシナ。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

沢沿いの林内に生育し、地上や岩上に群生するほか、樹幹に高くはい上がる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

山麓の造林地内 2 カ所に小群落がある。現在のところ生育状況は良好であるが、林が伐採されれば存続できないと思われる。

【保全上の留意点】

生育地はどうということのない造林地で、個別的な保全が必要である。

【特記事項】

レッドデータブックあいち 2001 植物編発行後に愛知県での生育が確認された種類である。愛知県のは、どちらの群落も葉身下部に小突起の出る葉が混じる。

【関連文献】

保シダ p.161、平シダ p.269。
倉田 悟・中池敏之(編), 1981. 日本のシダ植物図鑑 2: 492-497. 東京大学出版会, 東京。

デンジソウ *Marsilea quadrifolia* L.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい水生植物である。

【形態】

夏緑性の水生シダ植物。根茎は細く、泥土上を長く横走して不規則に分岐する。葉柄は緑色で長さ10～15cm、葉身は4つ葉のクローバーに似て直径2.5～4cm、4枚の小葉が「田」の字に並ぶ。小葉は倒三角形、上端はゆるやかな円形で両側面は直線に近く、基部は広くさび形となる。葉柄の基部より少し上から出る短い枝に、長さ4～5mmで豆のような形をした1～3個の胞子のう果をつけ、その中に数個の胞子のう群をつける。胞子には、雌性の大胞子と雄性の小胞子がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

1985年以降では、豊川宝飯（小林 80551）、豊橋北部（芹沢 78856）、豊橋南部（瀧崎吉伸 15173）、田原赤羽根（永田芳男 s.n.）、豊田北西部（山崎玲子 3777）、岡崎北部（中西普佐子 2000）、幡豆（芹沢 54125）、江南丹羽（福岡義洋 5375）、春日井（村松正雄 14521）で採集されている。ただし一部の場所では、すでに絶滅した可能性がある。新城（八束穂，鳥居喜一 s.n., 1973-7-21）、渥美（伊良湖岬，河合匡彦 s.n., 1955-7-12）、名古屋北部（大形昌 s.n., 1979-10-10）、海部東部（美和町丹波，沢井輝男 s.n., 1932-8-9）で採集された標本もある。かつては普通の水田雑草だったと思われるが、資料はあまり残されていない。

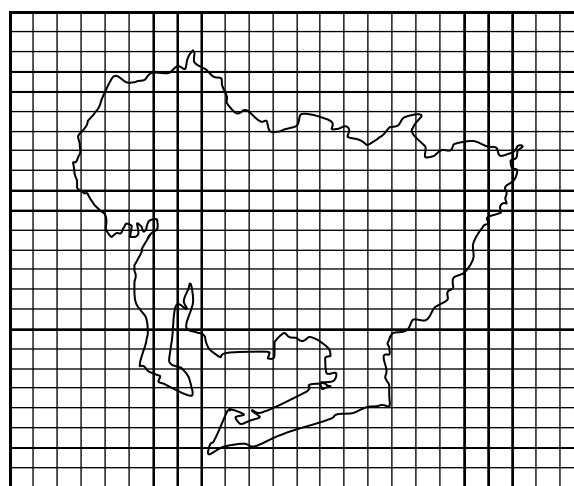
【国内の分布】

北海道・本州・四国・九州と奄美大島に生育していたが、近年減少傾向が著しい。

【世界の分布】

ヨーロッパ、インド北部～東アジア。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

水田やその周辺の水路などに生育し、水が浅いところでは挺水植物、やや深いところでは浮葉植物になる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○	○	
水域		○	○	

【現在の生育状況 / 減少の要因】

手作業の除草では容易に駆除できない植物であるが、乾田化の進行や除草剤の使用により激減した。現存している場所のうち一部では良好に生育しているが、どの場所も水田の転用や放棄により消滅するおそれがある。幡豆では谷戸田の耕作放棄による遷移の進行により絶滅した。

【保全上の留意点】

もともと水田雑草であるから、湿田状態を維持し、除草剤を使わない水田耕作を続ければ確実に保全できる。福井県敦賀市では、農家の人が、「ワシは長年こいつに苦労してきた。こんなものを保護するのか！」と目をむいたそうである。しかしながら、人間が本来の生育地を全て奪ってしまった平野部の植物を保全するためには、継続的な人為的管理が必要である。開発を阻止し、自然のままに放置すればこと足れりというわけにはいかない。

【特記事項】

カタバミモの名もある。デンジソウ科は似たものがなく、類縁関係のはっきりしない植物である。

【関連文献】

保シダ p.170、平シダ p.283、SOS 旧版 p.42、環境庁 p.429、SOS 新版 p.114,116。
倉田 悟・中池敏之(編), 1987. 日本のシダ植物図鑑 5: 778-782. 東京大学出版会, 東京。

サンショウモ *Salvinia natans* (L.) All.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい水生植物である。

【形態】

一年生の水生シダ植物。茎はところどころで分岐し、長さ 5~15cm になる。浮葉は単葉で楕円形~長楕円形、長さ 0.8~2cm、平坦または少し水中側へ曲がり、基部は円形で短い柄があり、2枚が対生状につく。水中葉は細かく枝分かかれし、根のような形態と機能をもつ。胞子のう群は秋に水中葉の基部に集まってつく。

【分布の概要】

【県内の分布】

1985 年以降では、豊橋北部（村松正雄 90-363）、下山（芹沢 83612）、豊田東部（山崎玲子 686）、豊田北西部（山崎玲子 3778）、岡崎北部（千賀敏之 s.n.）、瀬戸尾張旭（日比野修 568）、小牧（栗田郁男 3784）、岩倉西春（芹沢 41785）、名古屋南西部（高木順夫 558）、尾西（渡辺幸子 1771）、海部東部（芹沢 42276）、海部西部（芹沢 47845）で採集されている。ただしほとんどの場所でごく最近の状況が確認されておらず、すでに絶滅した場所も多いと思われる。名古屋北部（千種区東山、鈴木辰夫 s.n., 1947-8-4）で採集された標本もある。かつては普通の水田雑草だったと思われるが、資料はほとんど残されていない。

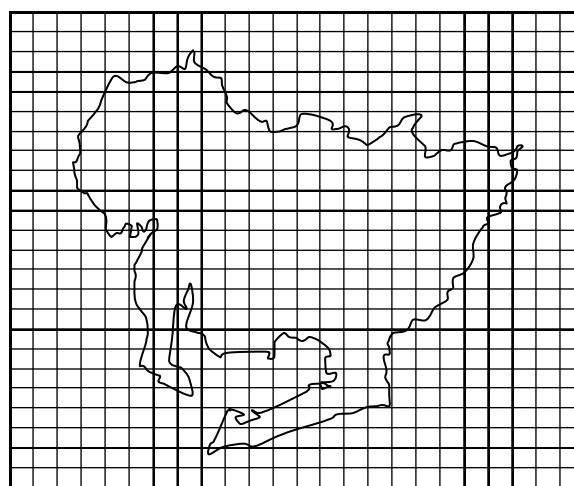
【国内の分布】

本州、四国、九州の低地に生育するが、近年減少傾向が著しい。

【世界の分布】

ヨーロッパ、アジア、アフリカに分布し、北アメリカからも記録されている。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

平野部の水田、ハス田やその周辺の水路に生育する浮遊植物で、しばしば栄養的に繁殖して水面をおおう。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	

【現在の生育状況 / 減少の要因】

水田の水面をおおう雑草であったが、除草剤の使用や生活排水の流入によって激減した。海部東部（甚目寺町）では一つの水路に毎年たくさん生育していたが、生活排水が流入するようになったとたん、完全に消滅してしまった。

【保全上の留意点】

もともと水田雑草であるから、湿田状態を維持し、除草剤を使わない水田耕作を続ければ保全できる。平野部の水路の水質保全も必要である。

【特記事項】

アカウキクサ科と近縁であるが、それ以上の類縁関係はよくわからない植物である。稀に大形のナンゴクサンショウモ *S. cucullata* Roxb. ex Bory が逸出野生化していることがある。

【関連文献】

保シダ p.171、平シダ p.284、SOS 旧版 p.43、環境庁 p.430、SOS 新版 p.143,145。
倉田 悟・中池敏之(編), 1987. 日本のシダ植物図鑑 5: 796-801. 東京大学出版会, 東京.

オオアカウキクサ *Azolla japonica* Franch. et Sav.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい水生植物である。

【形態】

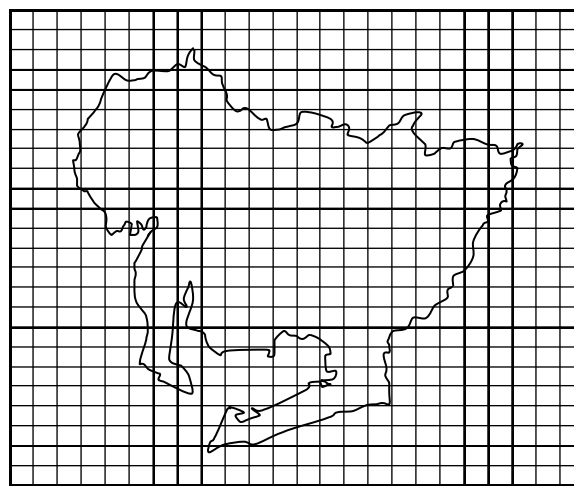
小形の水生シダ植物。アカウキクサによく似るが、植物体がやや大きく、長さ 1.5~7cm。根には根毛がない。葉も大きく、長さ 2mm 前後になる。葉面の突起は不明瞭である。胞子のう群は夏に成熟する。秋に全体が紅色になるが、冬には先端部だけを残して枯れる。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川宝飯(小林 77375)、蒲郡(鈴木美恵子 310)、豊橋北部(小林 65500)、豊橋南部(小林 70472)、幡豆(芹沢 82700)、瀬戸尾張旭(鈴木 淳 197)、知多南部(近藤洋一朗 6256)、海部西部(芹沢 47846)。ただしほとんどの場所でごく最近の状況が確認されておらず、すでに絶滅した場所も多いと思われる。本種も、かつては普通の水田雑草で、更に多くの区画で生育していたものと思われるが、資料はほとんど残されていない。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州、四国(東部)、九州に生育し、分布域はアカウキクサより北に寄っている。

【世界の分布】

現在のところ日本固有種とされているが、海外の種類との詳細な比較が必要である。

【生育地の環境 / 生態的特性】

水田や池沼、水路などに生育する浮遊植物で、しばしば栄養的に繁殖して水面をおおう。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○	○	

【現在の生育状況 / 減少の要因】

水田の雑草であったが、乾田化によって越冬する場所がなくなったことと、除草剤の使用、水の汚染などによって激減した。アカウキクサ(83頁)よりは多少状況がよいが、それでも残存している場所は僅かである。現在残存している場所は概してあまり農業生産に積極的でない場所で、そのような場所では今後農地の転用や耕作放棄により消滅するおそれがある。

【保全上の留意点】

アカウキクサと同様もともと水田雑草であるから、谷戸田のような汚水が流入しない生育地で除草剤を使わない水田耕作を続ければ、確実に保全できる。日本列島の平野部が水田化される前は、平野部の湧水池や網の目状の小河川に生育していたものと思われるが、現在ではそのような場所は全く残されていない。本来の生育場所が全て奪われている植物を将来とも存続させるためには、継続的な人為的管理が必要である。自然のままに任せるのが自然保護だという考え方は、このような場合通用しない。

【特記事項】

サンショウモ科と近縁であるが、それ以上の類縁関係はよくわからない植物である。

【関連文献】

保シダ p.172、平シダ p.285、環境庁 p.430、SOS 新版 p.143,145。
倉田 悟・中池敏之(編), 1987. 日本のシダ植物図鑑 5: 790-794. 東京大学出版会, 東京

ビャクシン *Juniperus chinensis* L.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。海岸部の自然植生を特徴づける種である。愛知県では生育地が極めて少なく、個体数も少ない。

【形態】

常緑性の高木または大型の低木。幹は直立し、通常ねじれ、高さ 15~20m になるものもあるが、たいていはより小さい。樹皮は赤褐色で、縦に裂け、薄くはがれる。葉は鱗片状のものと針形のもの 2 型があるが、鱗片葉の方が多。鱗片葉は十字対生し、葉身は卵状菱形で長さ 1.5mm、茎に密着する。針形葉は長さ 5~10mm で、上部が開出する。雌雄異株で、花期は 4 月、雄花は楕円形で長さ約 3~4mm。毬果は翌年の秋に熟し、球形で肉質、直径 6~8mm、成熟したものは黒紫色で粉白をおびる。

【分布の概要】

【県内の分布】

知多南部（芹沢 62647）。愛知県では、南知多町師崎の幡豆神社社叢に生育している。園芸的に植栽されることが多い樹種で、この場所のものも植栽起源である可能性は否定しきれないが、少なくとも現状は自生状態である。篠島にも自生の可能性がある個体（標本：芹沢 82132）がある。他所のものは明らかに植栽である。

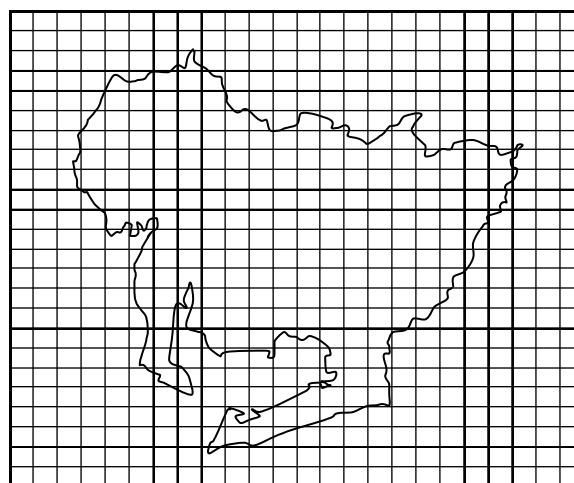
【国内の分布】

本州（岩手県以南）、四国、九州。主として太平洋側の海岸沿いに、散在的に分布する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、モンゴル。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

通常海岸の岩崖地に生育している。愛知県の生育地もそのような場所である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				○
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

現地は国指定天然記念物として保全されているが、駐車場に隣接して排気ガスの影響を受けるためか、一部衰弱している個体がある。

【保全上の留意点】

遺伝的な攪乱を避けるため、社叢内はもちろんのこと、近傍にも本種を植栽しない配慮が必要である。現地ではつる植物がからみついている個体もあるが、現状では性急に排除する必要はないと思われる。

【特記事項】

イブキ、イブキビャクシンとも呼ばれる。本種の自生集団は、園芸植物としての遺伝子資源の確保という意味でも重要である。

【関連文献】

保木 II p.406、平木 I p.17、SOS 旧版 p.43、SOS 新版 p.146,148。

イチイ *Taxus cuspidata* Sieb. et Zucc.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。温帯性の樹木で、自然林の構成樹種である。愛知県では、生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

常緑性の高木。幹は高さ約 15~20m、直径約 1m になる。樹皮は赤褐色で浅く縦に裂ける。若枝は緑色で無毛、後に淡褐色~灰褐色になる。葉は線形、長さ 5~20mm、幅 1.5~3mm、表面は深緑色、裏面には 2 条の淡緑色の気孔帯があり、先端はとがるが、触れても痛くない。雌雄異株で、花期は 3~4 月、雄花は葉腋に 1 個ずつつき、球形で鱗片に覆われ、長さ 4mm、雌花も葉腋に 1 個ずつつき、長さ 2.5mm である。種子は卵状球形で緑褐色、成熟すれば赤い液果状の仮種皮で囲まれるが、仮種皮の上端は閉じずに開口する。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山 (小林 44821)、豊根 (芹沢 67256)。自生と思われるものは、県東北部の山地にわずかに生育しているだけである。足助などでは、山中に植栽されたものがある。社寺などにはしばしば植栽されている。

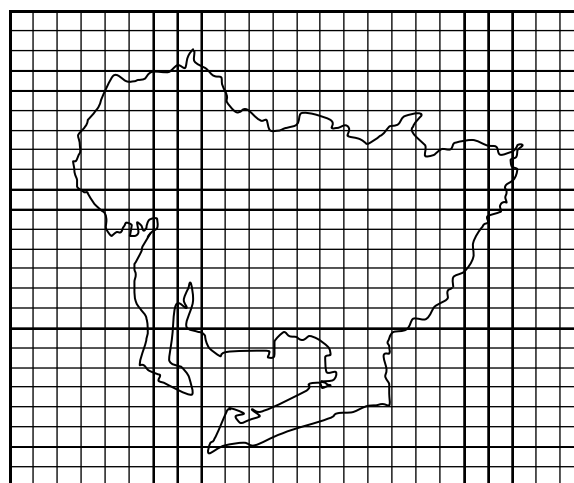
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に分布するが、自然林は全国的に見てもほとんど残存していない。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本、朝鮮半島、中国東北部、シベリア東部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の沢沿いや尾根などに点在する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

大形の樹木だけに、成木の個体数は少ない。極めて上質の材が得られるため、過去には相当伐採されたものと思われる。現在においても、伐採 (盗伐を含む) のおそれがある。

【保全上の留意点】

自然林は愛知県では僅かに残存するだけであり、現在残っている林は厳重に保全する必要がある。本種の場合は有用樹であるため、他種以上に個別的な保護が必要である。

【特記事項】

イチイの名は、材が上質で高位の人の笏に使われたからである。アララギ、オンコなどとも呼ばれる。

【関連文献】

保木 II p.451、平木 I p.24、SOS 旧版 p.44。

ナラガシワ *Quercus aliena* Blume

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 1。自生の可能性があるものは県内では生育地も個体数も少なく、石灰岩の採掘等によって失われるおそれがある。植栽されたものは、評価の対象外である。

【形態】

落葉性の高木。幹は高さ 25m、直径 90cm に達する。樹皮は黒褐灰色で、深く不規則に割れる。葉は互生し、長さ 1~3cm の柄があり、葉身は倒卵状長楕円形、長さ 12~30cm、先端は短く鋭尖頭、基部は広くさび状、辺縁には鋭頭の鋸歯がある。はじめは表裏とも有毛だが、やがて表面は無毛になり、裏面は通常星状毛が密生して白色を帯びるが、星状毛がほとんどなく緑色のもの（アオナラガシワ）もある。花期は 4 月、雄花序は新枝の下に多数ついて下垂し、雌花は新枝の上部の葉腋からでる短枝に数個つく。果実はその年の秋に熟し、楕円形、長さ約 2cm、殻斗は杯状で、多数の鱗状の総苞片におおわれる。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部（小林 66634、芹沢 42029-アオナラガシワ）。かなり自然度の高い場所に生育していることがあり、自生の可能性がある。これ以外にも県内のところどころに生育しているが、それらの大部分は明らかに植栽されたものである。

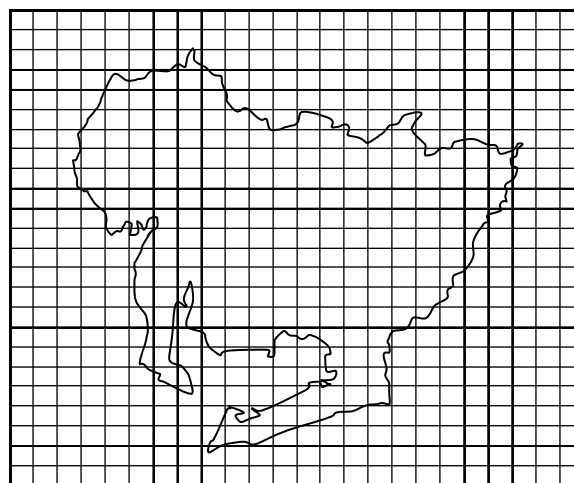
【国内の分布】

本州（岩手県・秋田県以南）、四国、九州に産するが、どこまでが真の自然分布かはっきりしない。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸、ヒマラヤ。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

温帯下部の山野に生育する。愛知県の上記の場所は石灰岩地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

十数株がまとまって生育しており、周辺にも点在する。希少種であることを意識しない伐採により失われるおそれがある。将来的には石灰岩の採掘も懸念される。

【保全上の留意点】

豊橋北部に点在する石灰岩地は、規模は小さいが、注目すべき植物が多く生育している。石巻山は国指定の天然記念物として保護されているが、それ以外の場所も注意して保全する必要がある。

【特記事項】

コナラに比べ、葉が大きく、側脈が多い。豊橋北部以外のものは、さしあたり保全の対象にならない。

【関連文献】

保木 II p.267、平木 I p.72。

コバノチョウセンエノキ *Celtis biondii* Pampan.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 3。大陸系の樹木で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地も個体数も少なく、また石灰岩の採掘等によって失われるおそれがある。

【形態】

落葉性の小高木。幹は高さ 10m くらいになる。樹皮は灰色、枝は灰褐色で、若時には黄褐色の短毛を密生する。葉は互生し、長さ 2~7mm の柄があり、葉身はやや硬くて厚く、倒卵形または広倒卵形で左右やや不相称、長さ 3~7cm、幅 2~3.5cm、先端は尾状にのび、基部は広くさび形、辺縁は中部以上に鋸歯がある。花期は 5 月、果実は球形で直径 5~6mm、黒褐色に熟し、核には顕著な網状紋がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根 (小林 60080)、東栄 (芹沢 79334)、新城 (小林 59830)、豊橋北部 (小林 66564)。ただし豊根と新城は、現在のところ幼木が確認されているだけである。

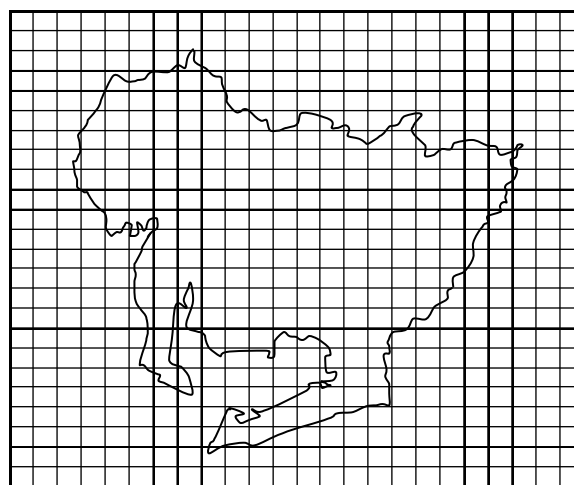
【国内の分布】

本州 (愛知県以西)、四国、九州の山地に分布する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

西日本の石灰岩地に点在する。愛知県豊橋市の自生地は石灰岩地、東栄町の自生地は流紋岩質火山岩のガレ場である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

小群落がある場所ではよく開花結実するが、希少種であることを意識しない伐採により失われるおそれがある。将来的には、石灰岩の採掘も懸念される。

【保全上の留意点】

豊橋北部に点在する石灰岩地は、規模は小さいが、注目すべき植物が多く生育している。国指定の天然記念物として保護されている石巻山以外の場所も、注意して保全する必要がある。東栄の自生地については、個別的な保全が必要である。

【特記事項】

エノキに比べて葉がやや厚く、先端が長く伸びる。

【関連文献】

保木 II p.253、平木 I p.81、SOS 新版 p.50,52。

カジノキ *Broussonetia papyrifera* (L.) Vent.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 1。原産地のよくわからない有用樹で、県内では生育地も個体数も少なく、石灰岩の採掘等によって失われるおそれがある。一般に栽培種とされているが、愛知県ではかなり自然度の高い場所に自生状に生育しているものがあるため、あえて選定の対象とした。明らかに植栽されたものは、評価の対象外である。

【形態】

落葉性の高木。高さ 15m、直径 50cm に達する。樹皮は灰色または淡灰褐色、縦に多くの割れ目ができる。若枝には開出する軟毛が密生する。葉は互生し、長さ 4~10cm の柄があり、葉身はゆがんだ卵円形で長さ 10~15cm、幅 7~10cm、先端は鋭尖頭、基部は左右不相称で円形または広いくさび形、辺縁には先がやや鈍い多数の鋸歯がある。葉の表面はかたい短毛が密生し、裏面はピロード状の軟毛が密生して緑白色となる。若木の葉は、深く 3~5 裂する。雌雄異株で、花期は 5~6 月、雄花序は円筒形、長さ 3~9cm、雌花序は球形で直径 1cm 程度である。果実は直径 3cm ほどの集合果となり、赤色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部(小林 66626)で確認されている。栽植株は犬山などでも見られる。

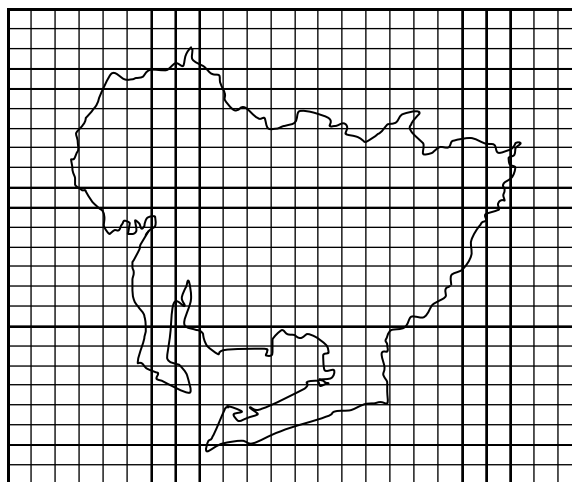
【国内の分布】

本州(関東地方以西)、四国、九州で栽培され、また逸出して野生化している。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸中南部、ベトナム、タイ、ビルマ、インド、マレーシア、太平洋諸島に広く栽培され、野生化しているが、正確な原産地は不明である。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

人里近くに見られることが多く、本来の生育環境はよくわからない。愛知県の生育地は石灰岩地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

石巻山の道沿いに 1 本大きい木があり、幼木もあるほか、近くの石灰岩地に小群落がある。希少種であることを意識しない伐採により失われるおそれがある。将来的には石灰岩の採掘も懸念される。

【保全上の留意点】

豊橋北部に点在する石灰岩地は、規模は小さいが、注目すべき植物が多く生育している。石巻山は国指定の天然記念物として保護されているが、それ以外の場所も注意して保全する必要がある。

【特記事項】

和名は、コウゾ(カズ)の木の意味だと言われる。豊橋北部以外のものは、さしあたり保全の対象にならない。

【関連文献】

保木 II p.243、平木 I p.87。

ミヤマツチトリモチ *Balanophora nipponica* Makino

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。自然度の高い森林に依存する植物で、全国的に希少であり、県内でも生育地、個体数共に極めて少ない。

【形態】

主にカエデ属に寄生する多年生草本。雌雄異株と思われるが、雄株は発見されていない。根茎は多数の大小不同の小さな根茎枝に分かれ、年数がたつにつれて肥大して球形になり、直径 5~9cm になる。花期は 7 月下旬~8 月、花茎は 1 個の根茎に 3~4 個生じ、高さ 8~14cm、長さ 0.5~2cm の鱗片葉が互生する。花穂は花茎の先端に 1 個つき、長楕円形、長さ 3~6cm、直径 1.2~1.8cm、橙赤色~橙黄色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

稲武（芹沢 74883）。1 カ所で確認されている。設楽西部（段戸山、高木典雄 s.n., 1951-9）で採集された標本もあるが、そこでは最近では確認されていない。茶臼山の長野県側で採集されたこともある。

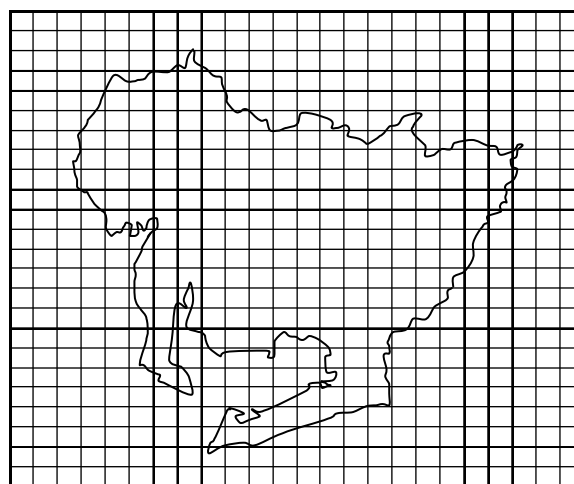
【国内の分布】

本州（秋田県・岩手県以南）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

落葉広葉樹の林内に生育し、イタヤカエデ、ウリハダカエデ、イヌシデなどの根に寄生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

個体数は極めて少ない。生育状況には年変動があり、2007 年には確認できなかった。寄生植物で栽培はできないが、変わった形態の植物なのでマニアに採取されるおそれがある。将来的には自然とのふれあいの需要が増加するにつれ、遊歩道の設置なども危惧される。

【保全上の留意点】

自然林は愛知県では僅かに残存しているだけなので、嚴重に保全し、ふれあい活動の場としての利用も制限する必要がある。遊歩道などの設置も、極力避けるべきである。マニアの採取やカメラマン、自称自然愛好家などの踏み荒らしを防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

傘が開く前のキノコのような形をしている。

【関連文献】

保草Ⅱp.317、平草Ⅱp.13、SOS 旧版 p.46、環境庁 p.435。

ナガバノヤノネグサ *Persicaria breviochreata* (Makino) Ohki

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 2。分布域は広いが生育地の少ない植物で、愛知県でも生育地、個体数共に極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

1 年生の草本。茎は根元から分枝して斜上し、高さ 30~50cm になる。葉は短い柄があり、葉身は長楕円状披針形、長さ 2~7cm、幅 1~2cm、先端は鋭頭、基部は浅い矢じり形で 3 角形の耳部があり、辺縁には縁毛がある。托葉鞘は短く、長さ 2~6mm で、長い縁毛がある。花期は 8~10 月、枝の先に短い総状花序をつけ、まばらに 1~3 個の花をつける。がくは 5 深裂し、淡紅色で長さ 3~4mm である。そう果は 3 稜形、黄褐色で光沢があり、長さ 2.5~3mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

作手 (芹沢 67056)。現在のところ 1 カ所で小群落が確認されているだけである。豊橋北部 (石巻山, 恒川敏雄 s.n., 1960-10-23, TNS) で採集された標本もある。

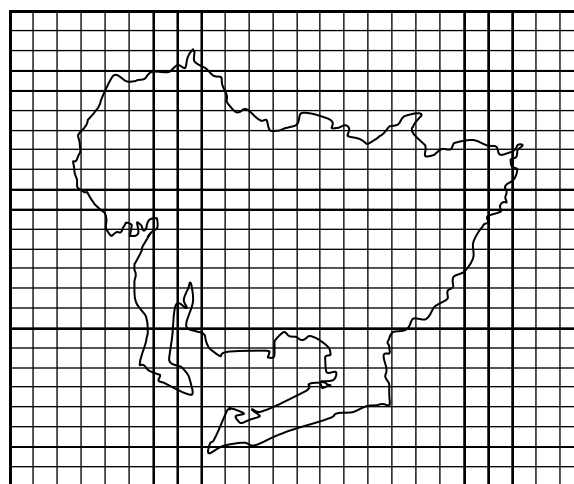
【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

ヤノネグサと異なり、山林下や林縁に生ずる。愛知県の自生地も、道路に近い沢沿いのスギ造林地内である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育範囲は狭く、個体数も少ない。1 年生の草本なので、年変動により増加する可能性もある反面、消滅する可能性もある。また、造林地なのでそのうちに伐採される可能性が高く、その時に消滅するおそれもある。シカによる食害も懸念される。同じような環境の場所はあちこちにあるので、今後注意して探索する必要がある。

【保全上の留意点】

特別な環境の場所に生育しているわけではないので、生育地の個別的な保全が必要である。特に、道路の拡幅の際には注意を要する。

【特記事項】

托葉鞘が短いことがよい特徴である。「日本の野生植物」II 18 図版に本種として掲載されている写真は、ホソバノウナギツカミである。

【関連文献】

保草 II p.307、平草 II p.21、SOS 旧版 p.47。

ヒメタデ *Persicaria erecto-minor* (Makino) Nakai

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 1、人為圧階級 3、固有度階級 2。愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

1年生草本。茎の下部は地をはって節から根を出し、上部は直立して少数の枝を分け、高さ 20～45cm になる。葉には短い柄があり、葉身は広線形～狭披針形、長さ 3～8cm、先端は鋭頭か鋭尖頭、基部はくさび形か円形、葉質はやや薄く、乾いても緑色である。托葉鞘は筒状、短い縁毛がある。花期は 5～10 月、総状花序は円柱形で直立し、長さ 1.2～2cm、密に花をつける。がくは 5 深裂し、淡紅色で長さ約 2mm、そう果は 3 稜形、黒色で光沢があり、長さ 1.5～2mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

日進長久手（長久手町長湫、半田多美子 2360, 1997-6-10）。1 回採集されただけである。

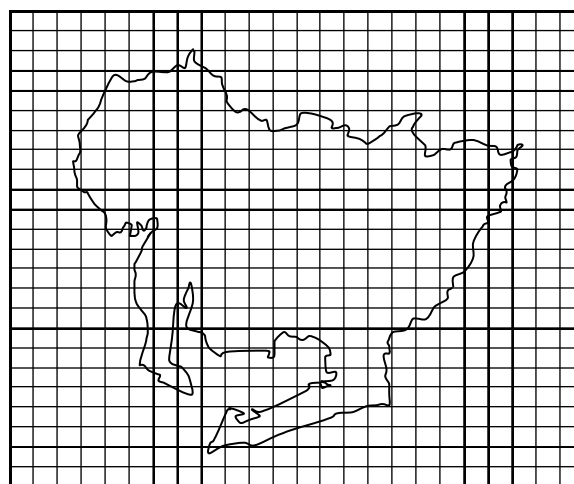
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に分布するとされている。

【世界の分布】

日本固有種とされている。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

一般に水湿地に生育するとされているが、攪乱地にも生ずる。水湿地型と攪乱地型は一括してヒメタデとされているが、明らかに別の型である。愛知県のものは後者の型で、生育地はやや乾いた空き地であった。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩			○	
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

現地を再度探索したが、現在のところ再確認できない。同じような環境の場所はどこにでもあるので、注意して探索する必要がある。

【保全上の留意点】

本種のような攪乱地に生じ、しかも希少な植物は、具体的な保全対策が立てにくい。種子等が保存できる施設を整備し、このような植物については保険的措置として、人為的な系統保存を行う必要がある。

【特記事項】

もともと偶産的に生育する植物なので、1 回採集されただけであるが、評価の対象に含めた。分類学的に十分検討されていない種類で、今後詳細な研究が必要である。

【関連文献】

保草Ⅱp.312、平草Ⅱp.23。

ノダイオウ *Rumex longifolius* DC.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。本州中部では減少傾向の著しい低湿地性植物で、愛知県は分布域の南限に近く、県内では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

大形の多年生草本。高さ 1m 以上になる。茎の基部の葉は大きく、長い柄があり、葉身は長卵状楕円形、長さ 20~35cm、先端は円頭または鈍頭、基部はふつう円形、波状縁で両面無毛、上部の葉は互生し、次第に小さく細く、披針形~長楕円形となる。花期は 6~8 月、果実をかこむ花被片は広倒心形、長さ 5~6mm、幅 5~6.5mm、全縁で、中肋にこぶはない。果柄には節がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

稲武(芹沢 80611)、海部西部(芹沢 58683)。各 1 カ所に少数株が点在しているだけである。木曾三川の岐阜県側では、愛知県側より多い。

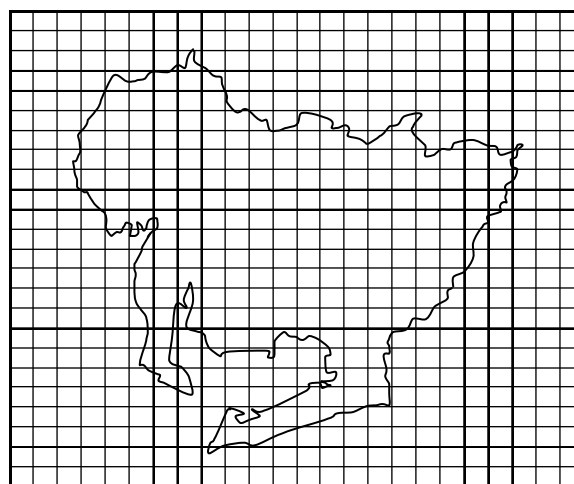
【国内の分布】

北海道、本州(近畿地方以北)。

【世界の分布】

北半球に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

河川敷、池沼の周辺などの低湿地に生育する。よくヤナギ林の林縁などに見られる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

海部西部では、長良川河川敷に開花株が多かったが、河口堰が建設されて水位の変動がなくなり、水没したり過湿状態になったりして、激減した。

【保全上の留意点】

河川敷は、平野部の本来の自然の姿を残す貴重な場所であり、絶滅危惧植物も多く生育していて、保全上の重要性が高い。ただし河川敷の植物は、もともと洪水などの攪乱に耐えてきたものであり、本種の場合も個体群の存続には軽度の攪乱が必要と思われる。また、河口部では潮の干満に伴う水位の変動が環境の重要な要素になっており、保全を考える際にはこの点に関する配慮が必要である。

【特記事項】

北日本の低湿地には比較的多い。稲武では、同所にエゾノギシギシとの雑種が多量に生育している。

【関連文献】

保草Ⅱp.298、平草Ⅱp.15、SOS 旧版 p.47、環境庁 p.436。

ヒゲネワチガイソウ *Pseudostellaria palibiniana* (Takeda) Ohwi

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。温帯性の植物で、愛知県は分布域の南限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、2列の軟毛があり、高さ10~20cmになる。根は1~4本がやや肥厚する。葉は対生し、上部の2対は広披針形~長卵形、長さ2.5~4cm、他の葉は倒披針形である。花期は4~5月、花は1個頂生し、2~3cmの柄がある。花弁は5~7個、白色、倒披針形で鈍頭、長さ6~7mmである。閉鎖花は茎の下部につく。蒴果は球形で、直径6mm程度である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄（小林 32923）。

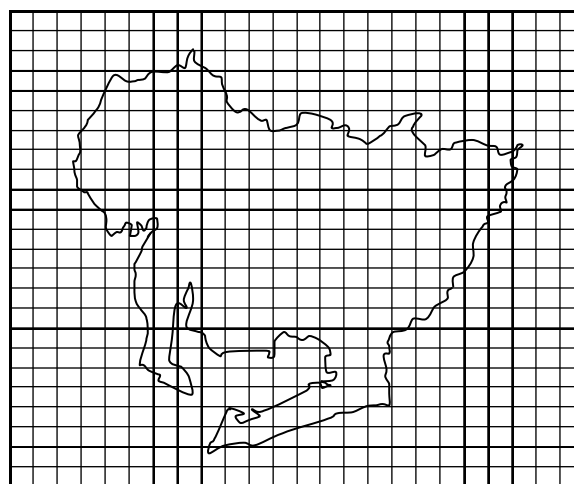
【国内の分布】

本州（東北地方南部~中部地方）。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

落葉広葉樹林の林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

狭い範囲に小群落があるという。林の伐採等があれば、容易に失われてしまう。シカの食害によって消滅するおそれもある。

【保全上の留意点】

生育地の二次林を、いわゆる里山状態で保全することが必要である。目立つ植物ではないが、希少性につられて採取されたり、カメラマンや観察者に踏み荒されたりするおそれがあるので、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

ワチガイソウ *P. heterantha* (Maxim.) Pax は、三河山地に点在している。ワチガイソウの名は、当初種名不明の印として盆栽に輪違いの紋を付けたことに由来するといわれる。

【関連文献】

保草Ⅱp.267、平草Ⅱp.34、SOS旧版 p.48。

ミドリアカザ *Chenopodium bryoniaefolium* Bunge

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 2。不安定な、しかしそれなりに自然度の高い立地に生育し、確実に観察することが困難な植物である。愛知県においても、生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

1 年生草本。茎は細く、直立して分枝し、高さ 60cm 内外になる。葉は互生し、長い柄があり、葉身は 3 角状卵形、ひし状卵形または卵状楕円形、長さ 3~5cm、幅 2.5~4.5cm、先端は鋭頭、基部は広くさび形~切形、質は薄く、辺縁に歯牙がある。花期は 8~9 月、花は円錐花序にまばらにつく。種子は黒色で光沢がなく、直径 1~1.2mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部(芹沢 83355)。富山(小林 53106, 1994-8-7)でも採集されたことがある。

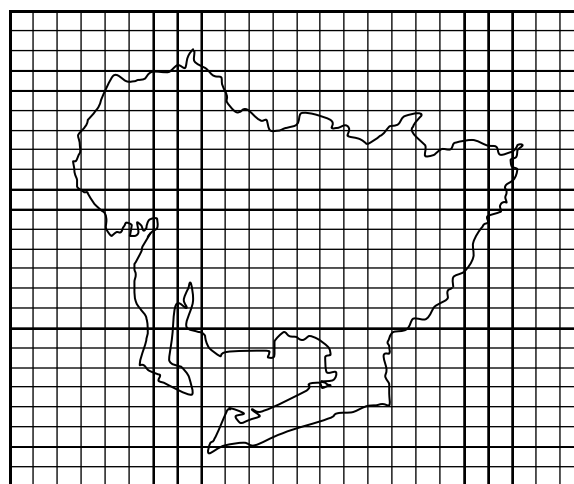
【国内の分布】

本州、四国、九州の山地に稀に生育する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、アムール、ウズリー、シベリア東部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の礫の多い沢、崩壊地、林道わきなどに出現するが、たいていの場合散発的である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

豊橋は長いあいだ現状不明であったが、2000 年になって火事跡地に突然かなりの個体数が出現した。2008 年現在でも貧弱な個体が少数生育しているが、今後も継続して生育するかどうかはわからない。富山では、たまたま 1 株に行き当たっただけという。生育環境と人為圧の階級が低いため評価は絶滅危惧 I B 類にしかならないが、近いうちに消滅する可能性は絶滅危惧 I A 類の大部分より大きい。

【保全上の留意点】

本種のような不安定な立地に生じ、しかも希少な植物は、具体的な保全対策が立てにくい。崩壊地も自然要素の一つであり、ある程度は保全すべき場所であることを認識する必要がある。またこのような植物については、保険的措置として、人為的な系統保存を検討してもよい。

【特記事項】

「日本の野生植物」II ではミドリアカザという和名が採用されているのでそれに従うが、一般にはイワアカザと呼ばれることが多い。「植物からの SOS」(SOS 旧版) では、イワアカザとして掲載されている。

【関連文献】

保草 II p.292、平草 II p.47、SOS 旧版 p.48 (イワアカザとして)。

ヤマトリカブト *Aconitum japonicum* Thunb. var. *montanum* Nakai

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。日本列島で多様に分化しているトリカブト属 4 倍体種の中の 1 つで、愛知県は分布域の西限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。茎は下部が直立し、上部は曲がって多少とも分枝し、高さ 80~180cm になる。根は紡錘形に肥厚する。茎の中部につく葉は円心形、長さ 7~15cm、幅 8.5~19cm、基部は広い心形か切形、またはくさび状となり、3~5 深裂し、裂片には披針形または卵状披針形の欠刻状鋸歯がある。花期は 8~9 月、総状花序を茎の先端と葉腋につける。花は長さ 35~40mm、花柄には曲がった毛があり、花の外面や内面の縁に近い部分にも毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根（村松 15948）、津具（芹沢 67412）。

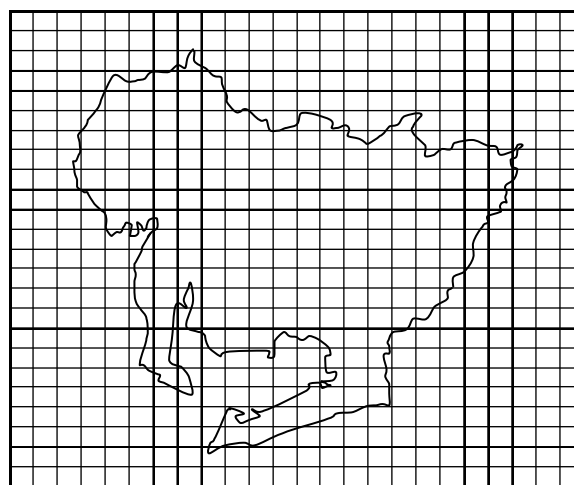
【国内の分布】

本州（東北地方南部~中部地方）。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

通常は沢沿いの落葉広葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

個体数は極めて少ない。多少攪乱された場所にも生育しており、現在のところ特に減少しているわけではないが、牧場化などの大規模な改変があれば消滅する。

【保全上の留意点】

茶臼山周辺は、愛知県の中では温帯性の植物が集中して生育している場所である。自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、これ以上の開発は避けるべきである。とりわけ、沢の源頭部に僅かに残る自然林は、注意して保全する必要がある。

【特記事項】

トリカブト類は有毒植物として有名である。愛知県のトリカブトは大部分が花柄に毛のないカワチブシ *A. grossedentatum* (Nakai) Nakai で、ヤマトリカブト型のものはずかしくない。毛の量には変化があり、今後更に詳細な検討が必要である。

【関連文献】

平草 II p.67、SOS 新版 p.19,21。

エンコウソウ *Caltha palustris* L. var. *enkoso* H.Hara

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。温帯域の水辺に生育する植物で、愛知県では生育地が少ない上、園芸目的の採取により減少している。

【形態】

水中や湿地に生える多年生草本。根出葉は長い柄があり、葉身は円心形～腎円形、長さ幅ともに 5～10cm、基部は深くへこみ、辺縁には低い鈍鋸歯がある。花茎は直立し、高さ 20～50cm、上部に少数の茎葉をつける。花期は 5～6 月、花は茎の先端に数個つき、がく片は黄色、5～7 枚、楕円形、長さ 15mm 程度である。花後、花茎が倒れるように曲がって地につき、節から発根し、冬になって花茎が枯れると独立した植物になる。

【分布の概要】

【県内の分布】

稲武(小林 41835)、足助(山崎玲子 2153)。各 1 カ所自生地がある。ただし稲武は、植栽起源の可能性がある。

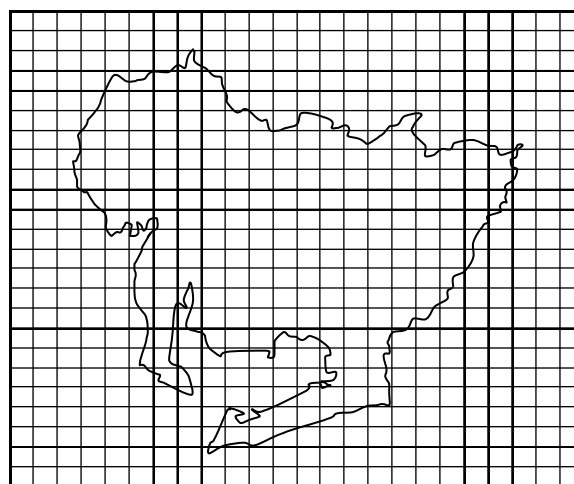
【国内の分布】

北海道、本州。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本。種としては北半球の温帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

水温の低い、清冽な小水路、池沼の中やその周辺に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域	○			

【現在の生育状況 / 減少の要因】

どちらの群落でも園芸目的の採取・持ち出しが行われており、将来が懸念される。また稲武では、沢の改修により著しく減少した。豊田市城見町にもあるが、これは移入されたもので本来の自生ではない。このような移入は自然環境情報の混乱を招くおそれがあり、一般的に言えば望ましいことではない。もともとその場所にはないものは、「ない」のが自然の姿であることを認識する必要がある。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取やカメラマン、観察者による攪乱を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

日本産リュウキンカ類の分類については、今後詳細な検討が必要である。和名は、長く伸びた花茎が手長猿の手のようなことからである。

【関連文献】

保草 II p.216、平草 II p.58。

ハコネシロカネソウ *Dichocarpum hakonense* (F.Maek. et Tuyama) W.T.Wang et Hsiao

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 3。ここではハコネシロカネソウとしてリストに掲載するが、愛知県のもは真のハコネシロカネソウでない可能性が高く、今後の詳細な検討が必要である。県内では生育地が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。根茎は短く横にはい、大きな鱗片をつける。茎ははじめ高さ 10cm 程度であるが、花の終わる頃には伸長して 20cm くらいになり、基部にふつう 1 枚の根出葉をつける。茎葉は 2 枚が対生し、葉鞘は合着し、短い柄がある。葉身は 1~2 回三出し、小葉は卵形~広卵形、花の終わる頃には長さ 2~4cm、幅 1.5~3cm になり、先端は鋭頭~鈍頭、基部はくさび形、辺縁に欠刻状の鋸歯がある。花期は 4~5 月、花は白色で直径 10~13mm、上向きまたはやや横向きに咲き、5 枚の花弁状のがく片がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

稲武（芹沢 82854）。

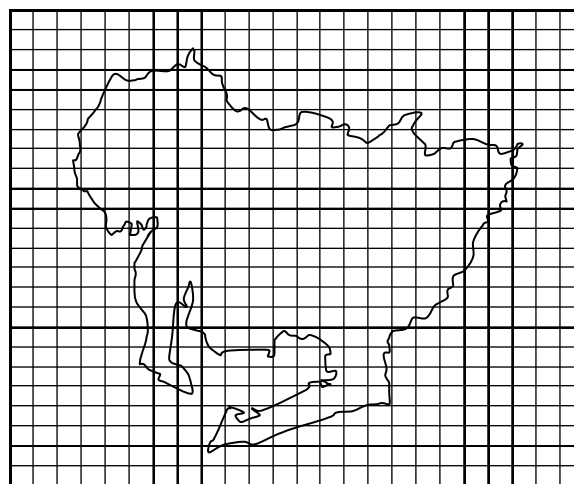
【国内の分布】

確実なものは、本州（神奈川県、静岡県）に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

愛知県のもは、沢沿いの林内に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育範囲は狭く、個体数もそれほど多いものではない。現在のところ特に減少しているわけではないが、自生地は造林地なのでいつかは伐採されるものと思われ、その時に大きな影響を受けるおそれがある。

【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

Isopyrum 属とされることもある。上述の形態は、愛知県の植物についてのものである。同じ型の植物は、岐阜県側にも生育している。

【関連文献】

保草Ⅱp.222、平草Ⅱp.81、環境庁 p.448、SOS 新版 p.30.32。

オキナグサ *Pulsatilla cernua* (Thunb.) Sprenger

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 4、固有度階級 2。大陸系の草地性植物で、全国的にも愛知県でも、園芸目的の採取により著しく減少している。

【形態】

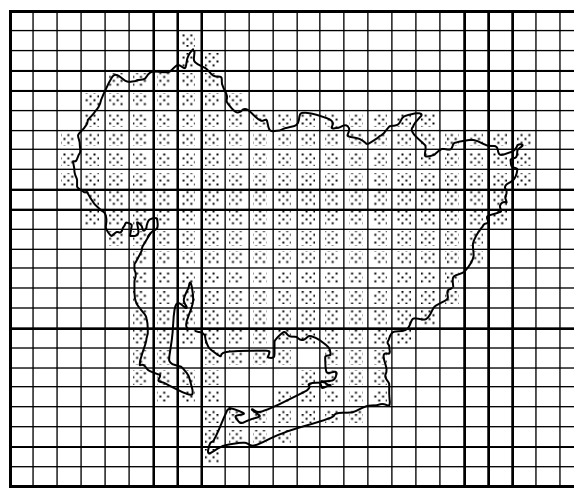
多年生草本。根は太く、地中深く伸びる。根出葉は束生し、長い葉柄があり、葉身は 2 回羽状複葉、小葉は深裂し、さらに欠刻がある。茎ははじめ高さ 10cm 程度であるが、花後伸長して 30~40cm になり、茎葉は 3 枚が輪生し、無柄、基部は多少合着し、葉身は線状の裂片に分裂する。根出葉や花茎には長い白毛がある。花期は 4~5 月、花は茎の先端に 1 個つき、鐘形で下向きに開く。がく片は 6 枚で長楕円形、外面は白毛で覆われ、内面は暗赤紫色。花柱は花後伸長して、果時には長さ 3~4cm になる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東三河の 2 区画、西三河の 1 区画、尾張の 1 区画に、それぞれごく少数の株が生育しているだけである。かつては県中部の丘陵地、低山地に点在していたらしく、富山 (大谷, 鳥居喜一 14389, 1943-7-18, HNSM)、新城 (宇利峠, 恒川敏雄 51, 1957-5-5, TMNH)、豊橋北部 (石巻萩平, 恒川敏雄 s.n., 採集日不明, TMNH)、足助 (阿摺, 井波一雄 s.n., 1955-4-10, CBM75421)、小原 (北永太郎, 井波一雄 s.n., 1933-4-29, CBM222638)、藤岡 (井波一雄 s.n., 1955-4-10, CBM75394)、名古屋北部 (志段味村竜泉寺, 井波一雄 s.n., 1933-4-29, CBM222638) など採集された標本があり、大原 (1971) は豊田、蒲郡等も産地としてあげている。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

【生育地の環境 / 生態的特性】

日当たりのよい草地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

園芸目的で集中的に採取されたために激減し、現在は目につきにくい所にごくわずかに残存しているだけである。副次的な要因としては、里草地の減少もあげられる。全国的にもほぼ同様な状況で、九州中部以外では容易に見ることができなくなっている。

【保全上の留意点】

基本的には国民共有の資産である自然物を個人の庭に取り込んでしまう山草愛好家のモラルが問題であるが、このような道義的な訴えだけでは目前に迫る絶滅を回避できない。当面は秘匿以外に有効な手がなく、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

オキナグサの名は、果時の白い残存花柱が老人の白髪のようなことからである。

【引用文献】

大原準之助, 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.62. 名古屋営林局, 名古屋。

【関連文献】

保草Ⅱp.229、平草Ⅱp.70、SOS 旧版 p.50+図版 13、環境庁 p.449。

コウホネ *Nuphar japonicum* DC.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 1。平野部や丘陵地の代表的な水草であるが、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生の水草。地下茎は太くて白く、水底の地中を横にはう。葉は束生し、長くて中空の葉柄があり、水中葉の葉身は薄く、辺縁は波状になる。水上葉は水上に出て、葉身は長卵形、長さ 20~30cm、幅 7~12cm、やや厚く、基部は矢じり形にへこみ、表面は無毛で光沢がある。花期は 6~9 月、花柄は長く伸び、水上に出て、先端に 1 個の花をつける。花は黄色で直径 4~5cm、がく片は通常 5 枚で、花後に緑色が強くなる。

【分布の概要】

【県内の分布】

津具(小林 57226)、新城(内藤宇佐彦 s.n.)、海部南部(芹沢 81744)。岡崎北部(小呂町, 芹沢 52172, 1989-7-1)にも生育していたが絶滅した。このほか豊田東部にもある(芹沢 58653)が、植栽起源の可能性が高い。作手(井波一雄 s.n., 1953-9-6, CBM198129)で採集された標本もある。

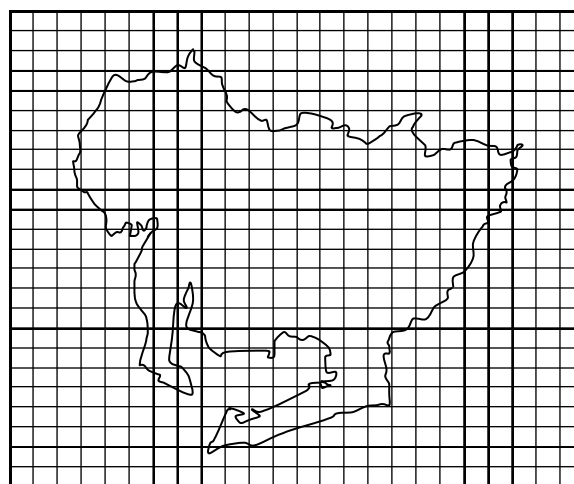
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分況】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

浅い池沼、あるいは水路に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○	○	

【現在の生育状況 / 減少の要因】

全国的には比較的多いが、愛知県では極めて少ない植物である。近年減少したのか、もともと少なかったのかははっきりしない。いずれにしても、ため池の改修や水の汚れによって存続の危機にさらされている。濃尾平野の岐阜県側には、大きな群落がある。

【保全上の留意点】

生育地の現状を変えず、水質を保全することが必要である。

【特記事項】

和名は、白い根茎が水底の骨のようだからである。しかし、根茎が見えるほど澄んだ水域は、愛知県平野部ではほとんどなくなってしまった。

【関連文献】

保草Ⅱp.252、平草Ⅱp.94、SOS旧版 p.52。

ヒメコウホネ *Nuphar subintegerrimum* (Casp.) Makino

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 4。全国的に減少傾向の著しい水生植物で、典型的なものは東海地方以外ではほとんど見られなくなっている。愛知県においても、減少傾向が著しい。

【形態】

多年生の水草。地下茎は太くて白く、水底の地中を横にはう。葉は束生し、長くて中空の葉柄があり、水中葉の葉身は薄く、辺縁は波状になる。水上葉は水面に浮かぶが水位が低下すると水上に出て、葉身は広卵形、長さ 6~10cm、幅 5~8cm、やや厚く、基部は矢じり形にへこみ、表面は無毛で光沢がある。花期は 6~9 月、花柄は長く伸び、水上に出て、先端に 1 個の花をつける。花は黄色で直径 3~4cm、がく片は通常 5 枚である。

【分布の概要】

【県内の分布】

三好（芹沢 62234）、瀬戸尾張旭（村松正雄 11515）、大府東浦（中井三従美 24）、東海知多（大西 博 1352）、常滑（村松正雄 18595）、犬山（芹沢 78118）、春日井（山田果与乃 416）、名古屋北部（村松正雄 18170）。豊橋北部、豊橋南部にもあるという（小林, 2001）。刈谷知立（刈谷市小堤西池, 芹沢 41748, 1985-7-23 など）、名古屋南東部（天白区八事裏山, 鳥居ちよ子 646, 1994-6-18 など）にも生育していたが絶滅した。豊明東郷（豊明市沓掛町, 浜島繁隆 1079, 1968-9-8）で採集された標本もある。また、豊橋北部では、本種とコウホネの雑種と思われる標本（葦毛, 井波一雄 s.n., 1949-9-25, CBM145661）が採集されている。

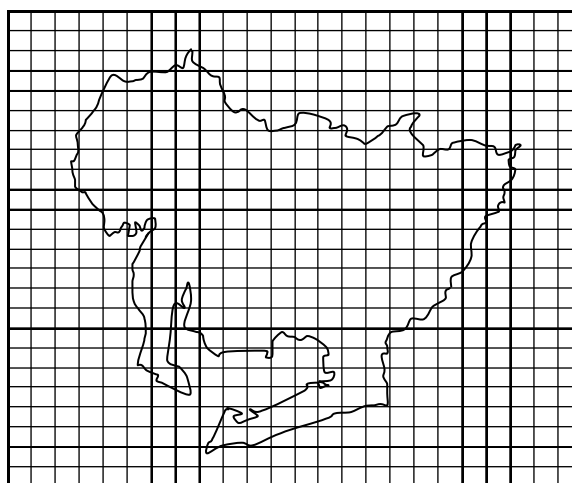
【国内の分布】

本州および四国。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

浅い池沼に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○		

【現在の生育状況 / 減少の要因】

県西部の丘陵地に多かっただけに、ほとんどの自生地が開発が迫っていたり水質が悪化していたりして、存続が懸念される。一部の場所ではすでに絶滅した可能性がある。栽培目的で盗掘されることも多い。刈谷市の小堤西池では、カキツバタ保護のため行われたスイレン駆除の巻き添えで見られなくなった。名古屋南部のある池では、池一面に生育していたが、近年急激に衰退して消滅した。原因ははっきりしないが、周囲の樹木が生長して光条件が悪化したためかもしれない。

【保全上の留意点】

愛知県西部の丘陵地のため池では、一方で各種開発に伴う埋め立て、水の汚染、公園化・調整池化などの改修工事により、他方で利用停止に伴う管理放棄により、急速に生物多様性が失われている。現在良好な状態が保たれているため池は、文化遺産としての価値もあり、注意して保全する必要がある。マニアに採取されるおそれもあるので、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【引用文献】

小林元男, 2001. 愛知県地域別植物誌(1) 豊橋市の植物 p.24, 83. 愛知県植物誌調査会, 刈谷.

【関連文献】

保草Ⅱp.252、平草Ⅱp.94、SOS 旧版 p.52+図版 21、環境庁 p.455、SOS 新版 p.123,124.

ゴハリノマツモ *Ceratophyllum demersum* L. var. *quadrispinum* Makino

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に稀少な水草で、愛知県でも生育地が極めて少ない。

【形態】

沈水性の水草。冬に植物体は枯れるが、枝の先端に越冬芽が残り、翌春発芽する。根はなく、枝の変化した仮根によって水底に固着する。茎は長さ 20~80cm、もろく、折れて浮遊することもある。葉は数枚が輪生し、無柄、細長い裂片に 2 又状に分裂し、長さ 1.5~2.5cm、裂片には細い刺状の鋸歯がある。花期は 6~8 月、花はごく小さく、単性で雌雄同株、葉腋に 1 個ずつつき、柄はない。果実は楕円形で長さ 4~5mm、基部に 2 本、先端に 1 本の長い刺があり、上部にも 2 本のやや短い刺がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

田原赤羽根 (芹沢 78723)。

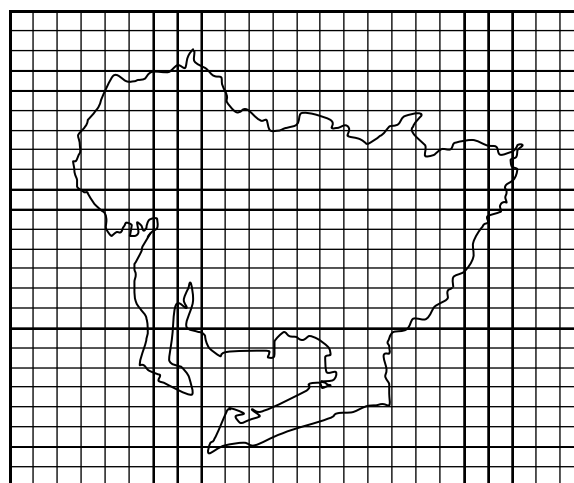
【国内の分布】

本州中部。九州にもあるという。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

平野部の池沼に生育する。愛知県の生育地は海岸近くの養魚場跡地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域				○

【現在の生育状況 / 減少の要因】

一つの放棄された養魚場に、量的にはたくさん生育している。しかし隣接した同じような場所では確認できない。現状のままならば存続すると思われるが、そのうちに埋め立てられて消滅する可能性は大きい。

【保全上の留意点】

ウナギ養殖の衰退に伴って一時的に形成された環境に生育しているので、長期的な保全は困難と思われる。人為的な系統保存を考える必要がある。

【特記事項】

レッドデータブックあいち 2001 植物編発行後に愛知県での生育が確認された種類である。果実がなければマツモと区別不能であるが、大部分のマツモ集団では果実が確認できない。そのような集団はとりあえずマツモ var. *demersum* として扱ったが、その中に本変種が混在している可能性もある。

【関連文献】

保草 II p.250、平草 II p.97。
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.117. 文一総合出版, 東京

イワタカンアオイ *Heterotropa kurosawae* (Sugim.) F.Maek.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 4、固有度階級 4。日本列島で多様に分化しているカンアオイ類の 1 種で、本地域の固有種である。

【形態】

常緑性の多年生草本。茎は地上を短くはひ、葉の落ちたあとが節になり、多肉質で暗紫色、芳香がある。葉は円形～卵状楕円形、長さ 6～8cm、幅 5～7cm、基部は深い心形、表面には淡色の斑紋がある。花期は 3～4 月、花は暗紫色で直径 2～2.5cm、がく筒は長さ 1cm 程度で、内面に 30 本前後の縦の隆起線と約 10 本の横の隆起線があり、細密な格子状模様になる。がくの上縁は 3 裂して開出し、裂片は卵状 3 角形で細毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部（龍川良克・郁子 55）、豊橋南部（花井隆晃 2665）。生育範囲は狭いが、その範囲では点在している。

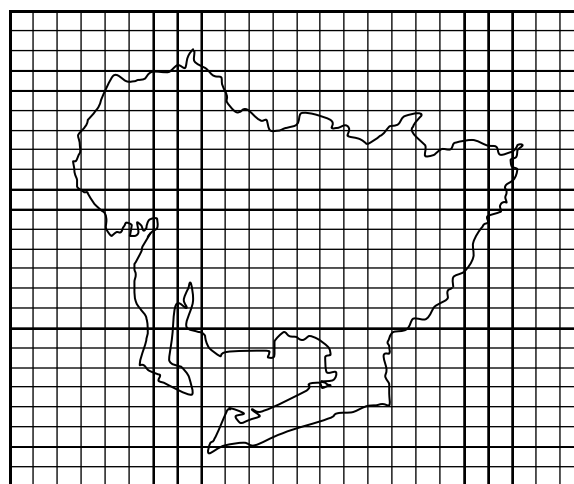
【国内の分布】

本州（静岡県西部、愛知県東部）。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地や低山地の林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

現在のところある程度の個体数はあるが、カンアオイ類は園芸目的の採取によって全国で多くの種が絶滅の危機に瀕しており、特に注意が必要である。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

花が大きく、がく裂片に毛があることがよい特徴である。なお、カンアオイ属のうちスズカカンアオイとヒメカンアオイは、愛知県内では比較的多く生育しており、現状では特に絶滅が危惧されるような状態ではない。

【関連文献】

平草Ⅱ p.108、SOS 旧版 p.53、環境庁 p.289、SOS 新版 p.71,73。

ベニバナヤマシャクヤク *Paeonia obovata* Maxim.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 4、固有度階級 2。個体数と集団数は各階級の下限に近く、ヤマシャクヤクよりずっと少ない。花が大きく、保全の必要性が高い植物で、園芸目的の採取により激減している。

【形態】

多年生草本。高さ 40～60cm になる。根茎は横にのび、太い根を出す。茎には 3～4 枚の茎葉を互生し、基部には数枚の鱗片葉がある。葉は 2 回 3 出複葉、小葉は楕円形～倒卵形、先は狭まってとがり、裏面は白色を帯びる。花期は 5 月、花は茎の先端に 1 個つき、直径 4～5cm で上を向いて開き、がく片は緑色、花弁は 5～7 枚で倒卵形、淡紅色で互いに重なり合っつく。めしべの花柱はやや長く、著しく外側に曲がる。葉裏は通常有毛であるが、ときに無毛のものがあり、ケナシベニバナヤマシャクヤク form. *glabra* (Makino) Kitam. と呼ばれる。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来南部（小林 49314）、鳳来北西部（小林 46363）、作手（芹沢 79803）、稲武（芹沢 82934）。東栄からも記録されている（小林, 2006）。

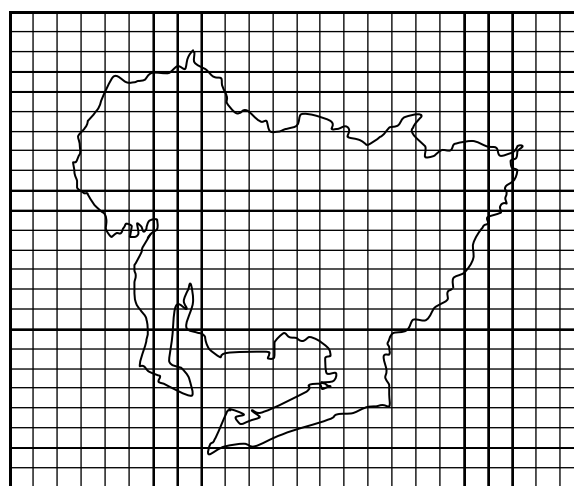
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

ヤマシャクヤクと異なりやや草地性で、林縁などに生育することが多い。しかしある程度は耐陰性があり、造林地の中などに残存していることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

もともとあまり多くない上に、園芸目的の採取により著しく減少している。山草愛好家に見つかれば、まず即刻絶滅である。ある場所では、山草愛好家の目を引かないよう、地元の人がつぼみをすべて摘みとっている。致し方ないことであるが、これでは植物は繁殖できない。

【保全上の留意点】

基本的には国民共有の資産である自然物を個人の庭に取り込んでしまう山草愛好家のモラルが問題であるが、このような道義的な訴えだけでは目前に迫る絶滅を回避できない。当面は秘匿以外に有効な手がなく、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

本書のベニバナヤマシャクヤクは、ケナシベニバナヤマシャクヤクを含むものである。

【引用文献】

小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.45,142. 愛知県林業試験推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草Ⅱp.217、平草Ⅱp.111、SOS 旧版 p.53、環境庁 p.291、SOS 新版 p.18,20.

ナガミノツルケマン *Corydalis ochotensis* Turcz. var. *raddeana* (Regel) Nakai

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 2。大陸系の植物で、分布域は広いが、個体数は少ない。愛知県においても、生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

夏型または冬型の 1 年生草本。茎は斜めによく伸びて分枝し、長さ 1m くらいになる。葉は互生し、有柄、葉身は 3 角形で長さ幅ともに 7~12cm、2~3 回 3 出複葉となり、小葉は長楕円形~倒卵形で多くは 3 深裂し、裂片は長さ 10~15mm である。花期は 8~10 月、枝の先に総状花序を出し、淡黄色の花をつける。花は長さ 10~15mm、距は先端が少し湾曲し、もとに卵形で長さ 1~1.5cm の苞がある。果実は細長く線状倒披針形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

稲武 (芹沢 67246)。1 カ所に小群落があるだけである。

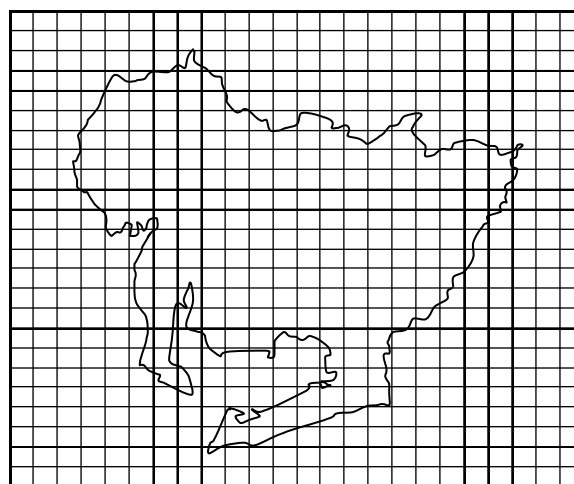
【国内の分布】

北海道、本州、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、シベリア東部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山中の林縁などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育状況には年による変動があり、ほとんど見られないこともある。やや攪乱された場所なので、特に破壊行為がなくても将来の存続が懸念される。

【保全上の留意点】

絶滅危惧種は自生地で野生状態で保全することが原則であり、移植や栽培は保全策にはならない。しかし本種のようにやや不安定な立地に生育する絶滅危惧植物の場合は、保険的措置として、現地での保全と平行して人為的な系統保存も行う必要がある。

【特記事項】

環境省のレッドリストでは、「ナガミノツルケマン」とされている。

【関連文献】

保草Ⅱp.192、平草Ⅱp.125。

ヤマキケマン *Corydalis ophiocarpa* Hook. et Thoms.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。多少不安定な、それでいて自然度の高い場所に生育しており、全国的に見ても希少な植物である。愛知県においても、生育地、個体数ともに極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。茎は叢生して斜上し、高さ 40～80cm になる。葉は有柄、葉身は卵形～狭卵形で、長さ 10～15cm、幅 5～8cm、1～2 回羽状に切れ込み、小葉は更に卵形の裂片に分かれ、欠刻がある。花期は 5～7 月、枝の先端に総状花序を伸ばし、密に淡黄緑色の花をつける。花は長さ 8～13mm で短い距があり、もとに披針形で小さく、先端が糸状に細まる苞がある。果実は線形でいちじるしく屈曲し、長さ約 3cm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

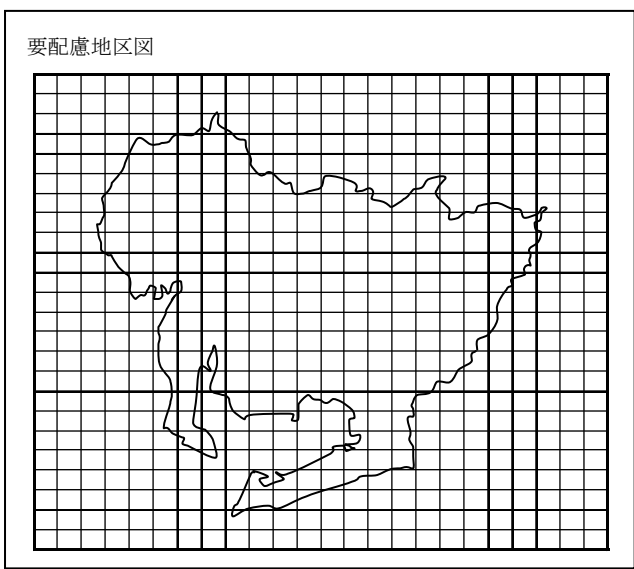
設楽東部 (小林 51677)。

【国内の分布】

本州 (関東地方以西) および四国。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸、インド北部。



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の半日陰の礫地や岩上に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

個体数は少ないが、よく発育した個体もあるという。生育地は山地で当面開発が想定されるような場所ではなく、治山事業などで手を加えなければ、当分はそのまま存続すると思われる。長期的には、土地の安定化に伴う遷移の進行によって衰退する可能性がある。

【保全上の留意点】

崩壊地のような不安定な場所も、自然の重要な一部であることを認識する必要がある。また、遊歩道などを整備する際には注意が必要である。

【特記事項】

淡黄緑色の花と著しく屈曲する果実がよい特徴である。

【関連文献】

保草Ⅱp.192、平草Ⅱp.125、SOS 旧版 p.54。

コンロンソウ *Cardamine leucantha* (Tausch.) O.E.Schulz

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 1。愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、上部は分枝し、高さ 30～70cm になる。葉は互生し、長い柄があり、葉身は羽状複葉、小葉は 5～7 個で長楕円状披針形、長さ 7～12cm、幅 1.5～3cm、先は鋭尖頭、基部はくさび形、辺縁に鋸歯、両面に毛がある。花期は 4～7 月、枝の先端に総状花序を伸ばし、白色の花をつける。花弁は 4 枚で倒卵形～長倒卵形、長さ 5～10mm である。果実は線形で、長さ約 2cm になる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄 (小林 36956)。1 カ所にごく少数の個体が生育しているという。全国的には特に希少ではなく、鈴鹿山脈などでも比較的多い植物である。設楽町からも記録されている (国土交通省中部地方整備局, 2006) が、まだ自生地を確認できない。

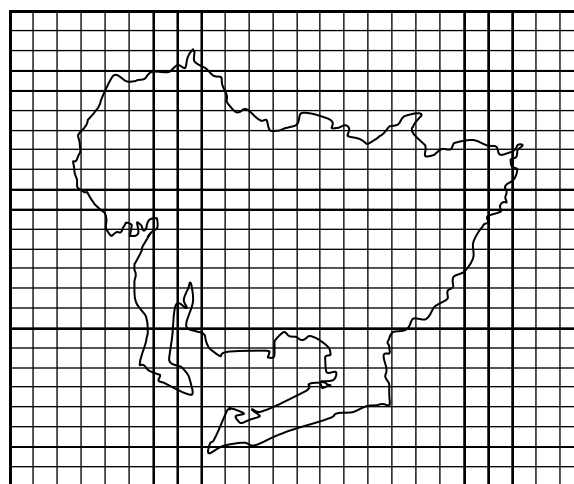
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸北部・東北部、アムール、ウスリー、シベリア東部など。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の沢沿いの林縁などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

沢沿いの若いスギ造林地に少数の個体が生育してただけで、「(現在は) 林縁に花のつかない衰弱した数株が残っていたにすぎなかった。おそらく近いうちに消滅すると思われる」と報告されている (小林, 2006)。

【保全上の留意点】

造林地の適切な管理が必要である。手入れが継続されていれば、林内では消滅しても、林縁で存続できると思われる。

【特記事項】

和名は、白い花を崑崙山の雪に例えたものである。

【引用文献】

国土交通省中部地方整備局, 2006. 豊川水系設楽ダム建設事業環境影響評価準備書 6.1.6. 33-34. 同局, 名古屋.
小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.48. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草Ⅱp.175、平草Ⅱp.132。

アオベンケイ *Hylotelephium viride* (Makino) H. Ohba

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。自然度の高い森林に依存する植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生草本。茎は斜上し、高さ 20~50cm になる。葉は対生し、1~1.5cm の柄があり、葉身は卵形で長さ 3~6cm、幅 1.5~4cm、先端は円頭~鈍頭、辺縁には不明瞭な波状の鋸歯がある。花期は 9~10 月、茎の先端に散房状花序をつけ、淡黄緑色の花を半球形に密生してつける。がく片は 3 角形で長さ約 1.5mm、花弁は 5 枚で楕円状倒披針形、長さ約 4.5mm、裂開直前の葯は淡褐色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

稲武 (小林 40047)。1 カ所に、少数の個体が生育している。

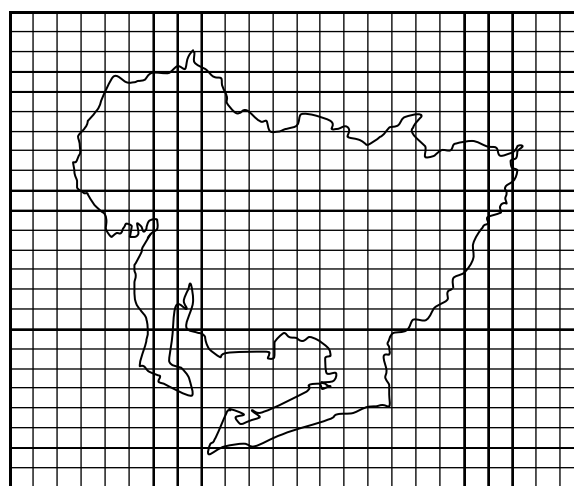
【国内の分布】

本州 (中部地方以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

深山の落葉広葉樹林の、老木の樹上に着生する。岩上に生育することもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

個体数は少なく、発育状態もあまりよくない。森林が衰退すれば絶滅する可能性が高い。

【保全上の留意点】

本種が生育できるような自然度の高い森林は、愛知県ではわずかに残存するだけであり、現在残っている林は嚴重に保全する必要がある。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

ベンケイソウ類の中では数少ない、着生性の種である。

【関連文献】

保草Ⅱp.、平草Ⅱp.151、SOS 旧版 p.55。

コガクウツギ *Hydrangea luteo-venosa* Koidz.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 2。西日本系の植物で、愛知県は近畿地方以西と伊豆半島をつなぐ、地理的に重要な自生地である。県内では生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

落葉性の小低木。高さ 1.5m 程度になる。樹皮は短冊状にはがれる。葉は対生し、長さ 2~5mm の柄があり、葉身は長楕円形~広倒披針形、先端は鋭頭、基部はくさび形、長さ 3~5cm、葉縁には 3~4 の低い鋸歯がある。表面はしばしば脈に沿って黄斑があり(愛知県のものはない)、裏面は淡緑色でやや光沢がある。花期は 6~7 月で、2~3 対の葉のある短枝の先端に、10~20 花からなる直径 2~7cm の集散花序をつけ、うち 1~2 個は白色の装飾花、残りは淡黄緑色の通常花である。装飾花のがく片は 3~4 枚で、卵形~ほとんど円形、大きいものは長さ 2cm に達する。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部(小林 66179)、名古屋北部(芹沢 81345)。各 1 カ所に少数の個体が生育しているだけである。

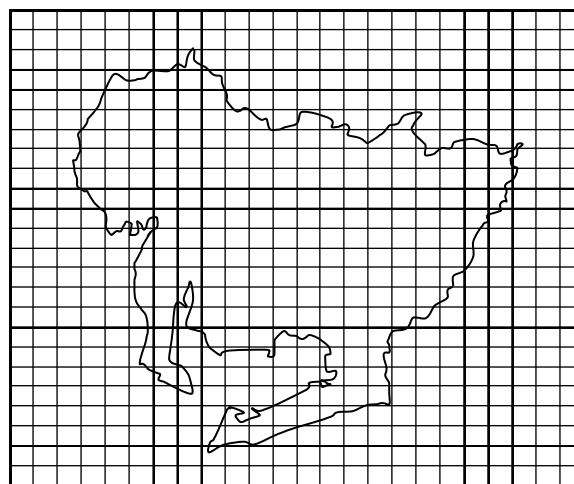
【国内の分布】

本州(伊豆半島、愛知県、近畿地方以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

暖帯域の丘陵地、低山地の斜面に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

豊橋北部では沢沿いのスギ造林地内に生育しているが、林内の光条件が悪化しており、今後衰退する可能性がある。名古屋北部は二次林内に数株が離散して生育しているが、近くまで開発が進んでいる。

【保全上の留意点】

造林地については、間伐などの適切な管理が必要である。名古屋北部では僅かに残った丘陵地の地形を保全することが必要である。

【関連文献】

保木 II p.118、平木 I p.171。

シラヒゲソウ *Parnassia foliosa* Hook.f. et Thoms. var. *nummularia* (Maxim.) T.Ito

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 1。湿地性の植物で、愛知県では生育地が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。茎は 3～8 本が束生し、分枝せず、高さ 15～30cm になる。根出葉は 2～13cm の長い柄があり、葉身は広卵形、長さ幅ともに 1.5～4cm、先端は円形で凸端に終わり、基部は深い心形である。花茎には 4～6 個の無柄で多少茎を抱く茎葉がつく。開花期は 8～9 月、茎の先端に直径 2～2.5cm の白い花を 1 個つける。花弁は 5 枚、卵形で長さ 9～12mm、縁は糸状に細裂し、基部は急に細まり、花時には斜開または平開する。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊田北西部（芦沢 50812）。1 カ所だけに自生しており、現在は市指定の天然記念物として保護されている。岐阜県美濃地方には点在する。

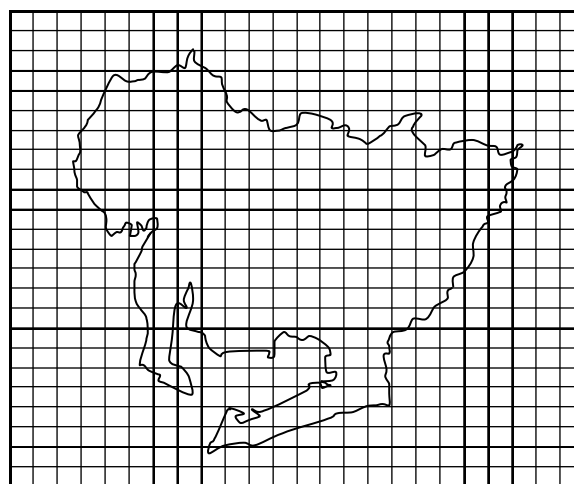
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の湿地やその周辺の林縁などに生育する。愛知県の生育地は、丘陵地の沢沿いの湧水のある場所である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地自体は保護されているが、周囲の樹木が生長して被陰され、次第に衰退している。水源となる丘陵地の保全も心もとない。台地の上が開発されれば、存続は困難である。

【保全上の留意点】

周辺の樹木を伐採して光条件を回復させると共に、水源部の保全を図る必要がある。

【特記事項】

同属のウメバチソウ *P. palustris* L. var. *multiseta* Ledeb. は、愛知県の湿地には比較的多く生育している。

【関連文献】

保草Ⅱp.143、平草Ⅱp.154、SOS 旧版 p.56。

ヤシャビシヤク *Ribes ambiguum* Maxim.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 4、固有度階級 2。自然度の高い森林に依存する植物で、著しい園芸目的の採取圧がある。

【形態】

落葉性の小低木。根は他の樹木の幹上をはう。幹はよく分枝し、高さ 30~50cm、枝は長枝と短枝がある。葉は互生し、長さ 1.5~3cm の柄があり、葉身は腎円形または丸みを帯びた五角形、直径 3~5cm、掌状に 3~5 浅裂し、先端は円形、基部は心形、辺縁には浅い欠刻状の鈍鋸歯があり、両面に短毛がある。花期は 4~5 月、花は各短枝の先端の葉間に 1~2 個ずつつき、がくは 5 裂、がく片は淡緑白色で花弁より大きく、長さ 5~8mm である。果実は秋に熟し、球形で熟しても緑色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山 (小林 46896)、豊根 (小林 42359)、東栄 (小林 56442)、設楽西部 (山崎玲子 2738) 鳳来南部 (小林 62667)、稲武 (芹沢 74880)。鳳来北東部 (鳳来寺山東照宮前のスギ) にも着生しているが、高くて標本を採取できない。足助 (葛沢, 川合 s.n., 1931-8-15) で採集された標本もある。

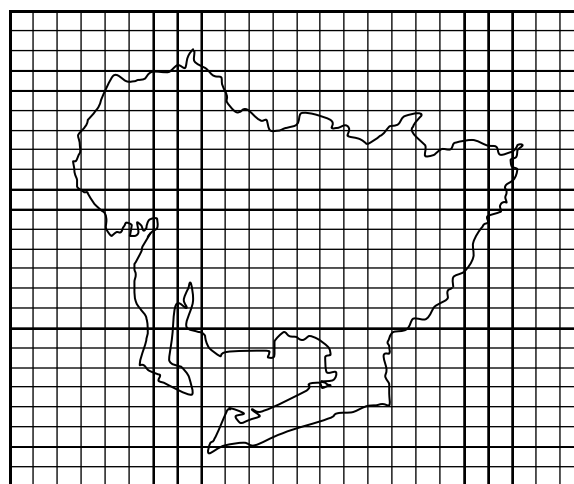
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、中国大陸西部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の落葉広葉樹の樹幹に着生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地も個体数も少ない。どういうわけか盆栽の対象として珍重され、手の届くような所のはほぼ採り尽くされている。自然林が広範囲に伐採された時代にはそれにより激減したと思われるが、現在は園芸目的の採取が減少の主要因である。

【保全上の留意点】

本種が生育できるような自然度の高い森林は、愛知県ではわずかに残存するだけであり、現在残っている林は嚴重に保全する必要がある。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、果実の形によると言われている。

【関連文献】

保木 II p.103、平木 I p.160、SOS 旧版 p.57、環境庁 p.473。

シモツケソウ *Filipendula multijuga* Maxim.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 1。愛知県では希少な植物で、生育範囲が狭く、開発により減少している。

【形態】

多年生草本。高さ 30～80cm になる。葉は根生または茎上に互生し、奇数羽状複葉、頂小葉は大きく円形で幅 5～10cm、掌状に 5～7 に中～深裂し、基部は心形、裂片は鋭尖頭で、辺縁には鋸歯と欠刻がある。側小葉は 8～10 対あって、下部のものほど小さく、長さ 3～30mm である。托葉は膜質で、茎に沿って直立する。花期は 7～8 月、茎の先端に集散花序をつけ、花は紅色で直径 4～5mm、花弁は卵円形で、辺縁に小さい歯牙がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部(芹沢 55927)。分布範囲は狭いが、その範囲では比較的多い。

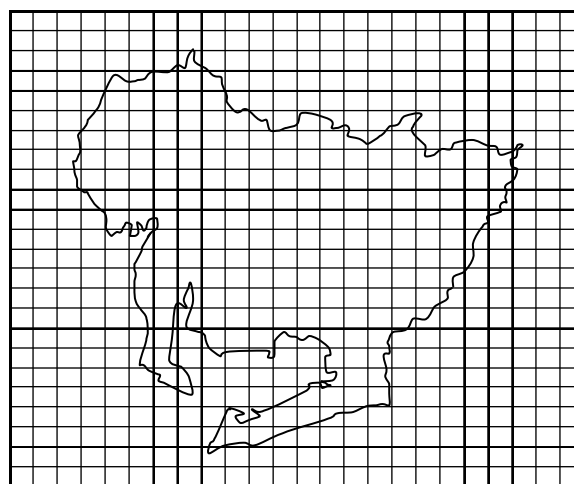
【国内の分布】

本州(関東地方以西)、四国、九州の主として太平洋側の山地に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

やや湿った草地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

現在の所はまだ比較的多いが、耕地整理等により山すその里草地が開発され、次第に減少している。開発を免れた場所でも、場所によっては周辺の樹木が生長して被陰され、ほとんど花が咲かない状態になっている。場所によっては、園芸目的で採取されている。

【保全上の留意点】

山間部の水田周辺の里草地(いわゆるボタ)は、草地性植物が多く生育しており、その中には絶滅危惧植物も多い。文化遺産としても重要で、特に保全に配慮する必要がある。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、花がシモツケに似ているからである。

【関連文献】

保草本Ⅱp.123、平草本Ⅱp.175、SOS旧版p.57。

オオダイコンソウ *Geum aleppicum* Jacq.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 1。温帯性の植物で、愛知県は分布域の南限に近い。県内では、生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生草本。茎は直立して上方で分枝し、高さ 60~100cm になり、全草に開出した剛毛がある。根出葉は大きく、奇数羽状複葉で長さ 18~45cm、頂小葉はひし状卵形、長さ 5~10cm、先端は鋭頭、基部はくさび形、辺縁には重鋸歯がある。側小葉は 3~4 対あって、下部のものほど小さく、長さ 1~5cm になる。茎葉は 3 小葉からなり、托葉は大きく、辺縁にあらい欠刻状の歯牙がある。花期は 7~9 月、花は黄色で枝の先に 1 個ずつつき、直径 15~20mm、花弁は 5 枚である。集合果は倒卵形、そう果は紡錘形であらい毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

津具（芹沢 67395）。

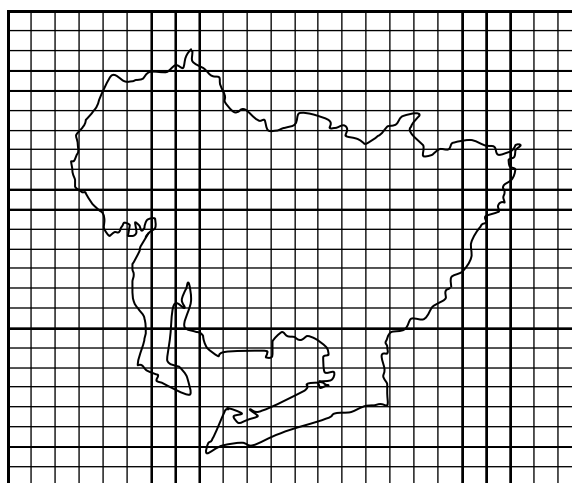
【国内の分布】

北海道および本州中北部に生育する。長野県まで行けば、稀な植物ではない。

【世界の分布】

サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸、シベリアからヨーロッパにかけて広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

県内では、1カ所にごく少数の個体が生育しているにすぎない。現地は路傍で、道路工事等により消滅するおそれがある。

【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

ダイコンソウの名は、葉の形がダイコンに似ているからである。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.128、平草本Ⅱ p.182。

エチゴツルキジムシロ *Potentilla toyamensis* Naruhashi et T.Sato

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。日本海系の、分布域の狭い種で、愛知県はその太平洋側の限界にあたる。県内では生育地が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。高さ 5~30cm になる。根茎は太く、葉を束生し、長い匍枝を出す。葉は長い柄があり、葉身は奇数羽状複葉、小葉は 5 個、下方の 1 対は小さく、ときに消失し、頂小葉は楕円形、長さ 1.5~5cm、先端は鈍頭、辺縁には鋸歯がある。花期は 4~6 月、花茎は細く、先端に分枝した花序をつけ、直径 15~20mm の黄色の花をまばらに咲かせる。

【分布の概要】

【県内の分布】

犬山 (芹沢 72791)。1 カ所に小群落があるだけである。

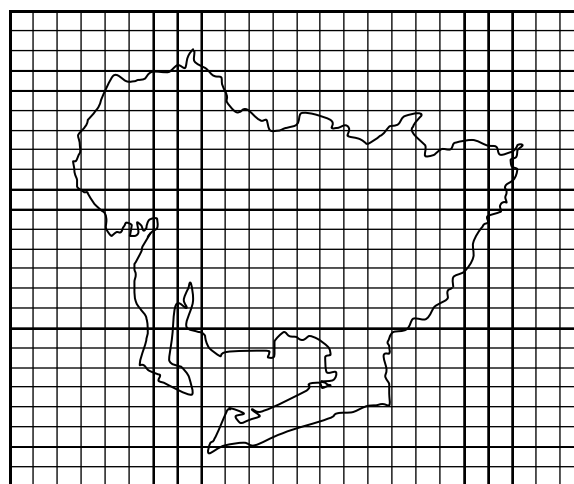
【国内の分布】

本州中部。富山県、石川県、岐阜県の山地に生育しており、愛知県は分布の南限である。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

丈の低い草地、林道わきの崩壊地などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

現在のところ特に減少してはいないが、1 カ所だけなので何かあれば容易に絶滅する。

【保全上の留意点】

本種に関しては、むしろ関心を持たれない方が保全上好都合かもしれない。

【特記事項】

キジムシロに比べ、匍匐枝を出し、小葉は 5 枚であることで区別される。比較的近年になって記載された植物である。

【関連文献】

平草本 II p.179、SOS 旧版 p.58。

ミヤマチョウジザクラ *Prunus apetala* (Sieb. et Zucc.) Franch. et Sav.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。分布域の狭い植物で、愛知県はその南限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

落葉性の小高木。幹は基部から分枝して樹形は傘状となり、高さ 4~7m になる。樹皮は灰褐色で皮目が点在する。葉は互生し、倒卵形、長さ 5~8cm、幅 2.5~4cm、先端は尾状に伸びた鋭尖頭、基部は円形または切形、辺縁には鋭く深い重鋸歯があり、表面に伏した毛を散生する。花期は 4~5 月、花は葉よりわずかに早く開き、前年の枝の葉腋に 1~3 個下向きにつき、白色。花弁は 5 枚で先端はへこみ、がく筒は長く、まばらに毛がある。果実は球形で直径 8mm 程度、黒色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部（芹沢 81429）。1 カ所（段戸山裏谷）に少数の個体が散在しているだけである。

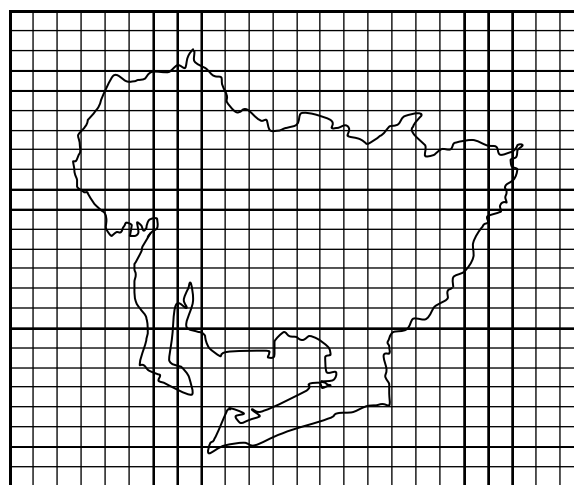
【国内の分布】

本州中部（長野県、愛知県、岐阜県、滋賀県東部、三重県北部）。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

沢沿いの林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

個体数は少なく、しかも周囲の樹木の生長による被陰で衰退傾向にある。

【保全上の留意点】

生育地自体は学術参考林として保護されている。この保護措置により沢沿いの森林が生長したことが、本種の存続が困難な状況を作り出している。本種に関しては、周囲の木の伐採など、個別的な保護が必要と思われる。

【特記事項】

比較的近年になって注目された植物で、最近になって従来チョウジザクラにあてられていた学名の基準標本はこの植物であることが判明した。チョウジザクラからは、葉縁の鋸歯が深く欠刻状であることで区別できる。

【関連文献】

平木本 I p.192。

キンキマメザクラ *Prunus incisa* Thunb. var. *kinkiensis* (Koidz.) Ohwi

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。日本海系の植物で、愛知県は分布域の太平洋側の限界にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

落葉性の小高木。よく枝分かかれし、高さ 7~8m になる。若枝は無毛である。葉は互生し、倒卵形または広倒卵形、長さ 3~6cm、幅 2~4cm、先端は尾状鋭尖頭、基部は広いくさび形または円形、辺縁には重鋸歯があり、両面に毛を散生する。花期は 4~5 月、花は葉と同時に下向きに咲き、直径 1.8~2cm、ほとんど白色。花弁は 5 枚、卵形または倒卵形で先端はへこみ、長さ 8~10mm、幅 4~9mm、がく筒は長い。果実は球形で直径 7mm 程度、黒色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄(小林 34166)、設楽東部(芹沢 69000)。

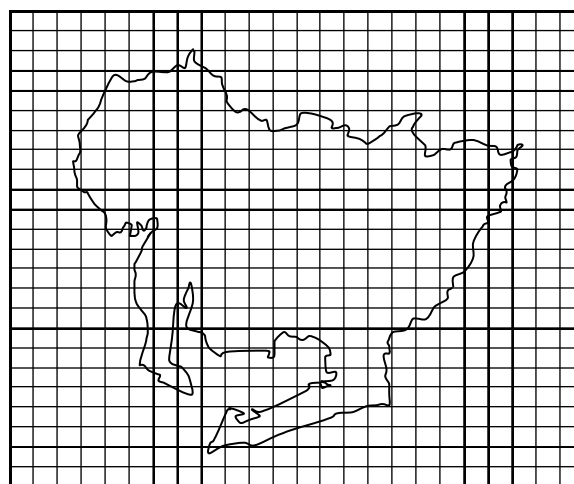
【国内の分布】

本州(北陸地方西部、長野県南部、愛知県、岐阜県、近畿地方、中国地方東部)。

【世界の分布】

日本固有。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

日本海側では丘陵地の二次林内などにやや普通に見られるが、太平洋側に近いところでは岩崖地などの急峻な地形の場所に遺存的に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

2カ所に生育しているが、どちらも個体数は極めて少ない。刈り払いなどがあれば容易に絶滅する。

【保全上の留意点】

生育地は特に開発が想定されるような場所ではないが、希少種であることを意識しない不用意な伐採などによって失われるおそれがある。遊歩道の整備などに際しては、細心の注意が必要である。

【特記事項】

マメザクラの変種とされているが、実際にはチョウジザクラ系の植物である可能性があり、分類学的に再検討を要する。

【関連文献】

保木本Ⅱ p.11、平木本Ⅰ p.193、SOS 旧版 p.58。

アイズシモツケ *Spiraea chamaedryfolia* L. var. *pilosa* (Nakai)H.Hara

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。温帯性の低木で、愛知県は本州での南限にあたる。県内では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

落葉性の低木。よく分枝し、高さ 2m くらいになる。葉は互生し、狭卵形～卵形、先端は鋭頭、基部はほぼ円形または広い切形、長さ 3～6cm、幅 1.5～3.5cm、辺縁は基部を除き重鋸歯があり、表面は緑色で裏面は淡緑色である。側脈は 4～6 本が目立ち、鋸歯の先端に達する。花期は 5～6 月、今年枝の先端の散房状花序に、10～20 個の白色の花をつける。花は直径約 10mm、花弁は 5 枚である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄 (小林 34200)。

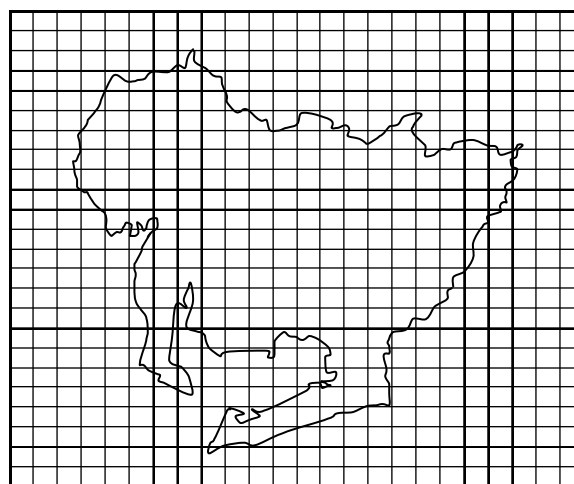
【国内の分布】

北海道、本州 (中部地方以北)、九州 (熊本県)。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、アムール、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の崖状地や林縁などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

少数の個体が、林内の岩場に点在しているという。一般の登山者が入り込むような場所ではなく、そのため現状が維持されている。

【保全上の留意点】

自生地は、当面開発が想定されるような場所ではない。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

基準変種は、ヨーロッパ、シベリアに分布している。

【関連文献】

保木本 II p.96、平木本 I p.183、SOS 旧版 p.59。

ハマナタマメ *Canavalia lineata* (Thunb.)DC.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。暖地性の海浜植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

つる性の多年生草本。茎はよく伸長し、長さ 5m 以上に達する。葉は互生し、長さ 6~10cm の柄があり、葉身は 3 出葉、小葉は円形~広倒卵形で鋭頭または鈍頭、長さ 5~12cm、幅 4~10cm、革質で表面は黄緑色を帯び、やや光沢がある。花期は 6~8 月、花は総状花序につき、1 花序に長さ 2.5~3cm の淡紅色の蝶形花を十数個つける。がくは 5 裂し、上下 2 片にわかれ、長さ約 1cm である。豆果は大きく、長さ 5~10cm、幅 3~3.5cm、内部はスポンジ状で、2~5 個の種子が入っている。種子は褐色、楕円形で長さ 15mm 内外である。

【分布の概要】

【県内の分布】

渥美(芹沢 80399)、知多南部(芹沢 82131)。伊良湖岬周辺の狭い範囲に、少数の個体が生育しているだけである。

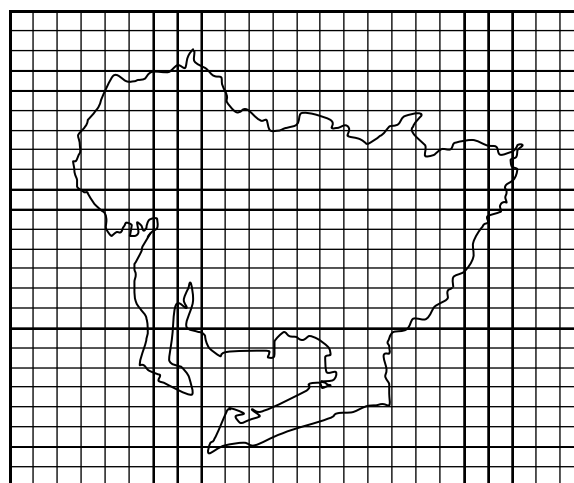
【国内の分布】

本州(太平洋側は千葉県以西、日本海側は山形県以西)、四国、九州、琉球、小笠原。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸の砂浜やその背後の崖状地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

現在のところどちらの区画でもよく開花するが、個体数は少なく、観光開発や土木工事により消滅するおそれがある。生育地は訪れる人が多い場所で、花が大きく目立つため、摘まれることもある。

【保全上の留意点】

各種工事等の際には、特に注意が必要である。

【特記事項】

大きな豆果が特徴である。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.118、平草本Ⅱ p.210、SOS 旧版 p.59。

シバハギ *Desmodium heterocarpon* (L.)DC.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。暖地性の草地性植物で、愛知県では個体数が少なく、生育できる場所も減少している。

【形態】

草本状の落葉性半低木。茎は根元でよく分枝し、地面をはい、先端は斜上し、長さ 1m に達する。葉は互生し、3 出葉、頂小葉は側小葉よりやや大きく、倒卵形～楕円形、円頭またはやや凹頭、長さ 1.5～4cm、幅 1～2cm である。花期は 8～10 月、枝の先端や葉腋に長さ 5～10cm の総状花序をつけ、花は紅紫色、長さ 4～5mm である。果実は 5～8 小節果からなり、扁平な広線形で長さ 1.5～2cm、あまり曲がらず、小節果は長さ、幅とも 3mm 程度、若時は幅広く接着するが熟すとばらばらになり、全面にかぎ毛があり、動物に付着する。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来北西部（小林 53893）、新城（小林 39504）、豊川宝飯（小林 39206）、岡崎北部（芹沢 68057）、幸田（壁谷祥和 165）。ただしほとんどの場所でごく最近の状況が確認されておらず、一部は既に絶滅した可能性がある。蒲郡御津（三ヶ根山, 加藤等次 s.n., 1956-9-23）、渥美（伊良湖岬, 岡田善敏 s.n., 1948-10-22）などで採集された標本もある。

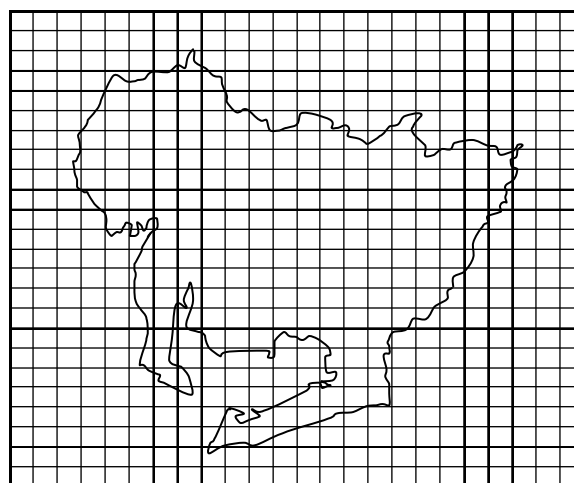
【国内の分布】

本州（静岡県以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、済州島、台湾、中国大陸、フィリピン、インドシナ、インド、ヒマラヤ。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

日当たりのよい草地に生育する。紀伊半島南部まで行けば路傍などの攪乱地にも見られるが、愛知県の生育地はいずれもやや安定した里草地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

他の多くの小形草地性植物と同様、採草場が利用されなくなるにつれ繁茂した大形の草本に被陰されることが多く、急激に衰退している。

【保全上の留意点】

丘陵地や低山地の谷戸田周辺にある里草地（いわゆるボタ）は、草地性植物が多く生育しており、その中には絶滅危惧植物も多い。文化遺産としても重要で、特に保全に配慮する必要がある。

【特記事項】

クサハギとも呼ばれる。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.101、平草本Ⅱ p.203、SOS 旧版 p.59。

ミヤマトベラ *Euchresta japonica* Hook.f. ex Regel

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。自然度の高い森林に依存する植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

常緑性の半低木または低木。茎の下部は横にはって根を出し、上部は直立し、大きいものは高さ 80cm になる。葉は互生し、長さ 4~6cm の柄があり、葉身は 3 出葉、小葉は楕円形~倒卵形、先端は鈍頭~円頭、基部は円形、長さ 5~9cm、幅 3~5cm、薄い革質、表面は深緑色で光沢があり、辺縁は多少裏側に巻き込み全縁である。花期は 6~7 月、茎の先端の総状花序に、白色の蝶形花をつける。豆果は楕円形、長さ 12~15mm、幅 8~10mm、長さ 4~8mm の柄があり、黒紫色に熟し、中に 1 個の種子がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来北東部(芹沢 82574)、新城(鳥居栄一 s.n.)。それぞれ小群落がある。

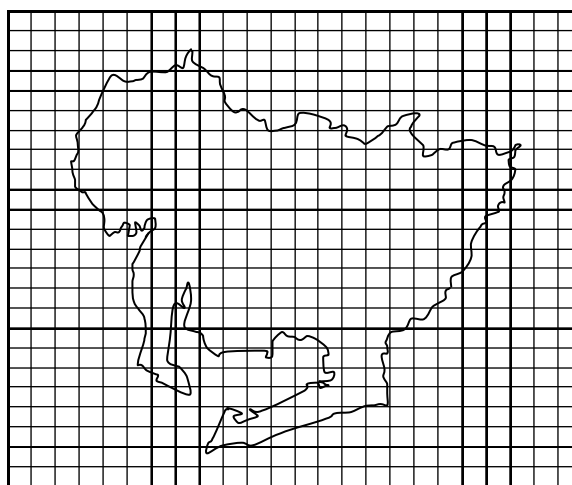
【国内の分布】

本州(関東以西の太平洋岸地域、兵庫県、山口県)、四国、九州。

【世界の分布】

日本、済州島、中国大陸(広東省・広西省)。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

常緑広葉樹林内に生育する。時にはかなり暗い場所にも生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

鳳来北東部(鳳来寺山)は、昔からよく知られた自生地である。現地の森林は国指定天然記念物として保護されているが、観光地であるだけに攪乱も受けており、本種も減少傾向にある。新城では最近発見されたが、まだ現状を確認していない。

【保全上の留意点】

それほど目立つ植物ではないが、個別的な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、光沢のある小葉がトベラの葉に似ているからである。

【関連文献】

保木本 I p.343、平木本 I p.242、SOS 旧版 p.59。

クロバナキハギ *Lespedeza bicolor* Turcz. var. *higoensis* (T.Shimizu) Murata

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 4。愛知県東三河地方の山地を特徴づける植物の一つで、本地域に著しい隔離分布をする。県内では生育地も個体数も少ない。

【形態】

落葉性の半低木。高さ 2m に達する。葉は互生し、3 出葉、頂小葉は楕円形、円頭からやや鋭頭、長さ 1.5cm～4cm、裏面に短毛がある。花期は 7～9 月、葉腋の比較的短い総状花序に、長さ 11～15mm の暗赤紫色の蝶形花をつける。がく裂片は筒部より短く、円頭で毛が少ない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄（小林 38794）、鳳来北東部（芹沢 81262）。

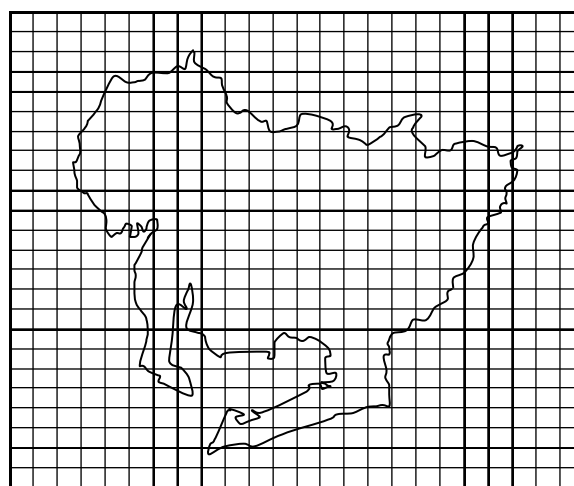
【国内の分布】

本州（愛知県）と九州（熊本県）に隔離的に分布する。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島南部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の岩崖地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地は少なく、またどの場所でも個体数は多くない。自然の岩場のほか、林道わきなどに生育していることもあり、後者の場合は道路の改修等により消滅するおそれがある。ハギ類としては花が少なく、まばらにつき、あまり見栄えがしないが、希少種とわかれば園芸目的で採取されるおそれもある。

【保全上の留意点】

道路の改修等が行われる場合、法面に岩肌が残されればそのうちに再度生育する可能性があるが、コンクリートで固められれば復活は不可能である。工事に際し、配慮が必要である。

【特記事項】

花は暗赤紫色であるが、「クロバナ」というほど暗色ではない。

【関連文献】

平草本Ⅱ p.205、SOS 旧版 p.60+図版 7、環境庁 p.479、SOS 新版 p.46,48。

ノハラクサフジ *Vicia amurensis* Oettingen

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的に希少な大陸系の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

つる性の多年生草本。長さ 150cm に達する。葉は互生し、偶数羽状複葉、先端は分枝する巻きひげとなる。小葉はほとんど葉の基部から互生してつき、10~16 枚、狭楕円形~卵状楕円形、鋭頭~円頭、長さ 1.5~3cm、幅 8~12mm である。花期は 6~8 月、葉腋に長さ 3~12cm の総状花序をつける。花は花序の一方に偏ってつき、青紫色、長さ 8~10mm の蝶形花である。豆果は短柄があり、長楕円形、長さ 1.5~2.5cm、幅 5~7mm、無毛である。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山 (山崎玲子 2717)、豊根 (小林 39356)。
各 1 カ所に小群落がある。

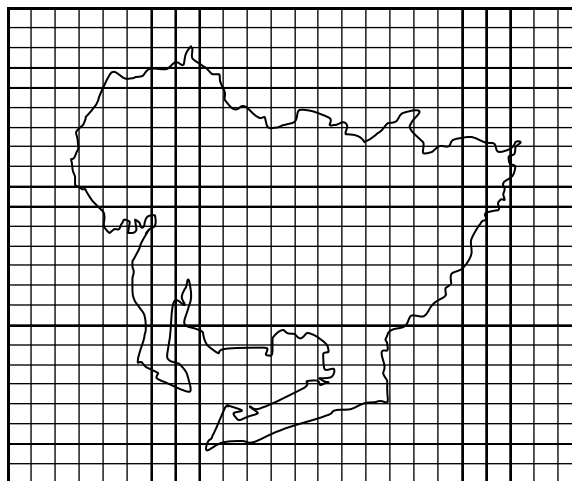
【国内の分布】

本州 (秋田県および中部地方)、九州 (薩摩半島)。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、アムール、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

草地や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

道路沿いの林縁に少数個体が生育している。林の木に被陰されて、衰退傾向にある。

【保全上の留意点】

道路の拡幅に際しては配慮を要する。

【特記事項】

ノハラクサフジの名があるが、クサフジ自体草地性の植物である。クサフジは愛知県では津具 (面ノ木峠) の路傍に生育しているが、おそらく法面緑化の際に持ち込まれたものである。本種も法面緑化の際に持ち込まれた可能性があり、もしそうならば保全対象外となるが、移入と断定するだけの証拠もない。

【関連文献】

保草本 II p.108、平草本 II p.198。

ビワコエビラフジ *Vicia venosa* (Willd.) Maxim. var. *stolonifera* Endo et Ohashi

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 3。分布域の限られた植物で、愛知県はその南東限にあたる。県内では生育地が極めて少ない。

【形態】

多年生草本。長い地下茎で栄養的に繁殖する。茎は数本叢生し、分枝せず、高さ 50~80cm になる。葉は互生し、短い柄があり、葉身は偶数または奇数羽状複葉、長さ 8~12cm、先端の巻きひげは痕跡的である。小葉はほぼ対生し、3~5 対、広披針形~狭卵形、先端は鋭尖頭、基部はくさび形、長さ 3~6cm、幅 0.8~1.5cm、辺縁は全縁である。花期は 6~8 月、花序は総状で葉腋につき、長さ 1~2cm で 2~3cm の柄がある。花は一つの花序に 3~15 個つき、紅紫色、長さ 13~15mm の蝶形花、小花柄は細く、1~3mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

瀬戸尾張旭 (芹沢 75789)。1 カ所だけに生育している。

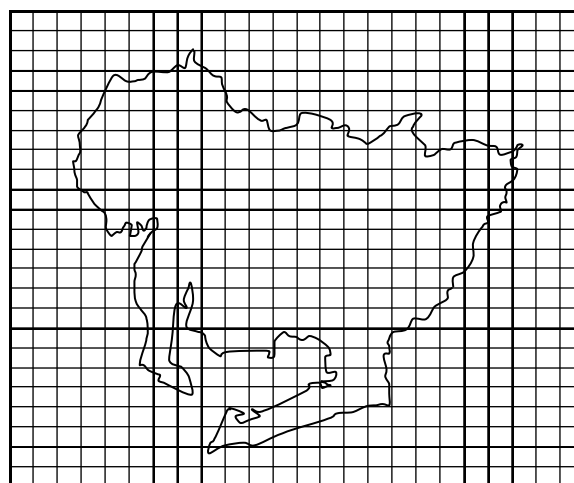
【国内の分布】

本州中部 (愛知県、岐阜県、三重県、滋賀県、京都府)。鈴鹿山脈北部には点々と生育していたが、ここではシカの食害により激滅している。種としては本州、四国、九州に分布し、いくつかの地理的な変種に分類される。

【世界の分布】

日本固有。種としても日本固有である。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

沢沿いの林縁や林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

1 カ所に小群落があるだけである。現在のところ栄養的にはよく繁殖しているが、林内であるためか開花結実する個体は少ない。自生地の近傍まで開発される予定であったが、計画が中止されて、とりあえず難を免れた。ただし現状のままでは、長期的には被陰により衰退してしまうものと思われる。

【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。有性繁殖による個体群の維持のためには、伐開などにより光条件を改善する必要がある。

【特記事項】

比較的近年になって記載された植物で、長い地下茎で栄養的にも繁殖することが特徴である。「植物からの SOS」(SOS 旧版) では、エビラフジとして掲載されている。

【関連文献】

SOS 旧版 p.60 (エビラフジとして)、SOS 新版 p.75,77。

オオヤマカタバミ *Oxalis obtriangulata* Maxim.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的に見ても比較的希少な植物で、愛知県では生育地が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。総点は 13 であるが、生育状況を考慮し EN と評価する。

【形態】

多年生草本。太い根茎があり、先端に 1~2 個の葉と 1~2 本の花茎を束生する。葉柄は長さ 10~20cm、葉身はほぼ同形の 3 小葉からなり、小葉は倒 3 角形、幅 2~6cm、上縁は切形で両端はとがる。花期は 4 月、花茎は葉が展開する前に伸長し、高さ 8~15cm で、先端に 1 個の花をつける。花は白色で直径 2.5~3.5cm。花弁は 5 枚で、脈は紫色である。果実は円柱形、長さ 2~3.5cm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来北東部（小林 50434）。1 カ所だけに生育している。

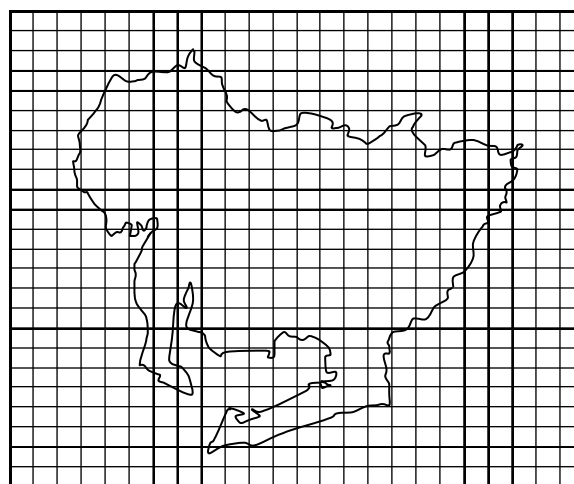
【国内の分布】

本州中部および九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、ウズリ一。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

自生地は神社裏の造林地で、生育範囲も広いものではない。

【保全上の留意点】

間伐など、造林地の適切な管理が必要である。社殿の改修等の際に皆伐されないよう、注意が必要である。

【特記事項】

ミヤマカタバミに似ているが、小葉の両端が尖ることが特徴である。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.86、平草本Ⅱ p.216、SOS 旧版 p.61、環境庁 p.480。

ミツバフウロ *Geranium wilfordii* Maxim.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。山地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。茎の基部は地をはい、上部は立ち上がってよく分枝し、高さ 30～80cm になる。葉は対生し、長い柄があり、葉身は茎の下部のものは 5 深裂、上部のものは 3 深裂し、幅 3～10cm、裂片には大きな数個の鋸歯がある。托葉は離生し、細い。花期は 7～10 月、葉腋から長さ 3～4cm の花柄を出し、その先に 2 個の花をつける。花は淡紅色またはほとんど白色、直径 1～1.5cm、花弁は 5 枚である。茎の上部、葉柄、花柄には、下向きの屈毛と圧毛がある。果実は長さ約 2cm で、熟すと下方から裂開し、種子をはじき飛ばす。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄（小林 39383）。1 カ所だけに生育している。

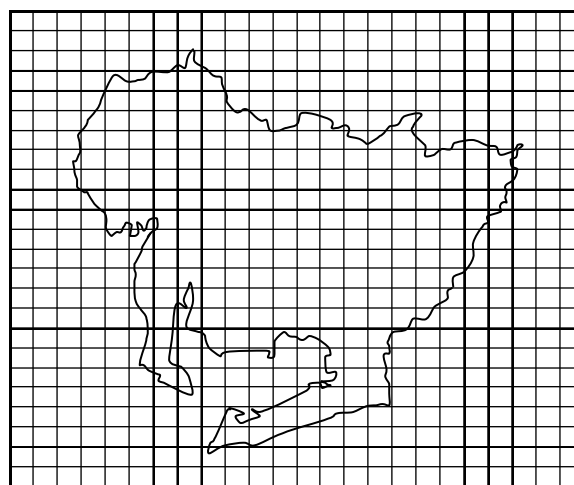
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、アムール。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

全国的に見ればそれほど希少な植物ではないが、愛知県では極めて少なく、林道沿いの風穴状の場所に少数株が生育しているだけである。現地はスギが植林されており、そのうちに被陰されて衰退するおそれがある。

【保全上の留意点】

間伐など、造林地の適切な管理が必要である。また道路を拡幅する際には、特に注意が必要である。

【特記事項】

上部の葉が 3 深裂するのでミツバフウロと呼ばれるが、3 小葉にわかれるわけではない。

【関連文献】

保草本Ⅱp.88、平草本Ⅱp.218。

ビッチュウフウロ *Geranium yoshinoi* Makino

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。本州中西部の固有種で、愛知県は分布域の東限界に近い。県内の生育地も少ない。

【形態】

多年生草本。茎はよく分枝し、高さ 40~70cm になる。葉は対生し、下方のものには長い柄があり、葉身は掌状に 5 深裂し、幅 5~8cm、裂片はさらに 1~2 回 3 出状に切れ込む。托葉は通常合生する。花期は 8~11 月、葉腋から長さ 3~8cm の花柄を出し、その先に 2 個の花をつける。花は淡紅紫色、直径約 2cm、花弁は 5 枚で濃色の脈があり、基部内面に白色の長毛がある。茎の上部、葉柄、花柄には下向きの圧毛がある。果実は長さ約 2cm で、熟すと下方から裂開し、種子をはじき飛ばす。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部（芹沢 56880）、稲武（塚本威彦 2447）。

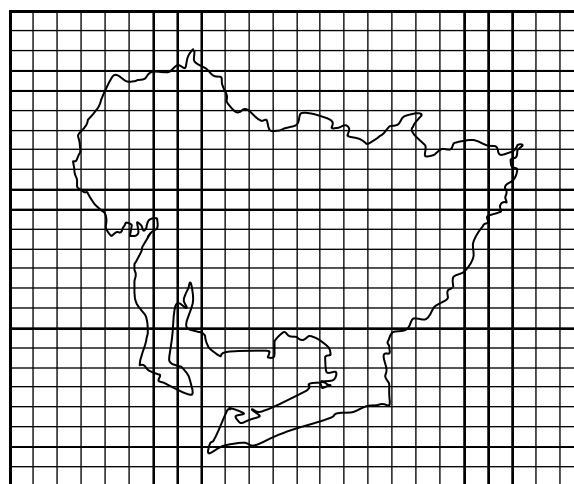
【国内の分布】

本州（長野県南部、東海地方、近畿地方北部、中国地方）。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山中の湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

分布範囲は限られているが、その中では点々と生育している。しかし、森林化の進行に伴い湿地が縮小しており、その影響で本種も衰退傾向にある。

【保全上の留意点】

東三河の山間部に点在する中間湿原は、大規模なものは耕地化、小規模なものは森林化により、著しく減少している。現在残存している場所は、地形を保全すると共に侵入している樹木を除去し、湿原状態を維持する必要がある。その一方で、園芸目的の採取やカメラマン、観察者の踏み荒らしを防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

過去の県内の文献では、タチフウロ *G. kramerii* Franch. et Sav. とされていることがある。タチフウロは山地の草原に多い植物で、愛知県では安城市（油ヶ淵、畔柳英夫 s.n., 1967-9-17）で採集された標本がある。これが真の自生ならば絶滅種であるが、シバなどについて持ち込まれたものである可能性が高いので、今回のリストには掲載しない。

【関連文献】

保草本 II p.90、平草本 II p.220、SOS 旧版 p.61、SOS 新版 p.63,65。

タチバナ *Citrus tachibana* (Makino)C.Tanaka

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。暖地性の樹木で、愛知県は分布の東限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

常緑性の小高木。幹はよく分枝し、高さ 2~6m、枝は緑色で稜があり、太く鋭い刺がある。葉は互生し、葉柄は長さ 4~10mm でごく狭い翼があり、葉身は卵状長楕円形~卵状楕円形、長さ 4~8cm、幅 2~4cm、先端は鈍頭でややへこみ、基部は鋭形、辺縁は全縁または波状の浅い鋸歯があり、無毛で、表面に油点が散在する。花期は 6 月、花は新枝の葉腋に 1 個ずつつき、花弁は 5 枚で白色、長さ 8~10mm である。果実は扁平な球形で直径 2.5~3cm、6~8 室があり、黄色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

知多南部（中井三従美 s.n.）。蒲郡（竹島，加藤等次 s.n., 1951-9-6）、渥美（土田大山，加藤等次 s.n., 1958-1-15）、幡豆（沖ノ島，大原準之助 1289, 1951-9-23）で採集された標本もあり、小林・深谷（2008）によれば沖ノ島には現存するという。

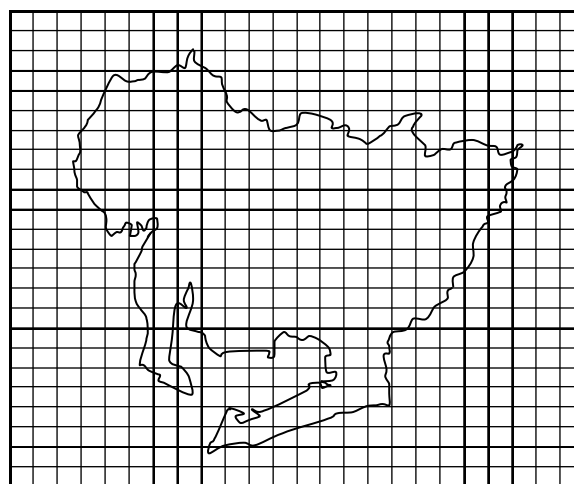
【国内の分布】

本州（愛知県以西）、四国、九州、琉球（南大東島）。

【世界の分布】

日本および台湾に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸近くの常緑広葉樹林内に生育し、しばしば神社などに植栽される。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				○
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

しばしば植栽される植物で、社寺林などにあるものは自生か植栽かよくわからないことが多い。小林・深谷（2008）は、「鳥居喜一氏と加藤等次氏が田原市大山で採集された標本以外、すべて社寺林内で採集されたもので植栽されたのであろう」と述べているが、そのとおりのかもしれない。

【保全上の留意点】

植栽の可能性はあるが、それでも確認された場合は個別的に保全を図るべきである。

【特記事項】

ミカン属の野生種で、属の中では最も北に分布する。

【引用文献】

小林元男・深谷昭登司, 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.243. 佐久島会, 刈谷.

【関連文献】

保木本 I p.318、平木本 I p.283、SOS 旧版 p.62、環境庁 p.482。

ヨコグラノキ *Berchemia berchemiaefolia* (Makino) Koidz.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。分布域は比較的広いが、産地は少なく、希少な樹木である。愛知県では 1 カ所に生育しているだけで、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

落葉性の小高木。高さ 10m くらいになり、枝は紫褐色である。葉は互生し、長さ 6~10mm の柄があり、葉身は披針状長楕円形、長さ 6~13cm、幅 3~5cm、先端は鋭尖頭、基部は狭いくさび形で多少不相称、薄い紙質で全縁、裏面は粉白色をおびる。側脈は鋭角に出て平行する。花期は 6 月、花序は枝先または上部の葉腋につき、集散状で長さ 1~5cm、花は黄色で小さく、直径 3~3.5mm である。果実は狭長楕円形、長さ 7~8mm、黄色から赤色を経て暗赤色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄（小林 61854）。

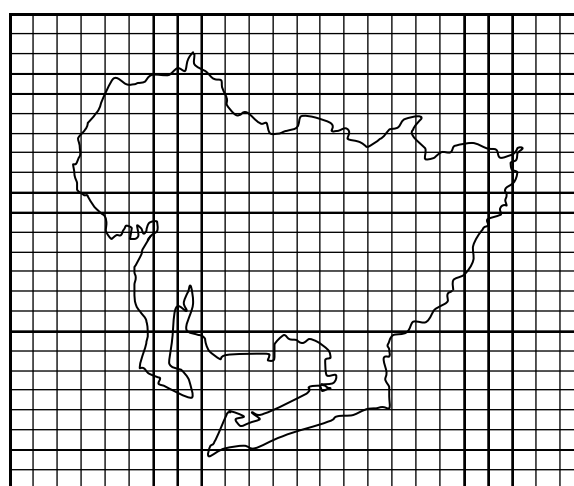
【国内の分布】

本州、四国、九州に点在する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

一般に岩崖地に生育し、特に石灰岩地に多い。愛知県の生育地は安山岩地で、沢沿いの急傾斜地の林内である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

本種としては珍しいまとまった群落で、現在のところよく生育しており、路傍に幼木も見られる。しかし、希少種であることを意識しない伐採によって失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

重要な群落であり、生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

和名は、最初の発見地である高知県横倉山に因む。

【関連文献】

保木本 I p.247、平木本 II p.57。

ケンポナシ *Hovenia dulcis* Thunb.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 1。愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

落葉性の高木。大きいものは高さ 25m に達し、枝は紫褐色である。葉は互生し、長さ 2~5cm の柄があり、葉身は広卵形、長さ 10~20cm、幅 6~14cm、先端は鋭尖頭または短尖頭、基部は全体として広いくさび形~浅い心形であるが最基部はしばしば三角形状に突出し、脈は基部で 3 出し、辺縁にはあらい鋸歯がある。葉の表面は深緑色でやや光沢があり、裏面はほとんど無毛である。花期は 6~7 月、枝先または上部の葉腋に集散状の花序をつけ、花は帯緑白色、直径約 7mm である。果実は球形で直径 7mm 内外、浅く 3 裂し、紫褐色で無毛、花序の枝の先は秋になると肥厚して甘くなり、食べられる。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部 (小林 66622)。1 カ所だけに生育している。

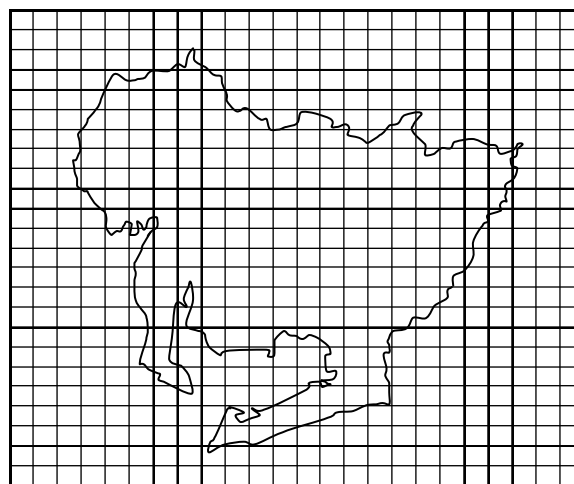
【国内の分布】

北海道 (奥尻島)、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

一般に沢沿いの落葉広葉樹林に生育するが、愛知県の自生地は石灰岩地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

遊歩道に近い場所に 4 株生育しているが、現地状況から判断して自生と思われる。

【保全上の留意点】

豊橋市の石灰岩地は、石巻山以外の場所でも注目すべき植物が多く生育しており、特に保全を要する。本種の場合は個体数が少なく、しかも遊歩道に近い場所に生育しているため、不用意に伐採されないよう、特に注意が必要である。

【特記事項】

過去の愛知県の植物に関する文献では本種の名が散見されるが、愛知県のケンポナシ類はほとんどが葉裏に褐色の毛があり、葉縁の鋸歯が不明瞭なケンポナシ *H. tomentella* (Makino) Nakai である。

【関連文献】

保木本 I p.244、平木本 II p.53。

オオタチツボスミレ *Viola kusanoana* Makino

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。日本海系の植物で、愛知県は太平洋側の分布の限界にあたる。県内では生育地が極めて少ない。

【形態】

一部常緑性の多年生草本。茎は数本束生し、花時に高さ 20~30cm、果期には高さ 40cm に達する。葉は束生するか茎上に互生し、下部の葉には長い柄があり、上部の葉は柄が短くなり、葉身は円心形、長さ幅ともに 3~6cm、先端は下部の葉は鈍頭、上部の葉は短くとがり、基部は心形、辺縁には低い鋸歯がある。花期は 4~5 月、花柄はふつつ根生せず葉腋から出るのみで、先端に 1 個の花をつける。花はやや大きく、淡紫色、花弁は 5 枚で長さ 15~18mm、側弁は無毛、距はほとんど白色で、長さ 6~8mm である。初夏以降に閉鎖花をつける。

【分布の概要】

【県内の分布】

小牧（日比野修 5090）。1 カ所に小群落がある。

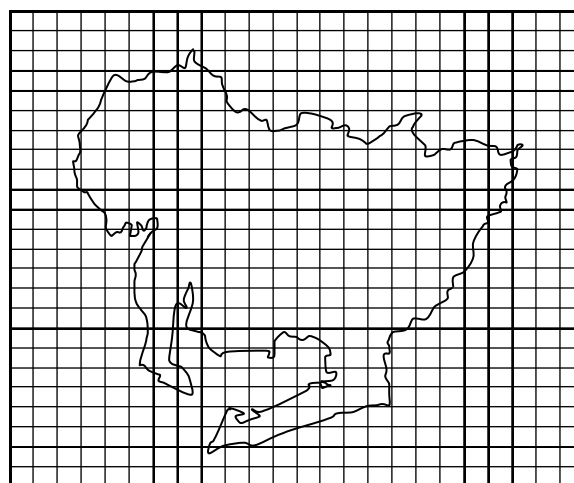
【国内の分布】

北海道、本州、九州北部に生育し、日本海側に多い。岐阜県美濃地方北部の山地には比較的多く見られる。

【世界の分布】

サハリン、日本、朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地や山地の沢沿いの林縁に生育する。愛知県の生育地はアカマツ・コナラ林内である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育範囲は狭く、しかも砂防工事により、群落の相当部分が失われた。自生地はゴルフ場の駐車場に隣接しており、駐車場の拡張があれば消滅は必至である。

【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

タチツボスミレに似ているが、葉が大きくて丸く、花の距が白い。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.55、平草本Ⅱ p.250。

シロスミレ *Viola patrinii* DC.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。大陸系の植物で、ホソバシロスミレ var. *angustifolia* Regel を区別すれば愛知県は分布域の南限になる。県内では生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地上茎はなく、葉は少数が束生してほぼ直立し、葉柄は葉身より長く、上部に狭い翼がある。葉身は3角状披針形～長楕円状披針形、長さ2.5～7cm、先端は鈍頭、基部は切形、辺縁には低い鋸歯がある。花期は4～6月、花柄は高さ7～15cmで、先端に1個の白色の花をつけ、花弁は5枚、長さ10～13mm、側弁には毛があり、唇弁には紫条がある。距は短く、長さ3～4mmである。

【分布の概要】

【県内の分布】

津具（鈴木 学 1186）。設楽（区画不明）からも記録されている（小林, 2006）。

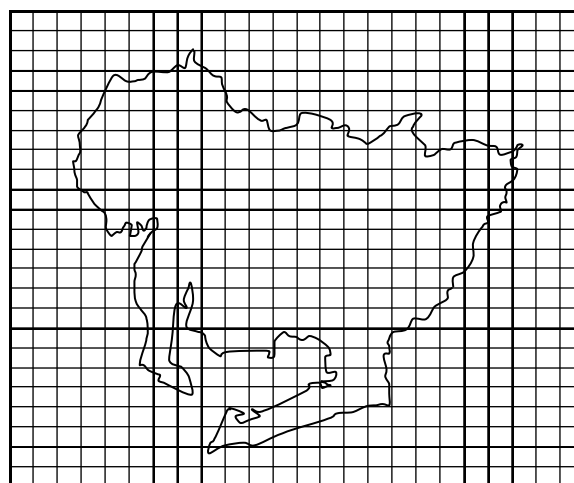
【国内の分布】

北海道および本州（中部地方以北）。本州（近畿地方以西）、四国、九州のものは、ホソバシロスミレとして区別されることが多い。

【世界の分布】

千島列島南部、サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、シベリア。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の日当たりのよい草地に生育する。愛知県の自生地は、明るい落葉広葉樹林内である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

津具では1カ所に小群落があるだけで、低木が繁茂し衰退傾向にある。一時絶滅ではないかと心配されたが、ごく少数が残存しているという。設楽では草地状の尾根筋に約20株の群落があるという。

【保全上の留意点】

低木を刈り取り、自生地の光条件を維持する必要がある。

【特記事項】

県内の過去の文献では、しばしばアリアケスミレが本種として報告されているので、注意を要する。

【引用文献】

小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.60, 171. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅱ p.58、平草本Ⅱ p.245、SOS 旧版 p.65.

スミレサイシン *Viola vaginata* Maxim.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 2。日本海系の植物で、愛知県は分布の太平洋側の限界にあたる。県内では生育地が極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地上茎はなく、葉は少数が束生し、果期には 15cm に達する長い柄がある。葉身は円心形、長さ 5～14cm で日本産のスミレ類の中では最も大きく、先端は鋭尖頭、基部は心形、辺縁には低い鋸歯がある。花期は一般に 4～6 月だが愛知県では 3 月、花柄は長さ 10～15cm で、先端に 1 個の淡紫色の花をつけ、花弁は 5 枚、長さ 10～15mm、側弁は無毛、唇弁には紫条がある。距は太くて短く、長さ 4～5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

瀬戸尾張旭（芹沢 74426）。1 カ所に小群落がある。

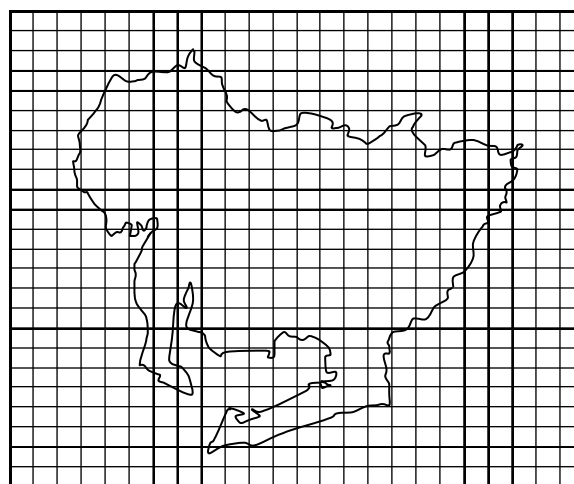
【国内の分布】

北海道（西南部）および本州（主として日本海側）。岐阜県美濃地方北部の山地には比較的多く見られる。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

一般に山地の沢沿いの林床や林縁に生育する。愛知県の生育地は丘陵地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

自生地は道路の建設により消滅しそうであったが、計画が頓挫して難を逃れた。現在では県の自然環境保全地域として保全されている。狭い範囲に本種としては異常なほどの高密度で生育していたが、タケノコ掘り（人間かイノシシかはよくわからない）の影響を受けて激減した。現在はとりあえず柵で囲い、注意を喚起している。ただしこの場所は、明らかに一時水田として利用されたことがある場所で、本種の永続的な自生地ではないと思われる。

【保全上の留意点】

現在の自生地を保全することも重要であるが、それと共に自然地形下にある本来の自生地を探索する必要がある。

【特記事項】

遺伝的には、調べた限りでは全く変異の検出されない集団であることが確認されている。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.57、平草本Ⅱ p.249、SOS 旧版 p.65、SOS 新版 p.75,77。

ヒメビシ *Trapa incisa* Sieb. et Zucc.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい水草で、愛知県でも生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

1 年生の浮葉性水草。茎は地中から長く伸びて水面に達し、節から羽状に分裂した根状の沈水葉を出す。浮水葉は茎の先端に放射状に叢生し、葉柄は長さ 0.5~5cm、中央部は長楕円状にふくらみ、浮きぶくろとなり、葉身は広卵状ひし形、幅 1~2cm、上部の辺縁はあらい欠刻状の鋸歯となり、裏面の脈上にはまばらに毛がある。花期は 7~10 月、花は葉腋から出た柄の先に 1 個ずつつき、淡紅色、直径 6~8mm、果実は石果で倒 3 角形、幅約 20mm、4 個の刺がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊田東部 (畑佐武司 6491)。

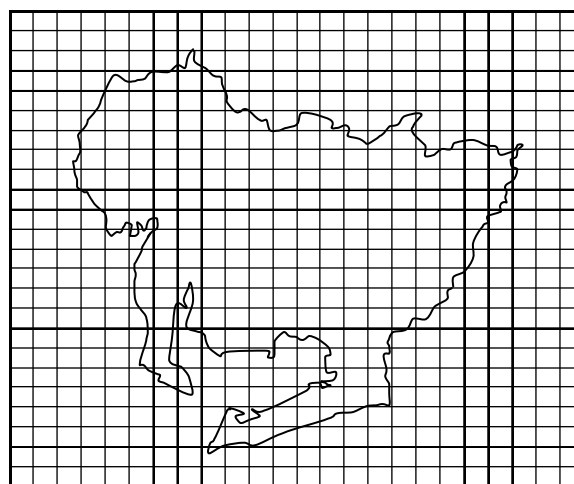
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸東北部、ウズリー。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

平野部や丘陵地の池沼に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○		

【現在の生育状況 / 減少の要因】

3 カ所のため池で確認されているだけである。ヒシ属は水草の中では比較的汚染に耐性があるが、本種だけは汚染に弱いらしく、全国的に減少傾向が著しい。愛知県においてもかつては点在していたと思われるが、標本は残されていない。過去の記録はコオニビシと混同している可能性があり、再検討が必要である。

【保全上の留意点】

生育地のため池の改修を避け、水質を保全することが必要である。

【特記事項】

ヒシ *T. japonica* Flerov. とされている植物の中にも、葉形が本種に似たものがある。日本産のヒシ属については、分類学的な再検討が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.45、平草本Ⅱ p.262、環境庁 p.492。
角野康郎,1994. 日本水草図鑑 p.129. 文一総合出版, 東京。

ミシマサイコ *Bupleurum scorzoneraefolium* Willd. var. *stenophyllum* Nakai

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい大陸系の草地性植物で、愛知県でも同様の状況である。

【形態】

多年生草本。茎は上部で分枝し、高さ 30～70cm になる。葉は根出するか互生し、根出葉には長い柄があるが茎葉は無柄、葉身は単葉で狭披針形～線形、長さ 4～15cm、幅 0.5～15mm、硬く全縁で平行脈がある。花期は 8～10 月、花序は複散形で小形、枝の先端につき、花は黄色で小花序に 5～10 個つく。果実は球形で、熟すと褐色となる。

【分布の概要】

【県内の分布】

新城（芹沢 60109）、豊橋北部（芹沢 67031）、田原赤羽根（芹沢 53019）、渥美（小林 48362）。幡豆（吉良町宮崎、岡田 速 43, 1991-8-24）にもあったが絶滅した。鳳来南部（吉川峠、鳥居喜一 3604, 1970-9-6, HNSM）で採集された標本もある。

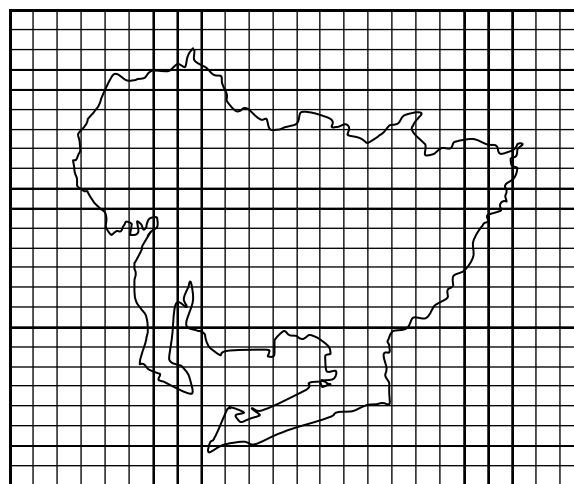
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。基準変種はサハリン、アムール、ウスリー、シベリア東部、中国大陸東北部、モンゴルに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

日当たりのよい草地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、どの場所でも個体数は少なく、しかも採草地の減少や超塩基性岩地の森林化の進行により減少傾向にある。幡豆（吉良町岡田）では、草地に大形の草本が密生し、見られなくなった。愛知県の場合、薬用目的の採取は減少の主要な要因というほどではない。

【保全上の留意点】

愛知県の蛇紋岩地、はんれい岩地は、本種を含めて多くの草地性植物の生育地になっているが、採草地としての利用の停止に伴い、全体的に森林化が進行している。草刈りや火入れを行い、草地状態を維持する必要がある。

【特記事項】

漢方では根を解熱剤として用いる。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.8、平草本Ⅱ p.280、SOS 旧版 p.67、環境庁 p.497。

ボタンボウフウ *Peucedanum japonicum* Thunb.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 1。海浜性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。茎は分枝して、高さ 60～100cm となる。葉は根生するか茎上に互生し、長い柄があり、葉身は 3 出葉か 1～2 回 3 出複葉、小葉は倒卵状くさび形、先端は 2～3 裂し、全縁または先端部だけに少数の鋸歯があり、無毛で蒼白色をおびる。花期は 7～9 月、花序は複散形で枝の先端につき、直径 4～10cm で、白色の花をつける。果実は楕円形で長さ 4～6mm、表面には短毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

知多南部（高木順夫 10996）。1 カ所に小群落がある。

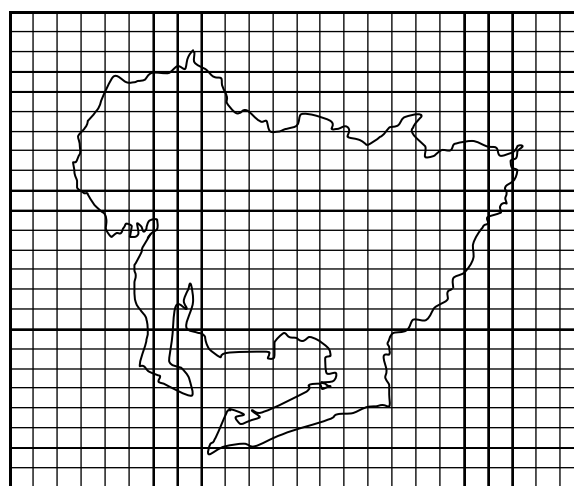
【国内の分布】

本州（関東地方南部および石川県以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、台湾、中国大陸、フィリピン。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸の草地、崖状地などに生育する。愛知県の生育地は林縁である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育範囲は狭く、個体数は少なく、しかも周辺に草木が茂っているため、開花する個体はほとんどない。観光開発により生育地のすぐそばまで土地が削られ、危機的な状況である。

【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

和名は、白緑色の葉がボタンに似ているからである。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.30、平草本Ⅱ p.290、SOS 新版 p.146,148。

イワカガミ *Schizocodon soldanelloides* Sieb. et Zucc.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。愛知県では希少な温帯性の植物で、県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

常緑性の多年生草本。茎は細く地上をはい、先端に数枚の葉を束生する。葉は長い柄があり、葉身は円形、長さ幅ともに 3~6cm、辺縁にはとがった鋸歯がある。花期は 4~7 月、葉の間から高さ 8~15cm の花茎を伸ばし、先端に 3~10 個の花をつける。花は紅紫色で直径 1~1.5cm、花冠は漏斗形で 5 裂し、辺縁は細かく裂ける。果実は球形で、直径 3~4mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根 (小林 37265)、津具 (小林 52605)。

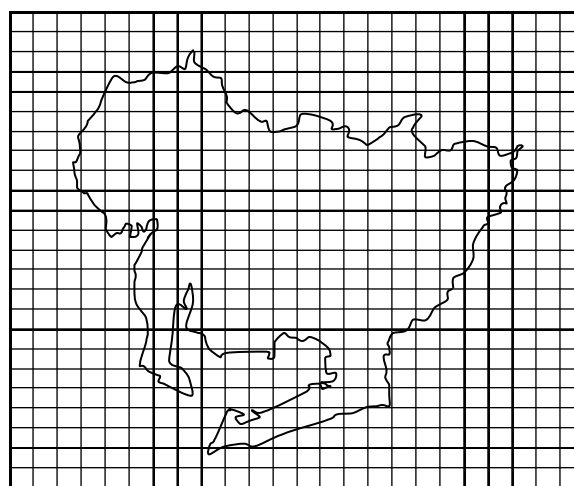
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州の山地の岩場や高山に生育する。

【世界の分布】

日本固有。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の岩場や高山の草地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

小さな岩場に少数株が生育しているだけで、しかも「ほとんどが葉柄のみで食害されていた。……ニホンカモシカによると推定された。このままでは数年のうちに衰退・絶滅する可能性が高い」と報告されている (小林, 2006)。近くを遊歩道が通っているため、園芸目的で採取されるおそれもある。

【保全上の留意点】

個体数調整など、草食獣の増加に対する対策が必要である。愛知県の場合は、鈴鹿山脈や大台ヶ原山に比較すればまだ被害が少なく、早く手をうてばうつつほど労力の割に効果的な対策が可能である。

【特記事項】

葉の先端が丸く、辺縁の鋸歯が小さいことが特徴である。愛知県のイワカガミ類は大部分がヤマイワカガミ系のものであるが、変異が大きく、分類学的な再検討が必要である。

【引用文献】

小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.61. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本 I p.240、平草本 III p.1、SOS 旧版 p.67.

ベニバナイチャクソウ *Pyrola incarnata* Fisch.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。温帯性の植物で、愛知県は分布域の南限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生草本。長い地下茎がある。葉は 3～5 個束生し、3～5cm の柄があり、葉身は円形または広楕円形、長さ 3～4.5cm、幅 2～3.5cm、先端は円～鈍頭、辺縁には目立たない細かな鋸歯があり、表面に光沢がある。花期は 6～8 月、高さ 15～25cm の花茎を伸ばし、その上部に 8～15 個の花を総状につける。花茎は帯紅色で、1～3 枚の鱗片葉がある。花は肉紅色で直径 12～15mm、がく片は広披針形または狭卵形で長さ 2～3mm である。花柱は湾曲する。果実は蒴果で、直径約 7mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山 (小林 45279)、豊根 (小林 37465)。愛知県では東北端に僅かに見られるだけである。

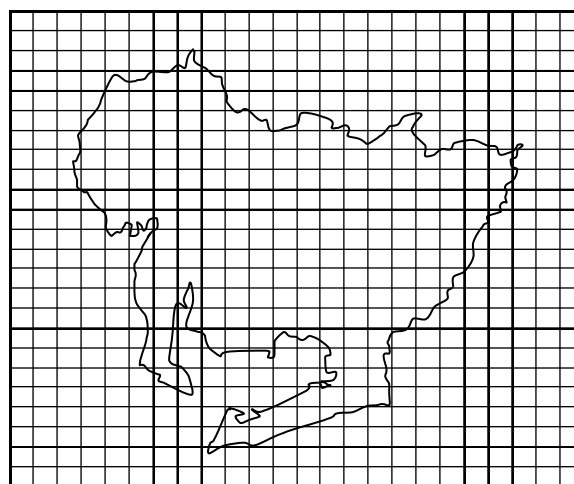
【国内の分布】

北海道および本州 (中部地方以北) に生育する。長野県まで行けば普通に見られる植物である。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、シベリア、カムチャッカ、アラスカ。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林内に生じ、通常群生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

2 区画の各 1 カ所に小群落があるだけで、生育状態もあまりよくない。小林 (2006) は「……最近見られなくなってしまった。おそらくニホンジカの食害によるものと思われる」と述べている。

【保全上の留意点】

個体数調整など、草食獣の増加に対する対策が必要である。愛知県の場合は、鈴鹿山脈や大台ヶ原山に比較すればまだ被害が少なく、早く手をうてばうつつほど労力の割に効果的な対策が可能である。

【引用文献】

小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.61. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本 I p.237、平草本 III p.5.

イワナシ *Epigaea asiatica* Maxim.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。日本海系の植物で、愛知県では生育地も個体数も少なく、しかも人為的影響を受けやすい場所に生育している。

【形態】

常緑性の小低木。茎は地上をはって広がり、長さ 10~25cm になる。葉は互生し、短い柄があり、葉身は卵形、長さ 4~10cm、幅 2~4cm、先端は鋭頭、やや革質で、辺縁にあら毛が生える。花期は一般的には 5~6 月であるが愛知県では 3 月下旬、枝先に総状花序をつくり、3~8 個の花をつける。花は淡紅色、花冠は筒状で長さ約 1cm、先端は 5 裂して広がる。果実は直径約 1cm、緑色または赤褐色を帯びた薄い果皮に包まれて、白色の水気の多い果肉がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

小牧 (塚本威彦 2592)、春日井 (山田果与乃 98)。犬山 (秋山葉子 116, 1994-3-21) にもあったが、現地では最近確認できないという。

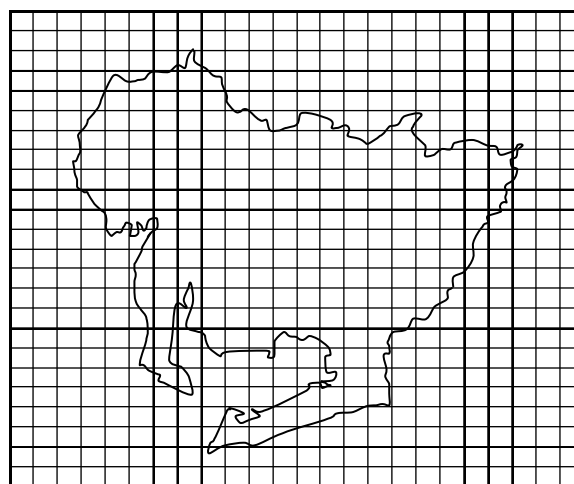
【国内の分布】

北海道西南部と本州の、主として日本海側に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

一般に山地の林縁の斜面などに生育するが、愛知県の生育地はやせた丘陵地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地は限られており、個体数も極めて少ない。開発や園芸目的の採取により、減少傾向にある。

【保全上の留意点】

やせ山状態を維持することが必要である。園芸目的の採取を防止するため、保護されている場所以外では分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、果実の味がナシに似ているからである。彩色画はレッドデータブックあいち 2001 植物編 図版 5 に掲載されている。

【関連文献】

保木本 I p.140、平草本 III p.11、SOS 旧版 p.68、SOS 新版 p.87,89。

ジングウツツジ *Rhododendron sanctum* Nakai

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 4。東海地方の蛇紋岩地を代表する固有種で、愛知県では生育地が少ない。

【形態】

落葉性の低木。高さ 2~4m になる。葉は枝先に 3 枚輪生し、長さ 5mm 程度の柄があり、葉身は卵円形~ひし状円形、長さ 4~7cm、幅 3~6cm、先端は短くとがり、基部は円形または鈍形、やや厚くて表面に光沢があり、辺縁は全縁である。花期は 5 月中旬~6 月上旬、新葉が展開した後に開花し、1 個の花芽から 2~3 個の花が咲く。花冠は紅紫色で上側内面に濃色の斑点があり、漏斗形で 5 中裂し、直径 3~4cm、花柱は無毛のものが多く、有毛のものもある。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来南部(芹沢 54970)、新城(小林 56995)。

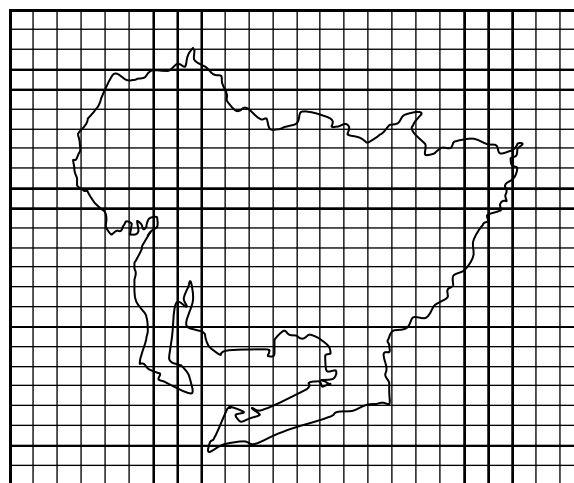
【国内の分布】

本州中部(静岡県西部、愛知県、三重県)。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

蛇紋岩地の疎林に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

成木はあるが幼木は少なく、周辺の樹木の生長に伴い衰退傾向にある。園芸目的の採取も深刻で、盗掘して販売している人もいる。

【保全上の留意点】

疎林に生育する植物なので、適度に伐採等を行い、森林化の進行を抑える必要がある。生育地は比較的良好に知られている場所であるが、それでもこれ以上の園芸目的の採取を助長しないよう、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

ミツバツツジの類であるが、花は葉が展開してから咲く。シブカワツツジ var. *lasiogynum* Nakai ex Sugim. は花柱に毛がある型と考えれば、愛知県にはジングウツツジもシブカワツツジもある。しかし、「日本の野生植物」木本編Ⅱのように枝は上に伸びる傾向が強くてほうき状の樹形になり、葉はやや大きく、中部よりやや下で最も幅広くなり、辺縁があまり巻かないものをシブカワツツジとするならば、狭義のジングウツツジは三重県に固有で、愛知県と静岡県のものは全てシブカワツツジになる。環境省のレッドリストではこの見解に従って評価が行われているが、こうするとジングウツツジとシブカワツツジが区別できるかどうかはかなり疑わしい。

【関連文献】

保木本Ⅰ p.156、平木本Ⅱ p.138、SOS 旧版 p.68+図版 11、環境庁 p.322、SOS 新版 p.58,60。

トウサワトラノオ *Lysimachia candida* Lindl.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 2。日本国内では希少な植物である。県内では生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

越年生草本。茎は上方で少数の枝を分け、高さ 30~60cm になる。葉は互生し、葉身は倒披針形~へら形、長さ 2~4cm、幅 5~8mm、先端は鋭頭~鈍頭、辺縁は全縁、基部は狭まって短い柄となる。花期は 4~5 月、茎の先端の枝先に総状花序を伸ばし、多数の花をつける。花は長さ 12~18mm の柄があり、花冠は白色で 5 裂し、長さ 8~10mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川宝飯 (永田芳男 s.n.)。

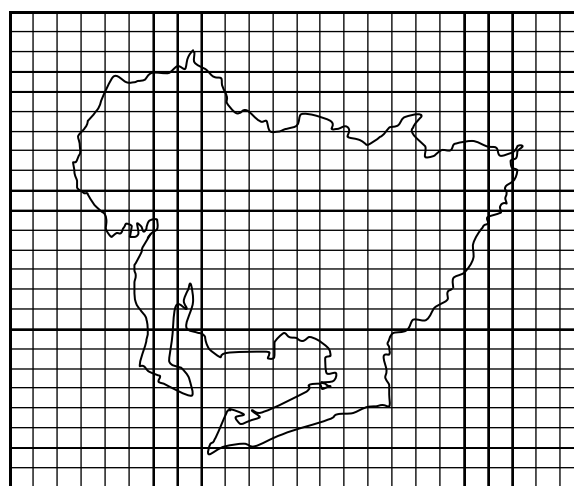
【国内の分布】

本州 (関東地方北部および愛知県) に稀に生育する。ただし、既知の生育地はいずれも自然度の高い場所ではなく、本種の永続的な自生地ではないと思われる。本種は、日本ではもともと大陸から偶発的に入ってくるだけの種かもしれない。

【世界の分布】

日本および中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

愛知県の生育地は、山すその水田わきの土手や休耕田である。一般に多年生草本とされているが、地下茎は発達せず、越年生と判断される。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

1989 年に生育を確認して以来細々と存続していたが、2002 年に突然 1 枚の休耕田に 300 株ほどの大群落が出現した (永田 2003、写真も掲載されている)。しかしこの場所でもその後激減し、現在ではやはり細々と存続しているに過ぎない。

【保全上の留意点】

生育地の直接的な改変を避けることはもちろんであるが、それでも現地の状況から見て、永続的な保全は難しい。本種については、人為的な系統保存を考慮する必要がある。

【特記事項】

一般にサワトラノオ *L. leucantha* Miq. と比較されることが多いが、実際の見かけはサワトラノオとはかなり異なり、むしろ草むらに生えたハマボッスという感じの植物である。

【引用文献】

永田芳男 (写真), 2003. 絶滅危惧植物図鑑レッドデータプランツ p.187. 山と溪谷社, 東京.

【関連文献】

平草本Ⅲ p.19、SOS 旧版 p.69、環境庁 p.153.

シロバイ *Symplocos lancifolia* Sieb. et Zucc.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。西日本系の樹木で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

常緑性の小高木。高さ 7~8m になり、枝は細く暗灰褐色である。葉は互生し、長さ 2~4mm の柄があり、葉身は披針形~卵状披針形、長さ 4~6cm、幅 1.5~3cm、両端は尖り、辺縁にはごく低い鋸歯がある。花期は 8~10 月、花序は上部の葉腋から出て、穂状で長さ 1~3cm、花は無柄で花序の基部からつく。花冠は 5 裂して平開し、白色、直径約 6mm である。果実は倒卵状球形、黒熟し、長さ 5~6mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

額田 (小林 54985)。1 カ所に生育しているだけである。

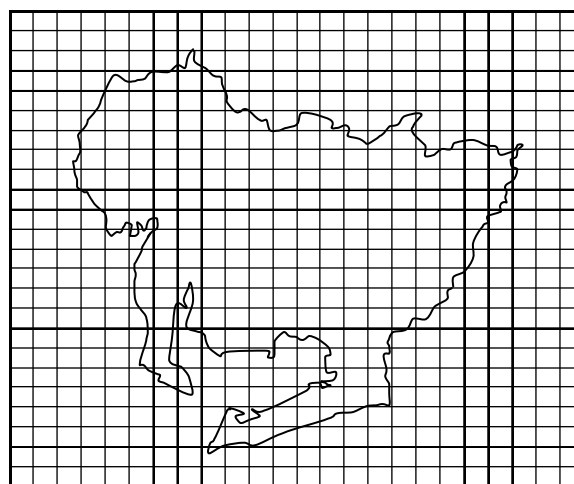
【国内の分布】

本州 (愛知県以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

暖地の照葉樹二次林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

ごく狭い範囲に、十数株がまとまって生育している。最大のものは、胸高直径 15cm ほどである。よく生育しているが、寺院の近くであり、開発等により林が伐採されれば消滅する。

【保全上の留意点】

生育地の林を保全することが必要である。

【特記事項】

和名は枝の色が明るいからで、クロバイに対する名である。

【関連文献】

保木本 I p.97、平木本 II p.173、SOS 旧版 p.70。

ヒトツバタゴ *Chionanthus retusus* Lindl. et Paxton

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 1、固有度階級 4。本地域に著しい隔離分布をする植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。シデコブシ、ハナノキと共に、伊勢湾周辺の湿地を代表する樹木である。

【形態】

落葉性の高木。高さ 30m、直径約 70cm に達する。枝は灰褐色で、若い時は通常有毛である。葉は対生し、長さ 1.5～3cm の柄があり、葉身は長楕円形～広卵形、長さ 4～10cm、辺縁は全縁である。ただし若木の葉は細鋸歯または重鋸歯が現れ、長さ 15cm、幅 8cm に達することがある。花期は 5 月、雌雄異株で、新枝に長さ 7～12cm の円錐花序を頂生する。花冠は白色で 4 裂し、裂片は線状倒披針形、長さ 1.5～2cm である。果実は楕円形、黒熟し、長さ約 1cm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

瀬戸尾張旭（芹沢 54787）、犬山（塚本威彦 2779）。

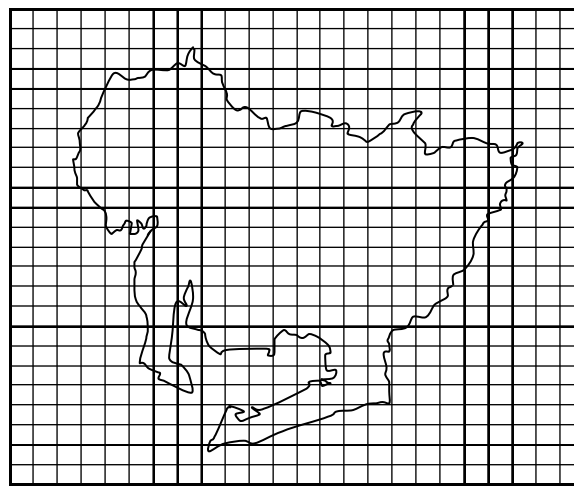
【国内の分布】

本州中部（長野県、岐阜県、愛知県の一部）および九州（対馬）に生育する。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島、中国大陸の一部に隔離的に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

本州中部では沢沿いの湧水がある場所のまわりに生育していることが多いが、対馬の自生地は海岸の崖地である。瀬戸尾張旭の現存する自生地も、川沿いの急傾斜地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

犬山市池野の自生地は数株がまとまって生育しており、国の天然記念物に指定されている。八曾のヒノキ林内にも少数が点在しているが、ほとんどは被陰されて衰退している。瀬戸尾張旭では瀬戸市内田町にも 1 株生育していた（標本：芹沢 54781, 1990-5-12）が、この場所は宅地造成のため破壊された。

【保全上の留意点】

岐阜県東濃地方ではまだ点在しているが、愛知県では個体数が少なく、個別的な保全が必要である。瀬戸市内田町の場合、株は瀬戸市野外活動センターに移植された。しかし、本来の自生地から離された個体は、それ自体は生存できても、後継樹を作ることができない。移植は、緊急避難や保険的措置としての意味はあっても、本来保全策にはならないものである。

【特記事項】

本地域では「なんじゃもんじゃの木」と呼ばれ、昔から注目されている。

【関連文献】

保木本 I p.77、平木本 II p.179、SOS 旧版 p.70+図版 16、環境庁 p.510、SOS 新版 p.103,105。

トネリコ *Fraxinus japonica* Blume

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。温帯性の樹木で、愛知県は分布域の南限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

落葉性の高木。高さ 15m、直径 60cm 以上に達する。葉は対生し、奇数羽状複葉、葉柄の上面上には多少縮れた毛がある。小葉は 5~7 個、広卵形~長楕円形、長さ 5~15cm、幅 3~6cm、先端は急鋭頭、辺縁には鋸歯があり、基部はゆがんだ広くさび形またはやや円形で、長さ 5~10mm の小葉柄がある。花期は 4~5 月、雌雄異株で、新枝の先端に円錐花序をつけ、花には花冠がない。翼果は倒披針形、長さ 3~4cm、幅 6~7mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部(芹沢 77557)、稲武(芹沢 82855)。

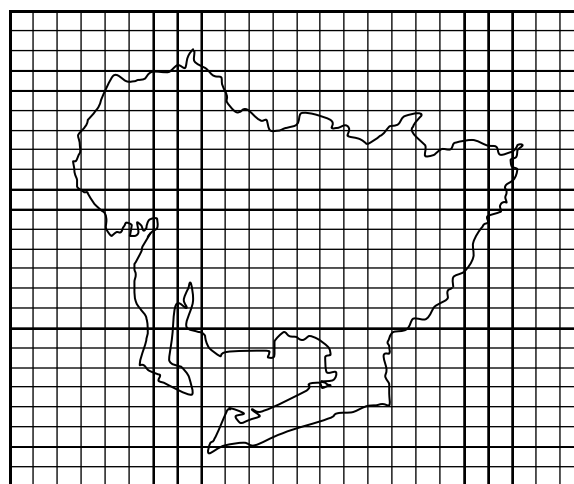
【国内の分布】

本州 (中部地方以北)。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山間部の川岸や湿地周辺に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

稲武では、川に沿って十数株が生育しており、よく開花・結実する。現地は自然地形が維持されており、また当面は開発等が想定されにくい場所であるが、伐採の危険はある。設楽西部では、個体数は少なく、しかも現在見られるのは幼木だけである。過去の状況はよくわからないが、本種が生育するような山間部の湿地は第二次世界大戦後の耕地化によって激減し、更に比較的近年の耕地整理によって残存していた部分も削られて、現在に至っている。

【保全上の留意点】

稲武のものは重要な群落であり、個別的な保全が必要である。希少種であることを意識しない伐採によって失われるおそれがあるので、特に注意が必要である。

【特記事項】

地方によっては、稲架木として水田周辺に 1 列に植栽されることがある。

【関連文献】

保木本 I p.91、平木本 II p.177。

ヒメシロアサザ *Nymphoides coreana* (Lev.)H.Hara

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい水草で、愛知県でも生育地が極めて少ない。

【形態】

多年生の水草。茎は細くて長く、1~3個の葉をつける。葉柄は茎と接続して長さ1~10cm、葉身は水面に浮かび、卵状円形で直径2~6cm、基部は深く湾入し、辺縁は全縁である。花期は7~9月、花は葉柄の基部に束生するが、茎と葉柄が似ているため葉柄の途中につくように見え、花冠は白色で直径約8mm、5裂し、裂片の縁に毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川宝飯（加藤等次 3838）、豊橋北部（小林 57787）。

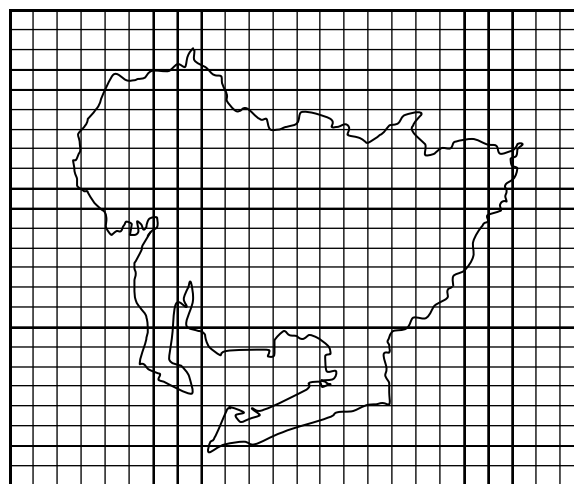
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球（石垣島、西表島）。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

池沼や水田に生育する浮葉植物。愛知県の生育地は水田である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	

【現在の生育状況 / 減少の要因】

休耕田や耕作中の水田に生育しているが、個体数は年による変動が著しい。農地改良によって乾田化が進み、また水稻耕作様式の変化によって早目に水を落とすようになったため、生育状態はあまりよくない。

【保全上の留意点】

湿地は、耕作が大変で機械化も困難なので、行政としては今までなるべく消失させるよう努力してきた。しかし、その努力は、一方でそのような環境に住んでいる生物の生活の場を奪い、生物多様性の減少を招いている。住民の利益と生物多様性の保全をどう調和させるかは、今後の重要な課題である。本種が生育できるような湿地は、過去の稲作様式を示す文化遺産としても重要である。

【特記事項】

日本産本属 3 種の中では最も小型で、他の 2 種と異なり、水田雑草になることがある。

【関連文献】

保草本 I p.213、平草本 III p.37、SOS 旧版 p.72、環境庁 p.513、SOS 新版 p.142,144。
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.141. 文一総合出版, 東京。

アサザ *Nymphoides peltata* (Gmel.) O.Kuntze

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい水草で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生の水草。根茎は泥の中を長くはい、長い水中茎を出す。葉は長い柄があり、葉身は水面に浮かび、卵形または円形、直径 5~10cm、辺縁には通常波状の歯牙があり、表面は緑色、裏面は紫褐色、基部は深く湾入し、葉柄はやや楕状につく。花期は 6~8 月、花は水上に出て開き、長さ 3~12cm の柄があり、花冠は黄色で直径 3~4cm であるが、愛知県ではまだ開花が確認されていない。

【分布の概要】

【県内の分布】

海部南部（芹沢 81746）。1 カ所に生育しているだけである。

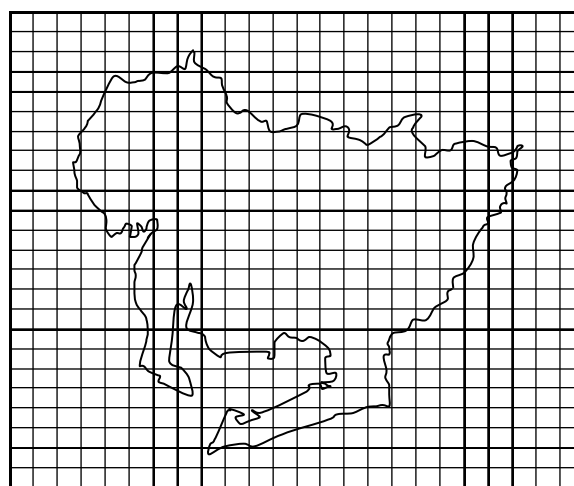
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

ユーラシアの温帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

平野部の池沼に生育する浮葉植物である。愛知県では流れのゆるい水路に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	

【現在の生育状況 / 減少の要因】

範囲は限られているが、そこでは比較的繁茂している。過去には水の汚染等によって激減したと思われるが、近年に限れば多少回復傾向にある。

【保全上の留意点】

生育地の水質の維持に努めることが必要である。水面に浮かぶ邪魔な草と思われる可能性もあるので、保全上重要な植物であることを多くの人に知ってもらうための施策も必要である。

【関連文献】

保草本 I p.213、平草本 III p.36、SOS 旧版 p.72、環境庁 p514。
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.140. 文一総合出版, 東京.